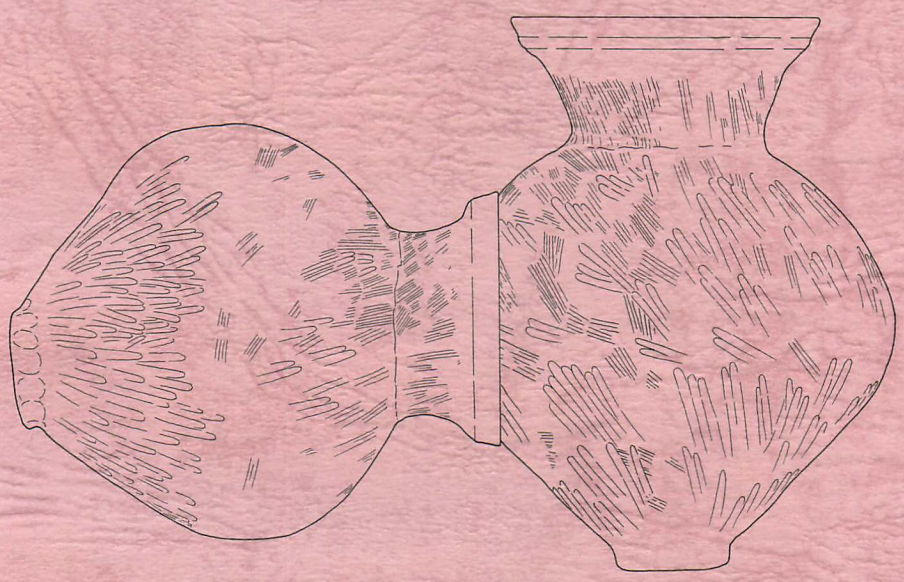
# 粟生シモデ遺跡

羽咋市立粟ノ保小学校改築事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2002・3

石川県羽咋市教育委員会

# 粟生シモデ遺跡

羽咋市立粟ノ保小学校改築事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

２００２・３

石川県羽咋市教育委員会

粟生シモデ遺跡周辺俯瞰

SK15出土の土器

玉造り関連石製品

# 目　　次

例　　言

第１章　遺跡の環境

第１節　地理的環境 …… 1

第２節　歴史的環境 …… 3

第２章　調査の経緯と経過

第１節　調査の経緯 …… 5

第２節　調査の経過（日誌抄） …… 7

第３章　遺構と遺物

第１節　調査区の概要 …… 9

第２節　各遺構と遺物 …… 9

第４章　まとめ …… 36

## 挿　図　目　次


頁

第１図　位置と地形概念図（S=1/125,000）…… 1
第２図　周辺遺跡分布図（S=1/25,000）…… 2
第３図　兵庫オクヤマデ遺跡出土遺物（S=1/3）…… 4
第４図　調査区位置図（S=1/5,000）…… 5
第５図　分布調査トレンチ位置図（S=1/1,500）…… 6
第６図　分布調査トレンチ土層深度図 …… 6
第７図　調査区全体図・区割図（S=1/150）…… 10
第８図　土層断面図１（S=1/60）…… 11
第９図　土層断面図２（S=1/60）…… 12
第10図　各遺構平面図・断面図１（S=1/60）…… 14
第11図　各遺構平面図・断面図２（S=1/60）…… 15
第12図　各遺構平面図・断面図３（S=1/60）…… 16
第13図　各遺構平面図・断面図４（S=1/60）…… 18
第14図　各遺構平面図・断面図５（S=1/60）…… 20
第15図　SK04・07・08・10・20出土遺物（S=1/3）…… 22
第16図　SK15・19出土遺物（S=1/3）…… 23
第17図　SD01出土遺物（S=1/3、1/2）…… 24
第18図　SD01内側平坦面出土遺物（S=1/1、1/2）…… 25
第19図　SD02、Pit1・5・8出土遺物（S=1/3）…… 26
第20図　SX01出土遺物（S=1/3）…… 27
第21図　SX01・02・03出土遺物（S=1/3）…… 28
第22図　SK06、SX01出土鉄製品（S=1/2）…… 29
第23図　包含層出土遺物１（S=1/3）…… 30
第24図　包含層出土遺物２（S=1/3）…… 31
第25図　包含層出土遺物３（S=1/3）…… 32
第26図　包含層出土遺物４（S=1/3）…… 33
第27図　包含層出土遺物５（S=1/3）…… 34
第28図　包含層及びSK19出土石製品（S=1/2）…… 35


## 表　目　次


頁

遺跡地名表 …… 2
粟生シモデ遺跡出土石製品観察表 …… 25
粟生シモデ遺跡出土金属製品観察表 …… 29
粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅰ …… 37
粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅱ …… 38
粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅲ …… 39
粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅳ …… 40
粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅴ …… 41
粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅵ …… 42

# 例　　言

1．本書は石川県羽咋市粟生町に所在する「粟生シモデ遺跡」の発掘調査報告書である。

2．本発掘調査は、羽咋市立粟ノ保小学校改築事業に伴うもので、羽咋市教育委員会文化財室が羽咋市教育委員会学校教育課と協議し予算措置は文化財室で行った。

3．現地調査は、羽咋市教育委員会文化財室職員の協力のもと、同室主査出口成治（現　体育課主任）、同室主事小林直樹が担当した。また、庶務と調整は同室次長谷内碩央（現　参事兼室長心得）、同室主幹中谷充久（現　税務課主幹）があたった。

4．現地調査は以下の期間において実施した。

平成12年10月5日～平成12年11月30日

5．出土遺物の整理及び報告書作成に必要な記録資料の整理にあたっては平成12、13年度に実施し、遺物の洗浄・記名・接合・実測・トレースは同室主事牧山直樹の指導のもと、能山真登加・古池理恵子・山田ゆかが行った。また、金属製品については実測・トレースを㈶石川県埋蔵文化財センター主事林大智氏にお願いした。

6．本書の執筆は第１章の２を宮下、第３章の遺物を牧山、それ以外を小林が行い、編集は小林が行った。

7．本書の遺構・遺物の表示は次のとおりである。

(1) 方位はすべて磁北を示している。

(2) 高さは海抜高を基準とした。

(3) 挿図の縮尺は図内に表示した。

(4) 写真図版中の遺物番号は挿図番号と符合する。

(5) 遺構には下記の分類記号をつけ、それぞれ一連の番号をつけた。

ＳＫ：土坑　ＳＤ：溝　Pit：小穴　ＳＸ：その他遺構

8．発掘調査、遺物整理作業及び報告書作成にあたっては、下記の機関と個人からご協力、ご教示を賜った。記して謝意を表したい。（敬称略・順不同）

石川県教育委員会、㈶石川県埋蔵文化財センター、羽咋市立粟ノ保小学校、羽咋市シルバー人材センター、粟ノ保地区各町会、㈲一松建設、伊藤雅文、久田正弘、冨田和気夫、林大智、安中哲徳、岡本恭一、折戸靖幸、中條茂雄、堀田成雄

9．本調査の出土遺物と諸記録は、羽咋市教育委員会文化財室において保管・管理している。

# 第１章　遺跡の環境

## 第１節　地理的環境

石川県羽咋市は能登半島の付け根部分に位置し、北西に眉丈山丘陵が東南に宝達山・石動山系が平行し、その間を邑知潟地溝帯が北東へと延びている。

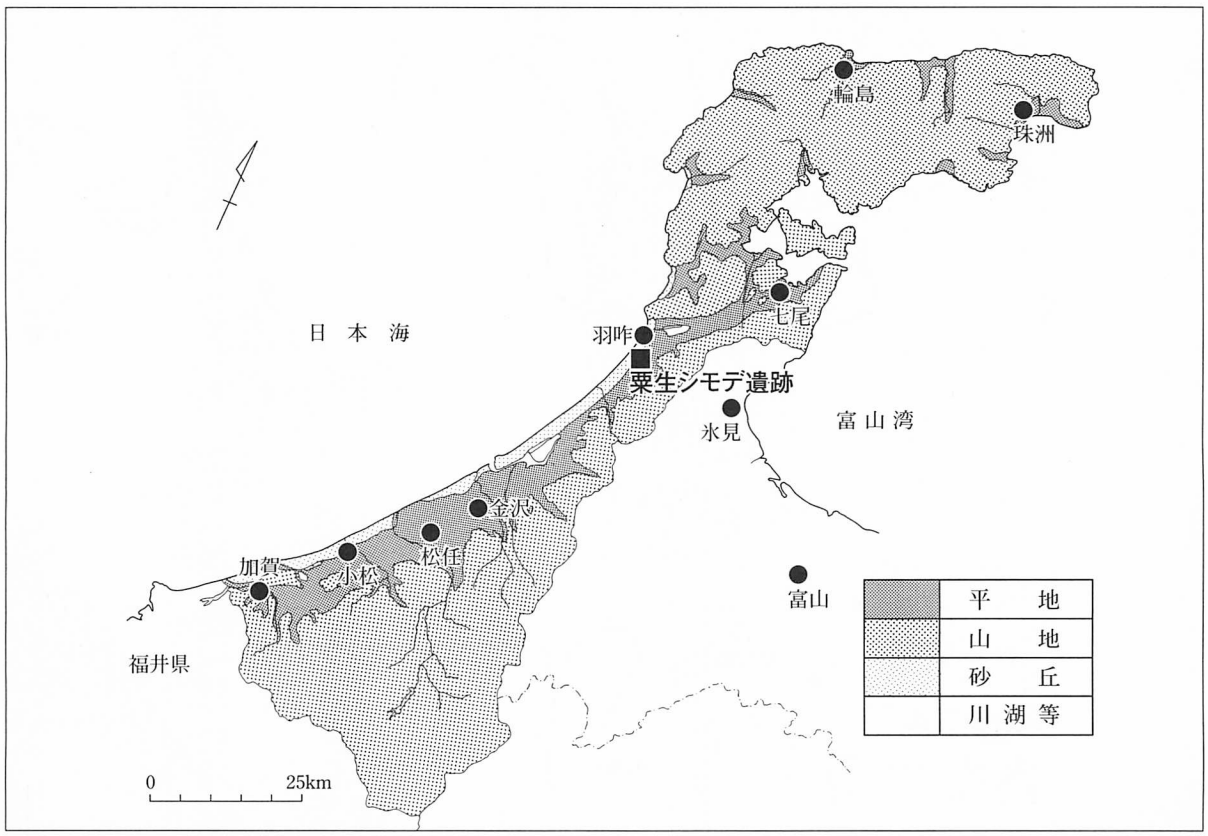
往古より羽咋市の中心部に位置した邑知潟は、昭和23年から始まった国営干拓事業によってそのほとんどが水田化され、わずか86ha の放水路に整備されている。干拓前の邑知潟は水面面積456ha、水深は約1.2m であり、現在の景観とは大きく異なっていた。

邑知潟は、縄文海進の影響で入り江となり、さらに南から北へと形成された羽咋砂丘によって潟化されたと推定されている。

羽咋の地勢に大きな影響を与えた羽咋砂丘は、白山から加賀平野を西流する手取川から流れ出た土砂が海流に運ばれて堆積したものである。羽咋砂丘は大きく分けて3つの時期にわたって形成された。内陸側から海岸側に向かって、縄文初頭に形成された内列砂丘、縄文中期に形成された中列砂丘、弥生時代末から古墳時代初頭にかけて形成された外列砂丘である。粟生シモデ遺跡はその中の内列砂丘上に営まれている。

**参考文献**

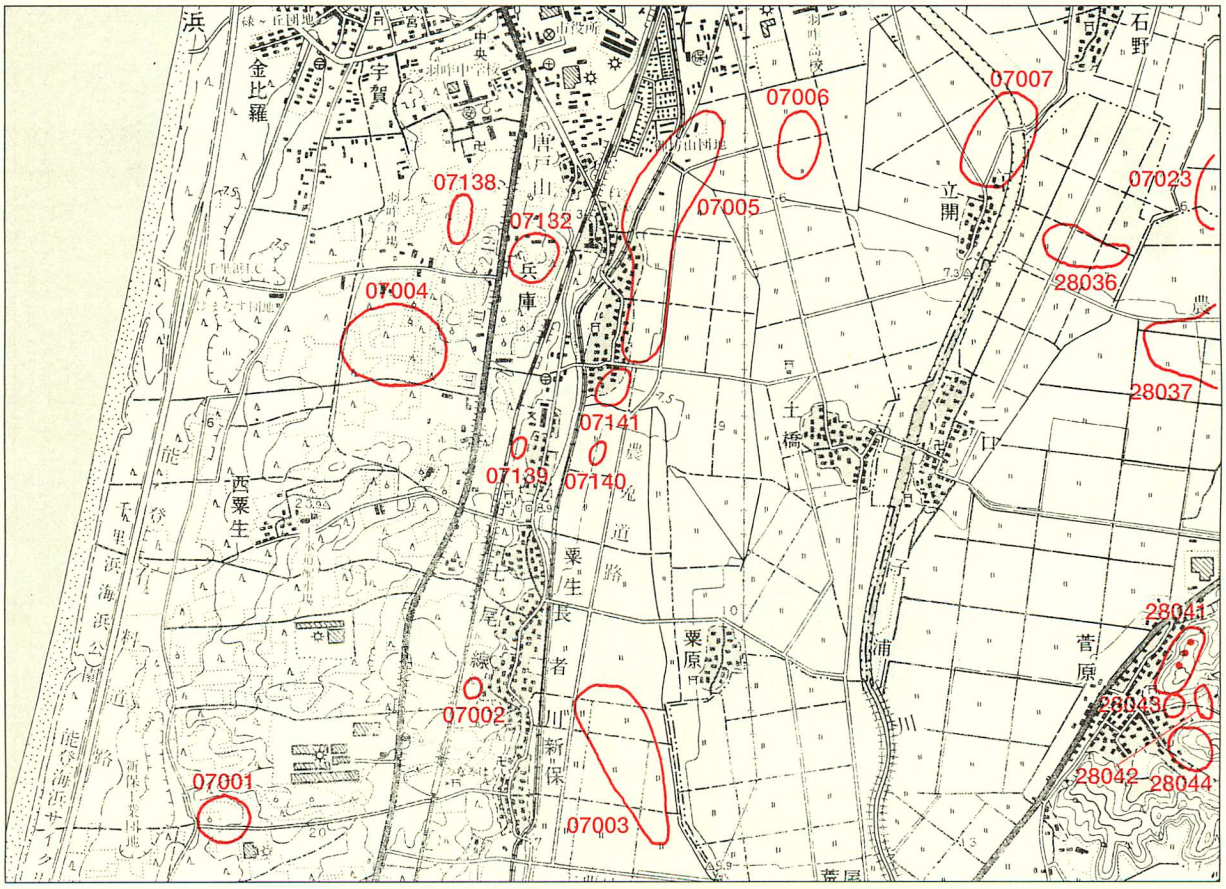
『羽咋市史』原始・古代編　1973年　石川県羽咋市
『吉崎・次場遺跡』県営ほ場整備に係る埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊（資料編（1））　1987年　石川県埋蔵文化財センター
『吉崎・次場遺跡』第16次発掘調査　1998年　石川県羽咋市教育委員会




**第１図**　位置と地形概念図（S＝1/125,000）

## 遺跡地名表

| 遺跡番号 | 名称 | 所在地 | 通称・小字名 | 種別 | 現状 | 立地 | 時代 | 出土品 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 07001 | 新保ゼンボン古墳群 | 羽咋市新保町 | ゼンボン | 古墳 | 畑 | | 古墳後期 | 土師器椀 | 1993、95市教委発掘調査 |
| 07002 | 粟生遺跡 | 羽咋市粟生町 | | 散布地 | 宅地 | | 古墳 | 土師器、須恵器 | |
| 07003 | 新保遺跡 | 羽咋市新保町・粟生町 | | 散布地 | 田畑 | | 不詳 | 土師器、須恵器 | |
| 07004 | 千里浜遺跡 | 羽咋市千里浜町・兵庫町 | | 散布地 | 畑 | | 弥生～中世 | 弥生土器、石包丁、須恵器、土師器 | |
| 07132 | 兵庫オクヤマデ遺跡 | 羽咋市兵庫町 | 奥山出(オクヤマデ) | 散布地 | 畑 | 砂丘 | 縄文～中世 | 縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、中世土器 | |
| 07138 | 兵庫ヤマデ遺跡 | 羽咋市兵庫町 | ヤマデ | 散布地 | 山林 | 砂丘 | 平安 | 須恵器 | |
| 07139 | 粟生シモデ遺跡 | 羽咋市粟生町 | シモデ | 集落跡 | 学校 | 砂丘 | 弥生・古墳 | 弥生土器、土師器、須恵器、勾玉未製品、玉砥石、銅鏃 | 2000年、市教委発掘調査 |
| 07140 | 粟生B遺跡 | 羽咋市粟生町 | ミズキテツカブト | 集落跡 | 田 | 平地 | 弥生 | 弥生土器(須恵器) | 2001年、県埋文センター発掘調査 |
| 07141 | 兵庫遺跡 | 羽咋市兵庫町 | | 集落跡 | 田 | 平地 | 弥生 | 弥生土器(須恵器) | 2001年、県埋文センター発掘調査 |
| 07005 | 長者川遺跡 | 羽咋市兵庫町・松ヶ下町・御坊山町 | | 集落跡 | 田・宅地 | 平地 | 縄文～近世 | 縄文、弥生土器、須恵器、墨書土器、陶磁器、木製品等 | 1993年、県埋文センター、1994・1995年市教委発掘調査 |
| 07006 | 柳橋遺跡 | 羽咋市柳橋町 | | 散布地 | 田 | 平地 | 不詳 | 土師器 | |
| 07007 | 子浦川南遺跡 | 羽咋市立開町・石野町 | | 散布地 | 田 | | 古墳 | 土師器、須恵器 | |
| 07023 | 太田ツツミダ遺跡 | 羽咋市太田町 | ツツミダ | 散布地 | 田 | 平地 | 平安～中世 | 須恵器、土師器、漆器、墨書土器 | 1992年、市教委発掘調査 |
| 28044 | 菅原館跡 | 志雄町菅原 | | 館跡 | 山林 | 丘陵端 | 安土桃山 | | |
| 28043 | 国田館跡 | 志雄町菅原 | | 館跡 | 山林 | 丘陵端 | 不詳 | | |
| 28042 | 菅原横穴群 | 志雄町菅原 | マドクラヤチ | 横穴墓 | 山林 | 丘陵端 | 古墳 | 3基確認 | |
| 28041 | 菅原古墳群 | 志雄町菅原 | | 古墳 | 山林 | 丘陵端 | 古墳 | 円墳3基確認以上 | |
| 28036 | 二口かみあれた遺跡 | 志雄町二口 | カミアレタ | 集落跡 | 田 | 平地 | 弥生～平安 | | 1991年、町教委発掘調査 |
| 28037 | 杉野屋ろくばわり遺跡 | 志雄町杉野屋 | ロクバワリ | 散布地 | 河床・田 | 平地 | 弥生・奈良・平安 | | 1974、86年県教委、町教育委発掘調査 |




第2図　周辺遺跡分布図（S＝1/25,000）

## 第２節　歴史的環境

羽咋市域は、地理的環境とも相まって豊かな生産域と交通の要衝として、歴史上で口能登の拠点として位置づけられてきた。能登に稲作文化が成立したと考えられる弥生時代前期新段階には吉崎･次場遺跡の集落が形成され、古墳時代初頭まで中核的集落として営まれていたことが確認されている。弥生時代中期以降になると、邑知潟周辺には東的場タケノハナ、太田ニシカワダ、二口かみあれた、子浦川などの遺跡、砂丘地帯には本遺跡を始め兵庫オクヤマデ、千里浜、羽咋高校前、寺家遺跡など濃密な分布を示している。

古墳時代になると、吉崎･次場遺跡に継続すると見られる太田ニシカワダ遺跡、また長者川、粟生、寺家などの遺跡が見られ、古墳は中期以降、北部海岸段丘部には滝大塚に代表される滝、柴垣、柳田の各古墳群が造営されている。南部砂丘には羽咋、新保ゼンボンの古墳群が、また東部丘陵には福水や子浦川上流の散田金谷古墳に代表される古墳群が築かれている。

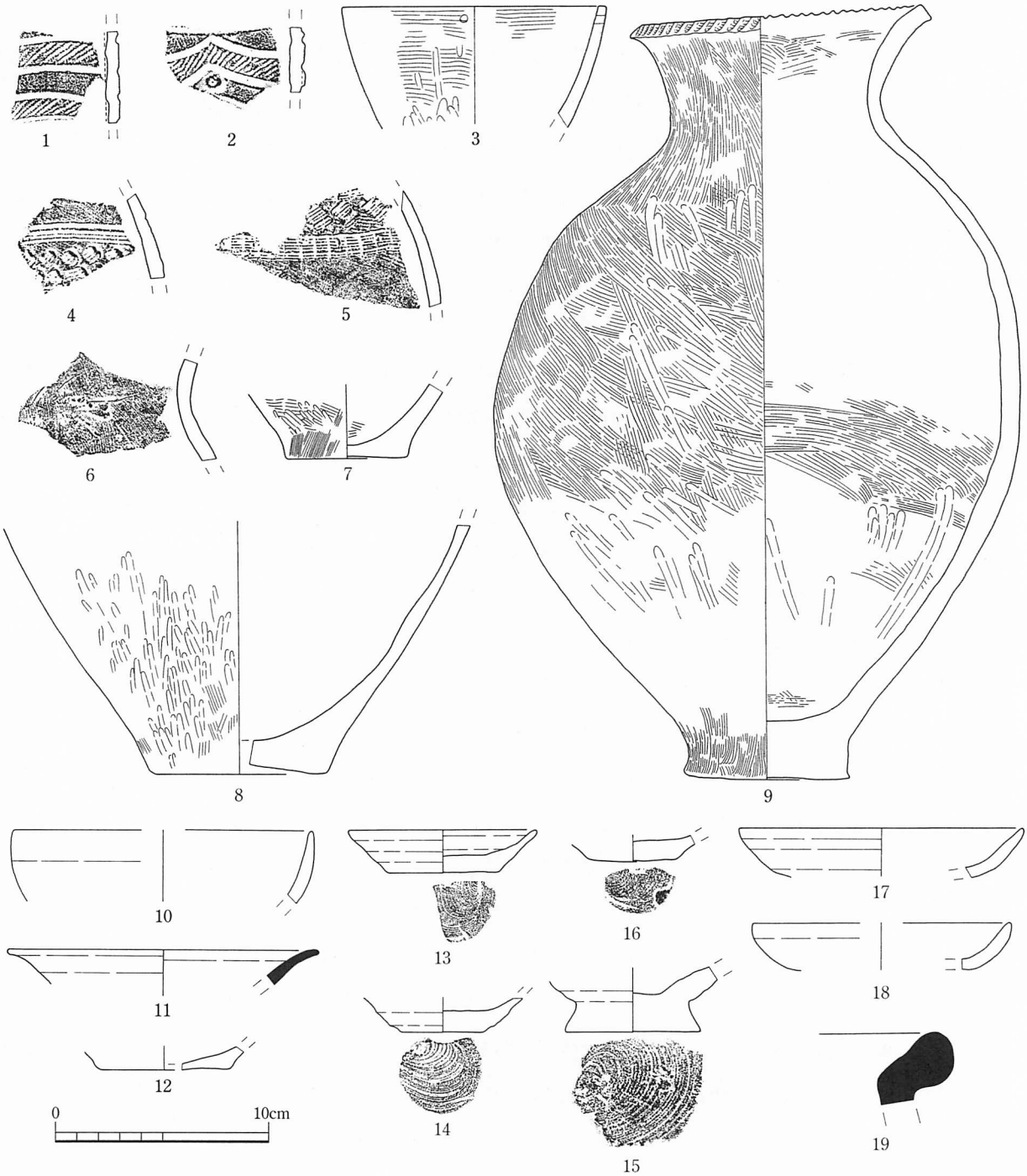
奈良・平安時代以降になると、北部丘陵と砂丘上に気多神社と深く関係した寺家遺跡やシャコデ廃寺などの活動が活発となり、羽咋地域の中枢的様相を強める。また羽咋中央部の吉崎・次場、長者川遺跡の墨書土器などの出土品から官衙、郡衙との関係が注目される。

**兵庫オクヤマデ遺跡の出土資料**（第３図）

兵庫オクヤマデ遺跡は本遺跡の北約500ｍに位置し、同じ内列砂丘上に営まれた遺跡である。当遺跡の資料は新保ゼンボン遺跡（1994：羽咋市）で報告したが、その後に土地所有者の堀田忠男氏が畑の耕作中に採集されたものである。出土地点は周辺地形より一段低くなった東西に伸びる鞍部で、遺物は黄色砂丘砂の約60㎝下に堆積する黒褐色砂層に包含されていた。

１～９は弥生土器である。１･２は中部高地で中期後葉の特徴をもつ栗林式系土器で、同一個体の壺と見られる体部破片である。ヘラ描きの直線文や弧線文で区画され、縄文帯と無文帯で構成されている。弧線文は左から右に描かれ、無文帯に円形浮文が貼り付けられている。この他に同一個体と思われる破片が8点あるが、明橙褐色を呈し、胎土には1㎜前後の砂粒を含み、焼成は良い。以前に報告した中で、縄文土器とした１点も同一の栗林系土器と思われ、ここで訂正しておきたい。近隣の吉崎・次場遺跡Ｉ－４号溝からも同様の栗林式系土器が出土している。３は鉢で口縁部に焼成前に穿たれた小孔がある。調整は外面がハケで縦方向に粗いミガキが入る。内面はハケのちナデである。４と５は櫛描きによる直線文や斜向短線文、簾状文が施される体部片である。９は口径13.2㎝、底径7.8㎝、最大胴部径24.8㎝、器高36㎝を測る完形の壺である。口縁端部には櫛状具による刺突文が施される。内外面ともハケとナデ調整であるが粗いミガキ状の調整も入る。これら弥生土器は増山編年の４期の中期後半のものと思われる。[註1]

10は土師器の椀の口縁部片である。外面の口縁部は回転ナデ調整されるが下部は粗雑なナデで、内面はミガキ調整される。古墳時代後期初頭の所産と思われ、寺家遺跡第12次調査中に類似品が見られる。11は須恵器の皿で10世紀前半頃のもので12の土師器も同時期のものと思われる。13から16は底部糸切り調整を施すもので17、18は非ロクロ製土師器皿である。13～15は11世紀後半から12世紀前半、16～18が12世紀後半から13世紀の所産と考えられる。19の珠洲焼も同時期のものと思われる。




**第3図**　兵庫オクヤマデ遺跡出土遺物（S＝1/3）

**註　参考文献**

註1　弥生土器については久田正弘氏より御教授をいただいた。

『新保ゼンボン遺跡』　1994　石川県羽咋市、羽咋市教育委員会
『吉崎·次場遺跡』　県ほ場整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書第1分冊（資料編（1））
1987　石川県立埋蔵文化財センター
『北陸の考古学Ⅱ』「小松式土器の再構築」増山　仁　1989　石川考古学研究会
『石川考古学研究会々誌　第34号』「能登における弥生時代中期の一様相（1）」久田正弘　1991　石川考古学研究会
『寺家遺跡第12次調査報告書』　1997　羽咋市教育委員会

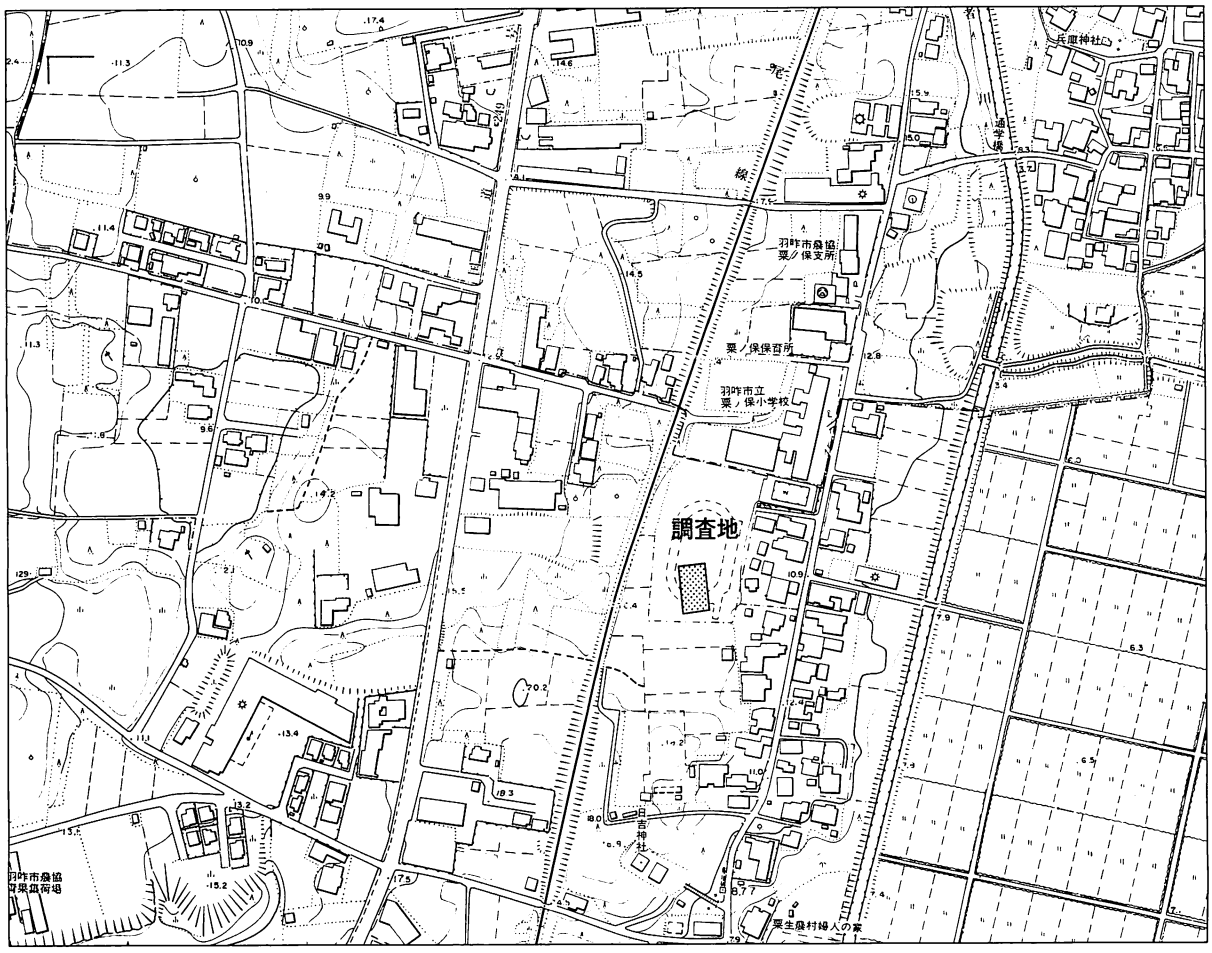
# 第２章　調査の経緯と経過

## 第１節　調査の経緯

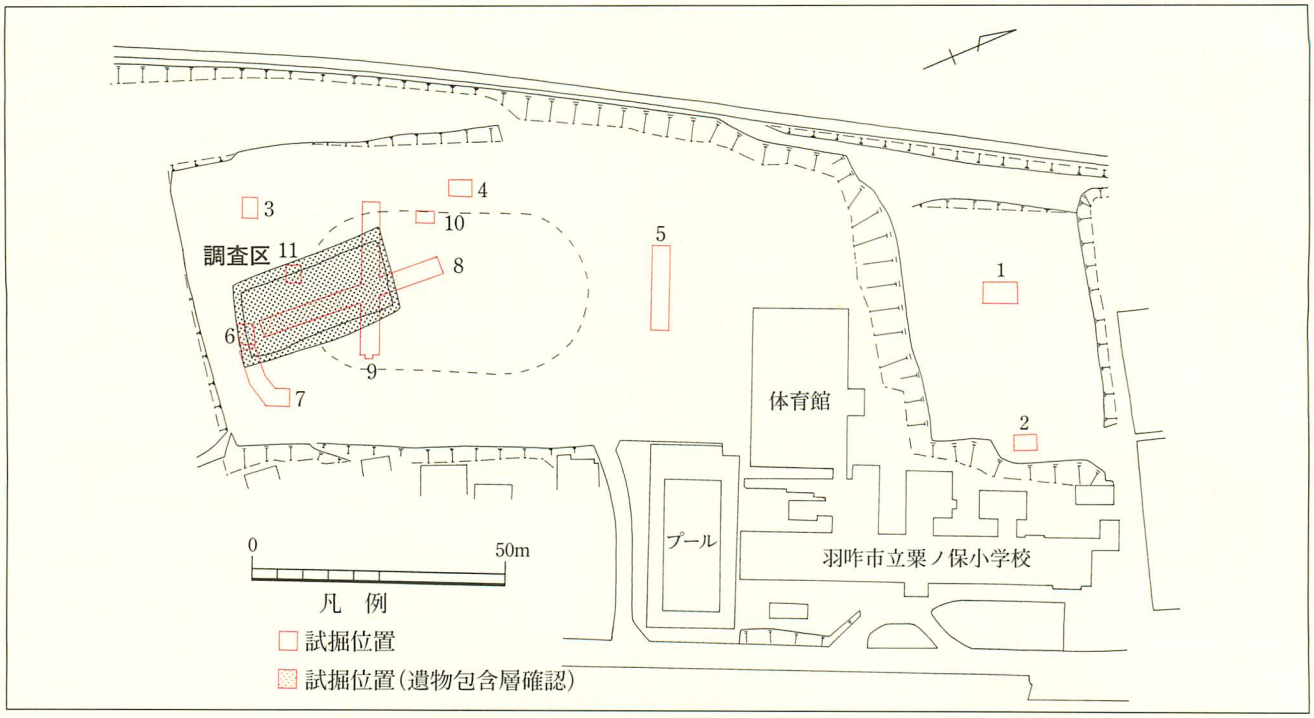
平成12年8月4日に羽咋市教育委員会学校教育課（以下：学校教育課）より羽咋市立粟ノ保小学校改築事業に先立ち、羽咋市教育委員会文化財室（以下：文化財室）に埋蔵文化財の有無の問い合わせがなされた。これを受けた文化財室では、同所が周知の埋蔵文化財包蔵地ではないものの、事業規模が13,758㎡と大きいことから、掘削機を使用して分布調査を行うことになった。

８月11日に粟ノ保小学校の校舎の周囲で試掘可能な箇所を調査した。第１、２トレンチでは掘削機のアームが届く限界まで試みたが、風成砂が厚く堆積しており、それ以上の掘下げは困難であった。そうした中で、第６トレンチから弥生土器が発見された。その広がりを確認するために同月21、22日に第７～11までのトレンチを掘下げ、その結果第5図に示すように第７、８、９、11トレンチからは遺物包含層と遺構が確認された。

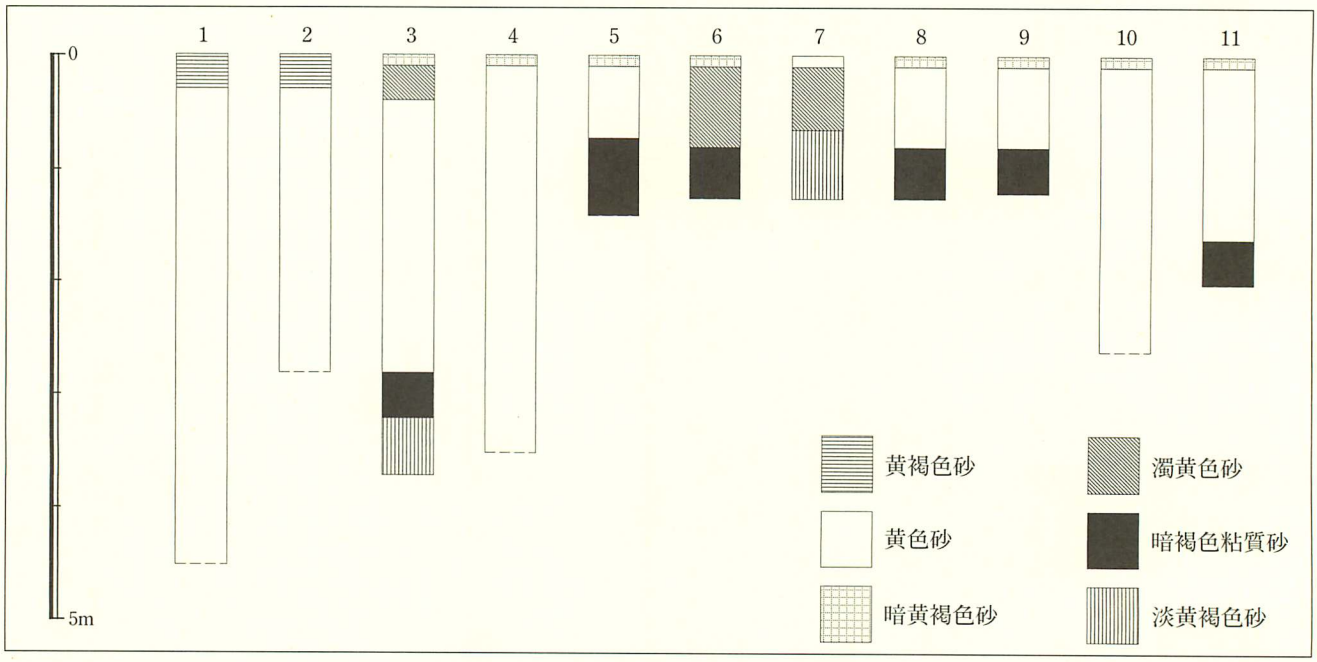
以上の調査結果を受けて、事業を実施する際には発掘調査が必要である旨を学校教育課に回答し、22日のうちに学校教育課と文化財室で協議を行った。翌年度から校舎の建設工事が始まることから、早急に発掘調査をすることが求められ、同年10月５日～11月30日までの間で面積約400㎡を調査することが決定した。




**第４図**　調査区位置図（Ｓ＝1/5,000）




**第5図**　分布調査トレンチ位置図（S＝1,500）




**第6図**　分布調査トレンチ土層深度図

同遺跡は周知の遺跡として登録されておらず、現地が通称、「シモデ」と呼ばれていることから、新たに発見された遺跡として「粟生シモデ遺跡」と命名した。

第6トレンチ遺物出土状況

## 第２節　調査の経過（日誌抄）

10月５日（木）　晴

本日より現地での発掘調査を開始する。掘削機で表土除去作業を行う。

10月６日（金）　晴

昨日に引き続き表土除去。ユニットハウスと防護柵の設置を行う。

10月10日（火）　晴

本日から発掘補助員現地入り。発掘用具の搬入を行う。

10月11日（水）　晴

包含層の掘下げ作業を行う。砂は削りやすいが、土色の区別が非常に難しい。

10月13日（金）　晴のち曇

包含層の掘下げをし、遺構検出をする。

10月16日（月）　晴

調査区南側、西側にトレンチを入れ、土層の堆積状況の確認をする。平板実測を行う。

10月17日（火）　曇

包含層掘下げ、調査区北側にもトレンチを入れ、土層の観察を行う。調査区南側に周溝のようなものが検出された。ＳＫ01・02の掘下げ。教育委員及び教育長来跡。

10月18日（水）　曇のち晴

ＳＫ01の断面図、ＳＫ02のエレベーションの作成を行う。

表土除去作業

10月19日（木）　晴

ＳＫ01・03掘下げ。ＳＸ01を掘下げる。土器の細片が多数出土した。

10月23日（月）　雨

ＳＸ01の掘下げをする。降雨がひどくなってきたので午後から作業中止。

10月24日（火）　晴

堀田成雄氏来跡。ＳＸ01の掘下げをし、写真撮影を行う。また、黒色粘質砂の広がりを確認するため、調査区北側を拡張する。

10月25日（水）　雨

雨のため、午後から作業開始。昨日に引き続き、調査区北側を拡張を行う。

10月26日（木）　曇

0区、1区を清掃し、写真撮影を行い、レベルを測る。

10月27日（金）　晴

0区の掘下げ、1～4区の西側斜面の掘下げを行う。

10月30日（月）　雨後晴

午後から包含層の掘下げを行う。上空を白鳥の群が飛来。

10月31日（火）　晴

遺構の掘下げ、平面実測、写真撮影を行う。

11月1日（水）　雨

粟ノ保小学校6年生による体験発掘を行う予定であったが、雨のため翌日に順延する。

作業風景

11月2日（木）　雨

台風20号が接近。雨天のため、体験発掘は中止する。グラウンドから調査区内への雨水が激しく、北側へ拡張した部分の法面が崩落する。

11月6日（月）　晴

先週の雨で崩落した箇所を復旧して、流れ込んだ土砂の排出作業をする。

11月7日（火）　晴

包含層、遺構の掘下げを行う。

11月8日（水）　曇

ＳＤ01を掘下げる。溝中から銅鏃が出土した。また、ＳＫ10からは壺が2個体ほぼ完形で出土した。

11月9日（木）　晴

各遺構の掘下げをする。

11月13日（月）　晴

包含層、各遺構の掘下げを行う。

11月14日（火）　晴

ＳＤ01に囲まれた平坦面から硬玉製の勾玉の未製品と原石、それと砥石が見つかった。

11月15日（水）　曇

昨日に引き続きヒスイの見つかった箇所を精査したところ、ヒスイの原石と未製品が出土した。粟ノ保小学校２年生来跡。

11月16日（木）　曇（とても寒い）

Ｘ～Ａの0、1、2、3区の包含層を掘下げる。遺構の掘下げをする。

11月17日（金）　雨後曇

雨による被害

午後から記者発表をする。

11月19日（日）　晴

現地説明会を行う。69人が参加する。

11月20日（月）　曇時々雨

Ｘ～Ａの1、2、3区の包含層を掘下げる。

11月21日（火）　雨（荒天）

昨夜の雨で、調査区への進入路から水が流れ込み、土砂が積もっていた。雨水対策を行い、遺構の平面図、断面図の作成を行う。

11月22日（水）　曇（気温がとても低い）

Ｘ～Ａ4、5区の包含層の掘下げる。

11月24日（金）　晴

遺構の掘下げと断面図の作成を行う。

11月27日（月）　雨

遺構平面図の作成を行う。

11月28日（火）　晴

遺構の堀下げを行い、完掘写真を撮る。発掘用具を片付ける。

本日で発掘補助員にかかる仕事は終了。

11月29日（水）　晴

調査区の壁断面図の作成を行う。

11月30日（木）　晴

調査区の埋め戻し。本日で現地での調査は終了。

《発掘参加者》

赤座伝左エ門、嵐　栄作、川島さよ子、川端栄一、瀬賀成行、樋下　操、元永利子、八島清雄、八島充代、吉田まり子

現地説明会

# 第３章　遺構と遺物

## 第１節　調査の概要

粟生シモデ遺跡は、海岸線から東方向へ約1400ｍ内陸に入った内列砂丘上に位置し、そのすぐ東側は長者川が内列砂丘の内側に沿って北流している。調査区の現況は小学校のグラウンドであるが、現場へ作業員として来られていた地元の人の話によると、現地をグラウンドにする際、砂で高くなっているところを削り、トロッコで低くなっている箇所へその砂を入れた、ということをおっしゃっていた。表土を除去した調査区は中央部が尾根状になっており、西側へ傾斜した地形である。斜面での包含層の堆積は厚く、東側では全体的に削平が認められた。また、部分的に攪乱されている箇所も存在した。

調査面積は約400㎡で、５ｍ×５ｍ方眼のグリッドを任意に割り付け、南北方向にアラビア数字を、東西方向にアルファベットを付けた。遺構名は発掘調査時に付した名称で土坑と小穴の区別は主観的なもので、また欠番となっているものは後で、遺構ではないと判断されたためである。

## 第２節　各遺構と遺物

**ＳＫ01～ＳＫ04（第8、10、15図）**

調査区北側に位置する。いずれの土坑も覆土の第１層が表土と同じ黄色砂で比較的新しく掘り込まれた印象を受ける。

ＳＫ04からは土師器の甕が出土している。No.1とNo.2は同一個体だと思われるが、接合する点がなかったため、個別に掲載しておく。底径は8.2㎝を測り、平底の甕で底部から体部はバケツ様にまっすぐ立ち上がり、内外面に粘土紐の接合痕が残っており、外面はハケ調整されている。この遺構はＳＸ01を切って入り込んでおり、土器の出土地点も遺構の肩口に近いことから、ＳＸ01からの流れ込みの可能性がある。

**ＳＫ06（第10、22図）**

Ｂ1区、調査区北東角に位置する。全体部のほとんどが調査区外のため平面形は不明である。深さは160㎝まで掘ることができたが、坑内が狭小なためそれ以上掘り進めることができなかった。壁は外開きに立ち上がっている。土器片と鉄鏃が１点出土している。

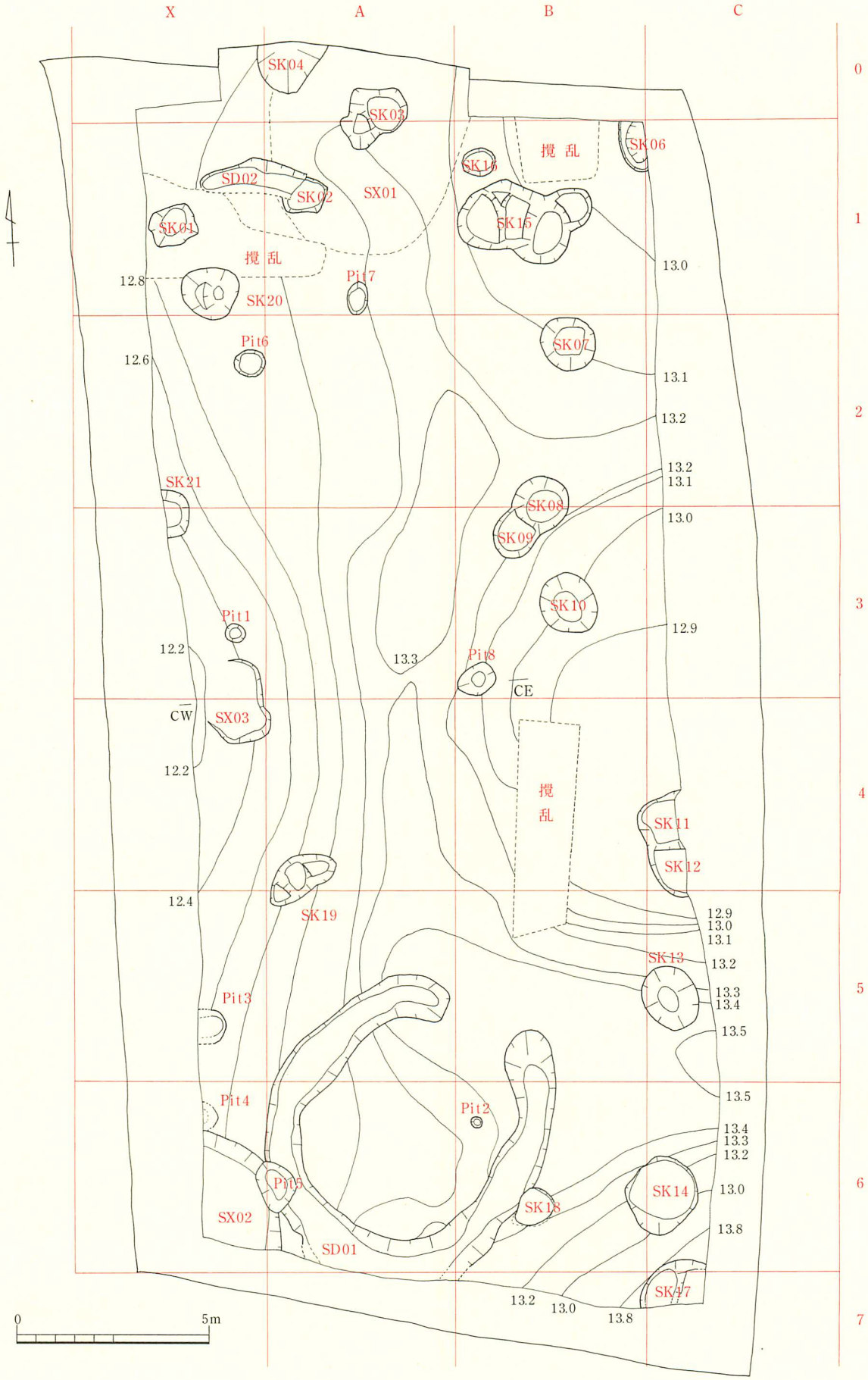
**ＳＫ07（第10、15図）**

Ｂ２区に位置している。上面は円形で、径は140㎝、深さは170㎝を測る。壁は緩やかに立ち上がる。覆土は２層に分かれ、上層が濁黒褐色で、下層は上層よりも黄色が濃い。水平に、しかも厚く堆積している。

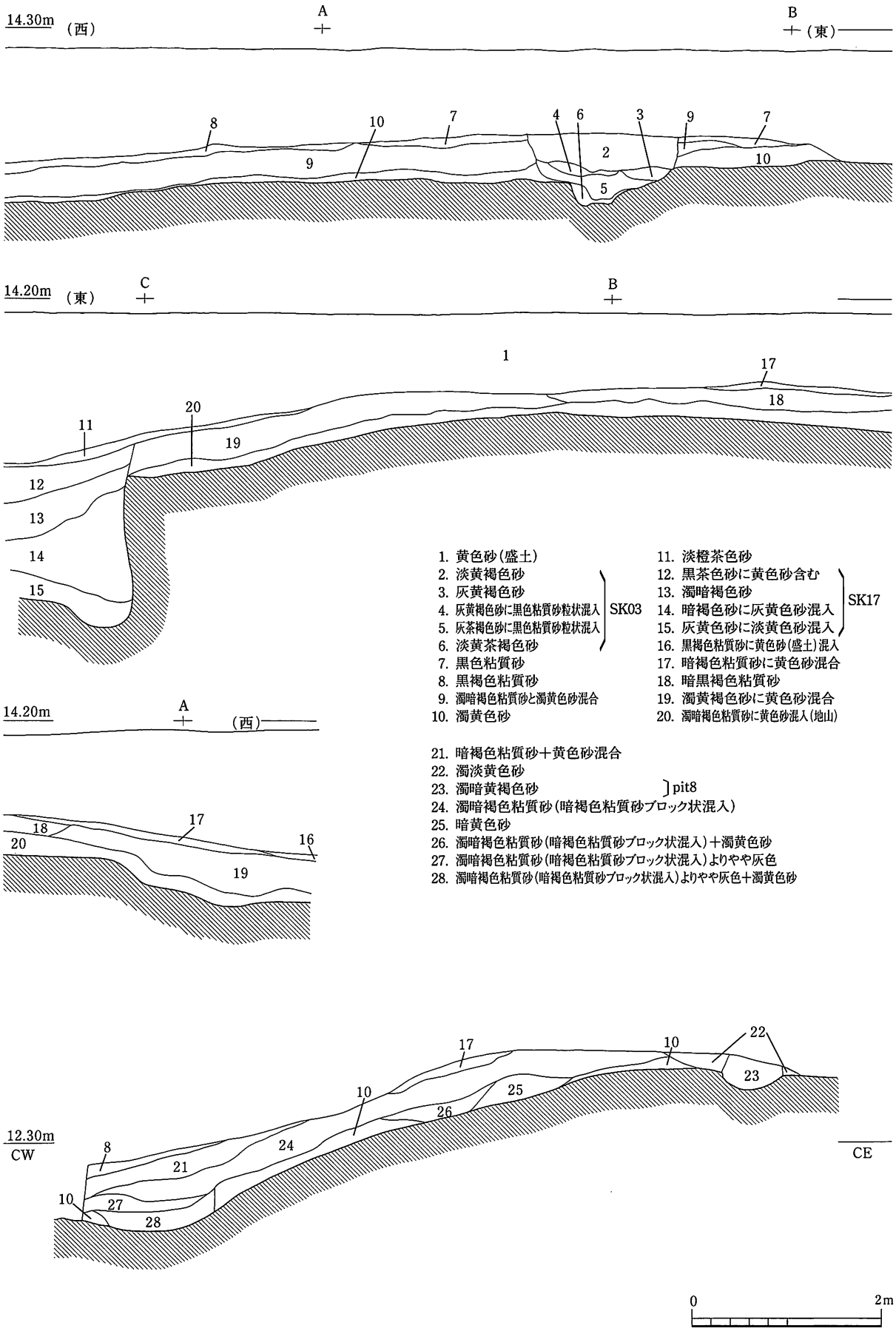
遺物は第１層から若干の土器片が出土している。No.3は有段口縁の甕で、口縁部外面には強い指ナデが上下２段に残っている。

**ＳＫ08（第11、15図）**

Ｂ２区からＢ３区にかけて位置する。ＳＫ09と切り合いしており楕円形である。断面からＳＫ09の




第７図　調査区全体図・区割図（S＝1/150）



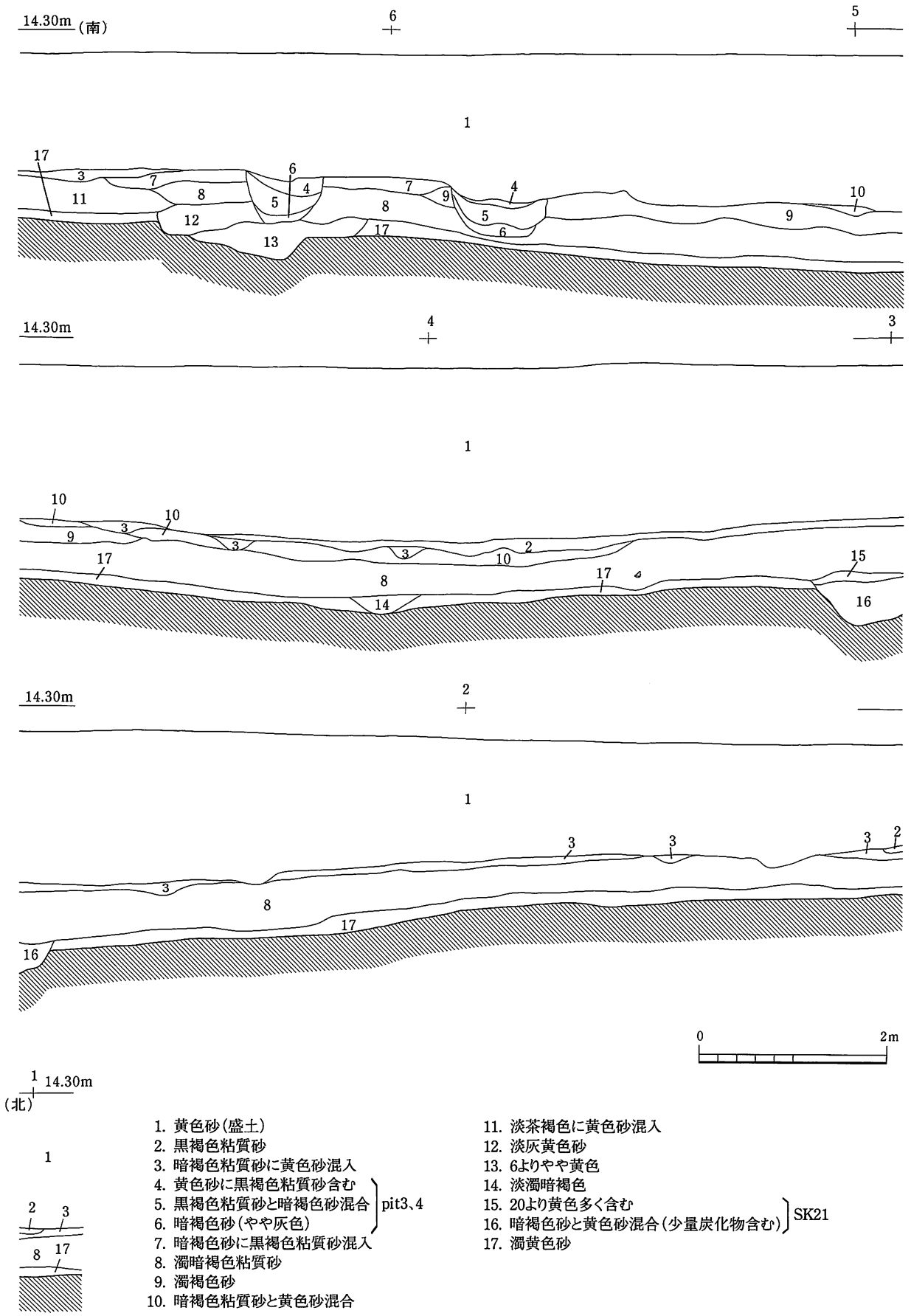

1. 黄色砂（盛土）
2. 淡黄褐色砂
3. 灰黄褐色砂
4. 灰黄褐色砂に黒色粘質砂粒状混入
5. 灰茶褐色砂に黒色粘質砂粒状混入
6. 淡黄茶褐色砂
7. 黒色粘質砂
8. 黒褐色粘質砂
9. 濁暗褐色粘質砂と濁黄色砂混合
10. 濁黄色砂
11. 淡橙茶色砂
12. 黒茶色砂に黄色砂含む
13. 濁暗褐色砂
14. 暗褐色砂に灰黄色砂混入
15. 灰黄色砂に淡黄色砂混入
16. 黒褐色粘質砂に黄色砂（盛土）混入
17. 暗褐色粘質砂に黄色砂混合
18. 暗黒褐色粘質砂
19. 濁黄褐色砂に黄色砂混合
20. 濁暗褐色粘質砂に黄色砂混入（地山）

SK03（1.〜6.）　SK17（12.〜15.）

21. 暗褐色粘質砂＋黄色砂混合
22. 濁淡黄色砂
23. 濁暗黄褐色砂
24. 濁暗褐色粘質砂（暗褐色粘質砂ブロック状混入）
25. 暗黄色砂
26. 濁暗褐色粘質砂（暗褐色粘質砂ブロック状混入）＋濁黄色砂
27. 濁暗褐色粘質砂（暗褐色粘質砂ブロック状混入）よりやや灰色
28. 濁暗褐色粘質砂（暗褐色粘質砂ブロック状混入）よりやや灰色＋濁黄色砂

pit8（23.）

**第８図**　土層断面図１（S＝1/60）




1. 黄色砂(盛土)
2. 黒褐色粘質砂
3. 暗褐色粘質砂に黄色砂混入
4. 黄色砂に黒褐色粘質砂含む
5. 黒褐色粘質砂と暗褐色砂混合
6. 暗褐色砂(やや灰色)
7. 暗褐色砂に黒褐色粘質砂混入
8. 濁暗褐色粘質砂
9. 濁褐色砂
10. 暗褐色粘質砂と黄色砂混合
11. 淡茶褐色に黄色砂混入
12. 淡灰黄色砂
13. 6よりやや黄色
14. 淡濁暗褐色
15. 20より黄色多く含む
16. 暗褐色砂と黄色砂混合(少量炭化物含む)
17. 濁黄色砂

pit3、4

SK21

**第9図** 土層断面図2 (S＝1/60)

後に造られており、径は長軸157cm×短軸114cm、深さは157cmを測る。壁は緩やかに立ち上がる。

遺物については、No.4がくの字状の口縁を持つ甕で、端部はやや内側に向かって大きく引き出されている。肩部には刺突文が確認できる。

**ＳＫ09（第11図）**

Ｂ２区～Ｂ３区にかけて位置する。ＳＫ08に北東部分を切られており、ＳＫ08に先行して造られている。上面は円形であったものと思われ、径は142cm、深さは60cmを測る。壁はなだらかに外開きに立ち上がっている。覆土中に遺物は全く含まれていなかった。

**ＳＫ10（第11、15図）**

Ｂ3区に位置している。上面はほぼ円形で、166cm×144cm、深さは140cmを測る。

壺が2個体出土している。土坑の底から約44cm程高い位置にあり、共にほぼ完形を保ち、横たえられた状態で、容量の大きいNo.6の体部中央にNo.5の口縁部分が接し、直交する形で埋納されていた。共に広口・有段口縁の球胴タイプの壺で、口縁部分はあまりのびず頸部の方が長い。体部はNo.6の方が下半から上半にかけて鋭く折れ立ち上がっているのに対し、No.5の方は下半と上半の関に底部に対して垂直にのびた部分があり、緩やかな立ち上がりを見せている。底部は共に突出し、外反して直線的にのびる体部へと続いている。またNo.6の体部内面には不整形なクレーター状の剥離痕が確認できる。No.5・6共に内面に目立った付着物がなく、内部に詰まっていた砂もふるいにかけたが肉眼による観察では混入物は確認できなかった。

**ＳＫ11（第11図）**

Ｃ４区～Ｃ５区にかけて位置している。調査区東側壁に接しており、全体形は不明である。また、ＳＫ12と切り合っており、ＳＫ12の後に造られたことが分かる。深さは190cmを測り、壁の立ち上がりはゆっくりと外開きに上がる。覆土は下層が淡褐色より灰色が強い色で、厚く水平に堆積している。

**ＳＫ12（第11図）**

Ｃ4区～Ｃ5区にかけて位置している。ＳＫ11に先行して造られたことが断面の状況から観察できる。深さは100cmを測り、上面形は不明である。覆土は２層から成る。覆土中に遺物を全く含まない。

**ＳＫ13（第11図）**

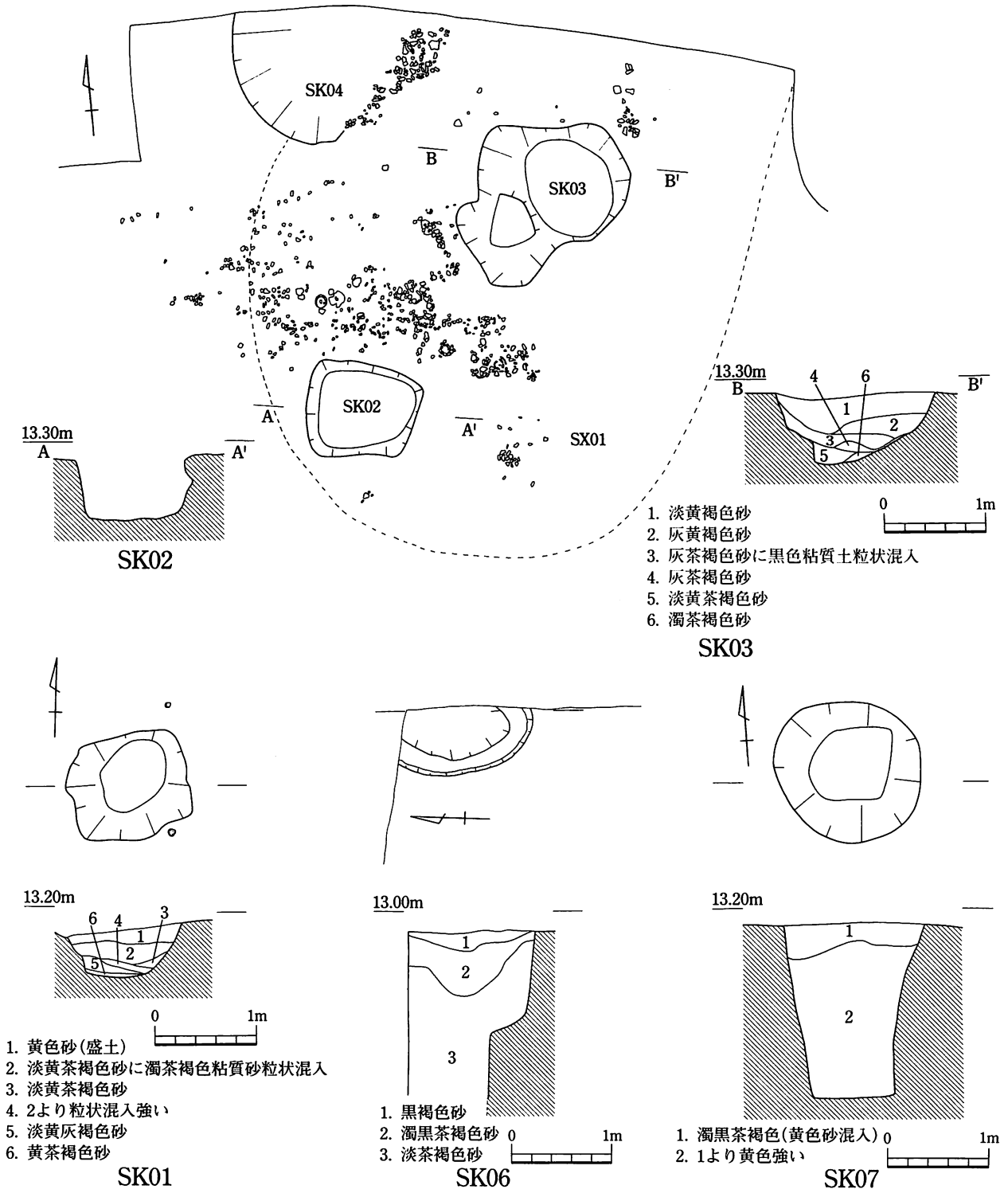
Ｃ5区に位置する。上面形は楕円形で、長軸が170cm、短軸が140cm、深さは180cmを測る。壁は緩やかに外開きに立ち上がる。覆土は５層より成り、上層より僅かな土器片が出土した。

**ＳＫ14（第11図）**

Ｂ6区～Ｃ6区にかけて位置する。上面形は南側と西側が略方形を呈し、北と東側は円形である。長軸は206cm、短軸は190cm、深さは170cmを測る。壁は坑底からほぼ垂直に立ち上がり、第２層目から外開きになる。

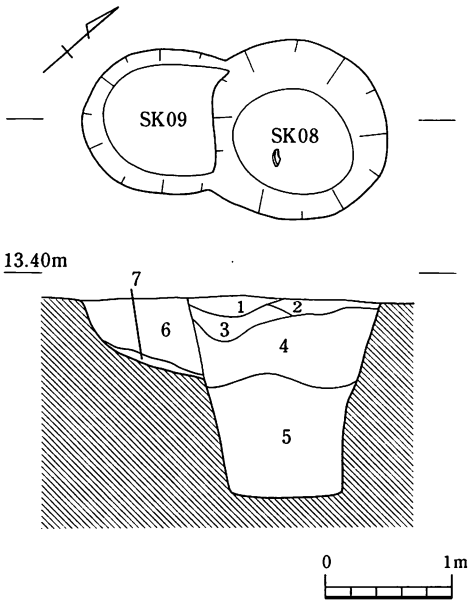
**ＳＫ15（第12、16図）**

Ｂ１区に位置する。上端部は不整形である。ＳＫ15の最大幅は360cmで、最も深いところで134cmを測る。東側で１段のフラットな面を形成し、西側でフラットな面を３段形成して階段状に底の方へと落ちてゆく。覆土はそのほとんどの層から地山砂である黄色砂が見受けられることから、別の場所を掘り返した砂を入れた可能性が考えられる。



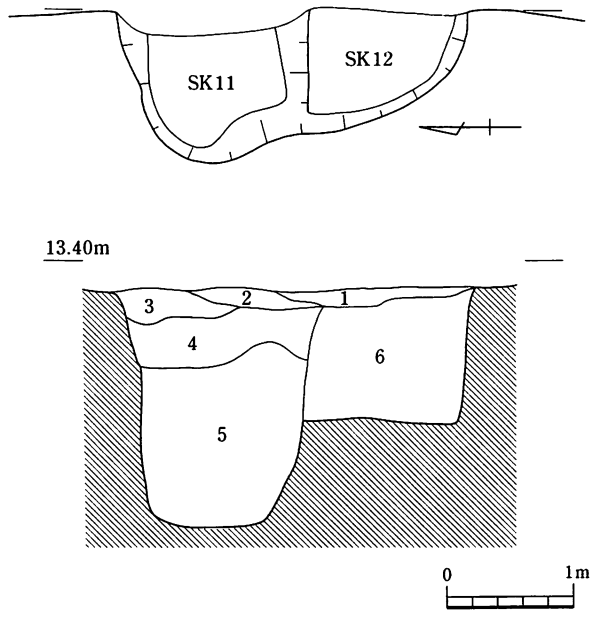

**第10図**　各遺構平面図・断面図１（S＝1/60）

また、遺物については第９層からは約４cmほどの使用痕の認められる軽石１片が見つかっており、第４層からは土器がまとまって出土している。図化掲載し得たのは甕が３点、壺３点（底部片含む）、鉢１点、高坏１点である。甕は２点が有段口縁で、１点がくの字状口縁である。壺は外傾した口頸部がまっすぐにのび、口縁端部に面をもつ長胴タイプのNo.14と、大きく外反した口縁の端部をわずかにつまみ上げたNo.15を確認している。No.14の口頸部外面には２個一対で竹管状文が確認できる。



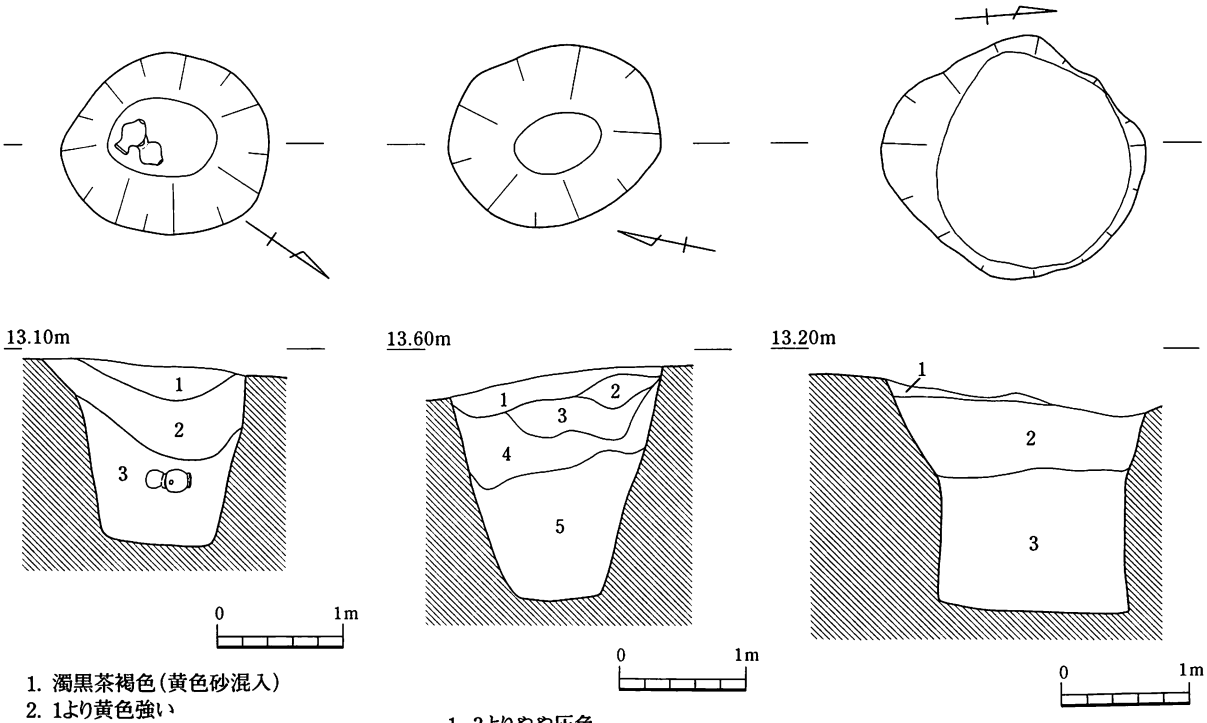

1. 濁暗茶色砂
2. 暗茶色砂
3. 暗茶灰色砂
4. 暗茶灰色砂＋黄色砂混合
5. 暗黄色砂
6. 4より黄色強い
7. 淡黄色砂（地山よりやや暗い）

SK08・SK09




1. 淡黒褐色砂
2. 灰茶褐色砂
3. 2より灰色濃い
4. 淡灰茶褐色砂
5. 4より灰色濃い
6. 1より淡い

SK11・SK12




1. 濁黒茶褐色（黄色砂混入）
2. 1より黄色強い
3. 淡黄灰色砂

SK10

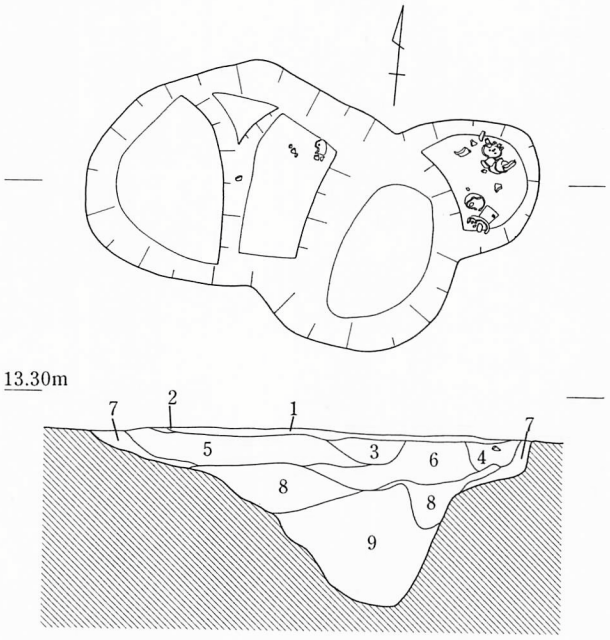
1. 3よりやや灰色
2. 暗黄色砂
3. 4より黒み少ない
4. 黒褐色粘質砂＋黄色砂
5. 暗褐色粘質砂

SK13

1. 濁茶褐色砂
2. 黒茶褐色砂（1まだら状混入）
3. 黒茶褐色砂

SK14

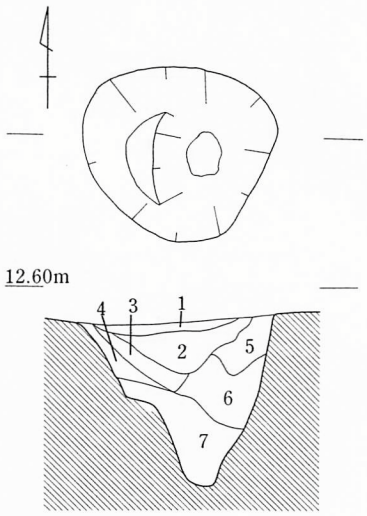
**第11図**　各遺構平面図・断面図２　（S＝1/60）




1. 黒褐色砂に黄色砂含む
2. 暗黄色砂
3. 濁黄色砂に黒色砂含む
4. 濁黄灰色砂
5. 6より黒色混合多い
6. 黒褐色＋黄色砂混合
7. 濁黄色砂
8. 暗褐色砂＋黄色砂混合
9. 暗褐色砂に黄色砂混入

0 1m

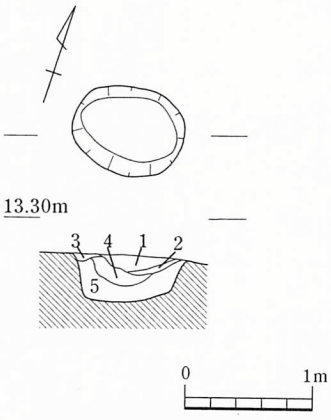
SK15




1. 濁黒茶灰色砂
2. 濁黒茶灰色砂＋淡茶黄色砂混入
3. 2と4の中間
4. 淡茶黄色砂
5. 濁茶褐色砂
6. 淡茶黄色砂＋濁灰褐色砂
7. 濁灰褐色砂

0 1m

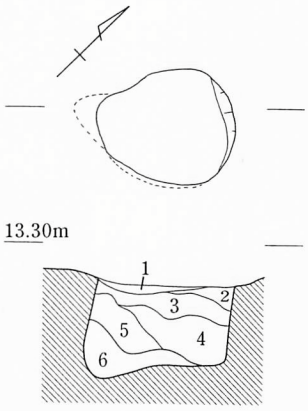
SK20




1. 黒褐色砂に黄色砂含む
2. 濁黄色砂に黒色砂含む
3. 濁黄色砂
4. 2より黒色混合多い
5. 暗黄色砂

0 1m

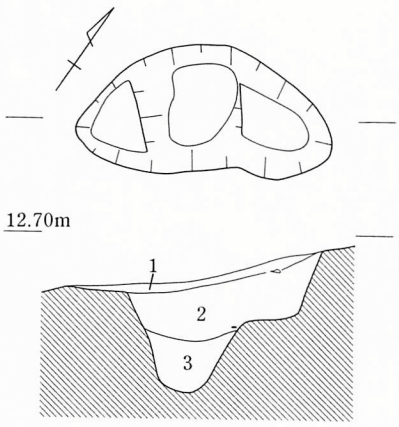
SK16




1. 濁黒茶灰色砂
2. 濁黒茶灰色砂＋黄色砂混入（多く含む）
3. 濁黒茶灰色砂＋黄色砂混入（少量）
4. 淡茶黄色砂
5. 3より黒色強い
6. 濁暗灰黄色砂

0 1m

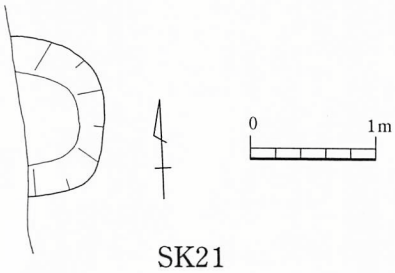
SK18




1. 暗茶褐色＋黄灰色粘質砂混入
2. 黄灰色砂
3. 濁暗灰褐色粘質砂

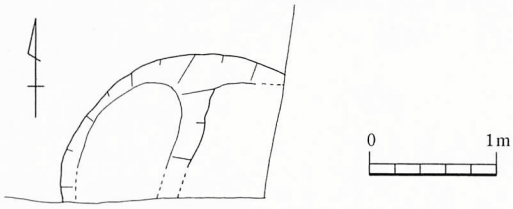
0 1m

SK19



0 1m

SK21



0 1m

SK17

**第12図**　各遺構平面図・断面図３（S＝1/60）

No.17は有段口縁で平底の鉢である。内外面ともミガキ調整が認められ、外面には煤が付着している。No.18は受部の腰がしっかりと張り有段となっている高坏である。脚柱部はまっすぐにのび、八の字状に広がる台部へと続く。脚台部は三方の透かし孔があり、端部は上下端共にわずかにつまみ出されている。図化資料、No.12・14・17・18は胎土と焼成色調に共通点が見られる。いずれも弥生時代後期後半～末期にかけてのものと思われる。

**ＳＫ16（第12図）**

Ｂ１区でＳＫ15のすぐ北側に位置している。上端部は略方形を呈し、長軸が90㎝、短軸が70㎝、深さが34㎝である。

**ＳＫ17（第8、12図）**

Ｃ７区、ちょうど調査区南東角にあたる。そのため南側と東側は調査区外となり、全体形は不明である。深さは土坑の中で最も深い197㎝を測る。底部は東側が１段高くなっており、壁は底から東側で袋状を呈しながら立ち上がっている。土坑中の遺物は少ない。

**ＳＫ18（第12図）**

Ｂ６区、ＳＤ01に接するような形で位置している。上端部は楕円に近い形で、底部は南側から東側にかけて袋状を呈している。土器の包含は少ない。

**ＳＫ19（第12、19、28図）**

Ａ４区に位置している。上端部は不整形で、西側上部に浅いフラットな面を持ち、東側に土坑の中位辺りにもフラットな面を有して、底へ落ち込んでいる。深さは90㎝を測る。

第3層から比較的多くの土器片が出土した。また、土器片に混じって焼石や軽石片も出土している。口縁部片１点と底部片２点を図化した。時代的にはＳＫ15など大差ない時期のものと考えられる。

**ＳＫ20（第12、15図）**

Ｘ１区に位置する。上端部は円形を呈している。長軸が152㎝、短軸が146㎝、深さは130㎝を測る。坑壁は底から緩やかに西側にフラットな面を形成して外開きに立ち上がる。

遺物については、４点を図化掲載している。No.7・8は有段口縁の甕であり、口縁部分には強い横ナデが施される。またNo.10は器台の受部だと思われる。体部が有段になっており、わずかに内湾ぎみの口縁部は端部を丸くおさめる。

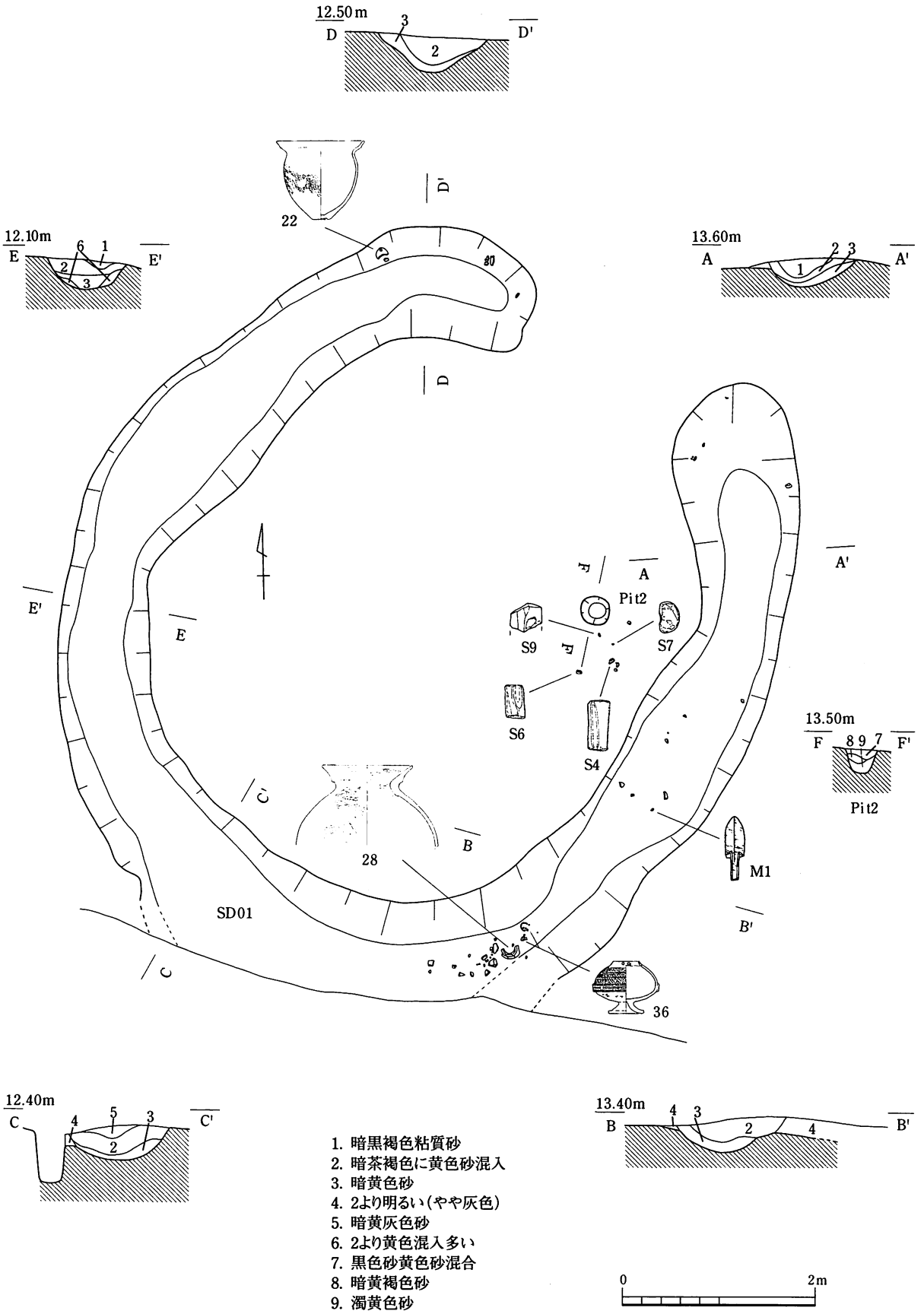
**ＳＫ21（第9、12図）**

Ｘ２区からＸ３区にかけて位置する。西側部分は調査区外となり、全体の形は不明であるが、円形であると思われる。長軸は128㎝、深さは48㎝を測る。

**ＳＤ01（第13、17図）**

調査区南側に位置する。溝は上端幅が約100㎝で周溝状を呈しており、北東部分で途切れている。溝で囲まれた内側平坦面は、586㎝×574㎝でほぼ円形である。住居址である可能性を考慮して柱穴の検出を試みたが、内面にはピットが１基（Pit2）存在するのみでその他の遺構は見つからなかった。

遺物の出土状況は、周溝で囲まれた内側平坦面の中心から見て南東部分にまとまりを見せるが、それ以外にも散発的に出土している。甕は有段口縁の他、くの字で端部を上方につまみ出すものや、受け口状のものが存在している。No.28は広口の球胴タイプの壺である。頸部は短く段を持ち、外反ぎ




**第13図**　各遺構平面図・断面図４（S＝1/60）

みに大きく外傾した口縁部は端部に面を持っている。口縁部の内面は頸部から端部までほぼ一直線にのびている。No.33は有段の脚台部で、底端部の上下端をわずかに突出させており、台部には３条の擬凹線が巡り、その下に三方向に２個一対の透かし孔があったと思われる。有段部より上部の柱部へと続く部分と底端部に赤彩が施され、その２つの部位を繋ぐ様に直線的な赤彩痕が３ヶ所に確認できる。No.36は口縁部に２孔一対の蓋結束孔がある台付無頸壺である。八の字様の台部は端部に面を持ち、体部は腰の張ったプロポーションで口縁部分がわずかに上方へつまみあげられている。外面には赤彩が施され、体部上半には２条の直線とそれに挟まれた部分に格子状のヘラ描が３列確認でき、体部の一番張り出した部分には、上下端に刻み目が入り中央部に２条程の擬凹線の入った凸帯が巡っている。

その他土器以外に、銅鏃１点、錐先状鉄製品１点、砥石が１点出土している。M1は有茎の銅鏃[註1]で、鏃身部は柳葉状で明瞭な鎬（しのぎ）をもつ。鏃身部は鋳ズレのため、基部の形状が表裏で異なる。鋳造の際に生じたバリや、表面の細かな凹凸を除去するために生じたものか、鏃身（刃）部には細かい欠損が認められ、鏃身部及び茎部の表・裏面には斜め方向、茎部側面には縦方向の研磨痕が認められる。Ｍ２は細い棒状の鉄製品であるが、錆ぶくれが著しく、旧形状の推定は困難である。後述する玉造関係の石製品がまとまって出土していることから、玉製品の穿孔・調整に用いられた鉄錐である可能性が高いとの指摘を頂いている。Ｓ1は砥石で、表面に幅1.3cm程で断面が半円形の溝が確認できる。この溝の外周は直線的ではなく、その両端部に向かって丸味を帯びてゆき、深さも中央部が一番深く両端部に向かって浅くなっている。これは管玉のようなものを直線的に磨いたのではなく、勾玉のような曲線を作り出すのに使われたと考えられる。また施溝面だけでなく、その裏側や、破損のため観察が困難である一側面を除いて、全ての面に使用による磨耗が確認できる。出土遺物から見た本遺構の年代は、他の多数の土坑群と同じく、弥生時代後期後半～終末期として捉えておく。

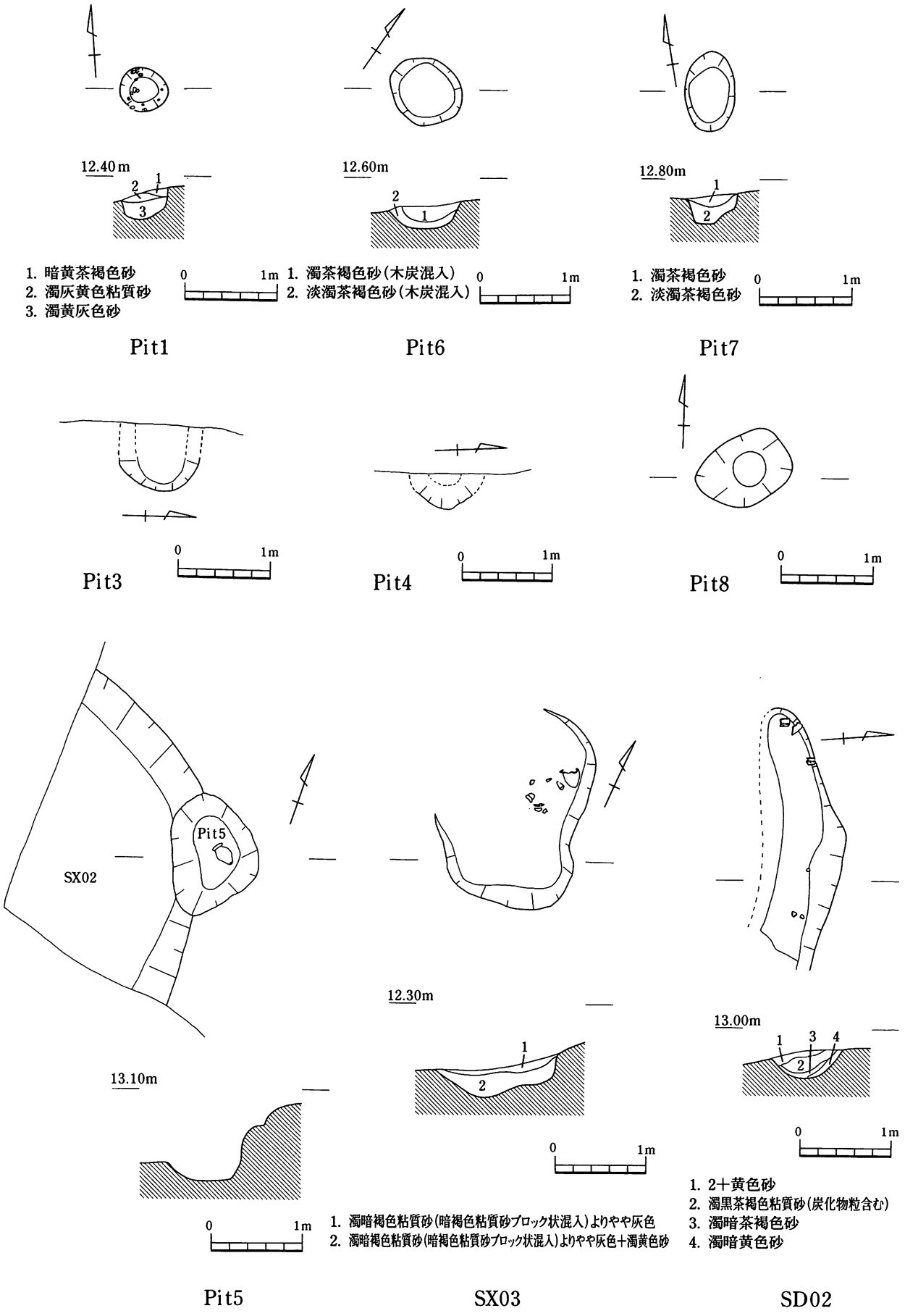
**ＳＤ01内側平坦面**

周溝状に巡るＳＤ01に周囲を囲まれた部分は略円形を呈し、ほぼ平坦になっている。この平坦面の中心部からみて東側にあたる部分から玉造りに関する石製品が出土している。Ｓ2～Ｓ6は砥石である。Ｓ2・3は同じ材質で凝灰岩質であると思われ、両側面[註2]に施溝されている。破断面以外の全ての面で使用痕が確認できる。またＳ5と6は、破断面も一部合致し、同一個体であると思われるが、破断面部分も一部磨耗が認められ、割れた後の使用も考えられるので個別に番号を付け掲載している。Ｓ7はヒスイ製[註3]の勾玉未製品である。長さ1.6cm程の大きさで、半円形の直線部分を窪ませ、勾玉形にしようとしている。色調は大部分が半透明な乳白色で、その表面の一部に濃黄緑色が付着しているというイメージである。一見して質はあまり良いものではない。Ｓ8は長さ１cm程度の角の丸い6面体を呈すると思われる。Ｓ9は不整形な6～8角柱の先端を山型に研磨したものと思われる。Ｓ8・9共に材質は特定できていない。また図化は行われなかったが、ヒスイ原石が４点（内1点はＳＤ01中）出土している。これら原石[註4]は直交する平坦な面を持ち、直方体を意識して割られている様である。

**ＳＤ02（第14、19図）**

Ｘ1～Ａ1区にかけて位置する。東側はＳＫ02により切られて、西側は攪乱の影響で判然としない。

遺物は９点を図化掲載している。その内５点は有段口縁の甕で、頸部がやや緩やかに立ち上がり、やや外反する口縁部がつくものと、頸部が鋭く折れ曲がるものが存在する。口縁部分はしっかりとナ




**第14図**　各遺構平面図・断面図5（S＝1/60）

デ回され、外面に窪みが明瞭に残るものが多い。その他、長胴タイプの直口壺No4の頸部外面や、No.47の脚端部外面には赤彩が施されている。また、覆土の第２層目から先端が加工されてた木炭が出土している。

**ピット（第8、9、13、14、19図）**

調査区でピットとして取り扱った遺構は８基ある。A3区に位置するPit1は、上端部が53cm×48cmでほぼ円形を呈しており、遺物については７点を図化した。口縁部は有段状になっているものが多く、底部片も３点図化しているが、いずれも平底で外傾し、直線的にのびる体部を持つものと、内湾するものが存在する。

Pit2はＢ6区、ＳＤ01に囲まれた内側平坦面に位置する。上端部は30cm×30cmの円形で、深さは30cmを測り、ピットの周囲からは勾玉の製作に関連する遺物が出土しているが、覆土中からは見つかっていない。

Pit5はＸ6～Ａ6区にかけて位置し、ＳＤ01の下から検出されている。甕１点が出土している。遺構底部にほぼ完形で正位の状態で検出された。有段口縁で口縁部分は外反し、外面にはナデ回しによる調整痕が２列に残る。頸部は鋭く屈曲し、体部内外面にはハケ調整が施される。平底から直線的にのびる体部をもつ。ＳＤ01との切り合いからはPit5の方が先行しており、所属時期は弥生後期を考えている。

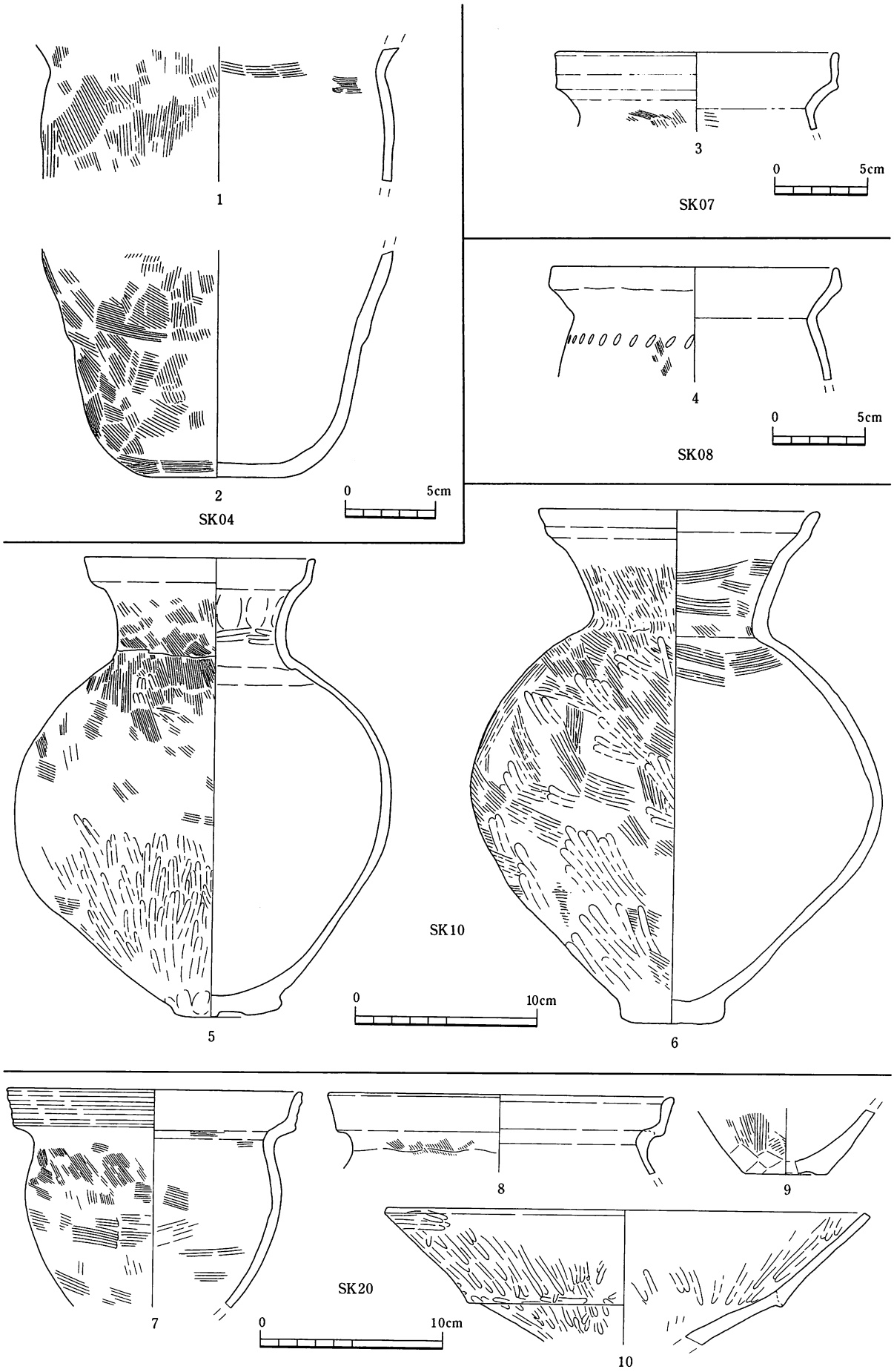
Pit6はＸ２区に位置し、内部からは多くの木炭が出土している。

Pit8は調査区中央に位置している。遺物は、No.56が出土しており、外面の調整などから長胴タイプの壺であると思われる。底部は平底で、やや突出している。

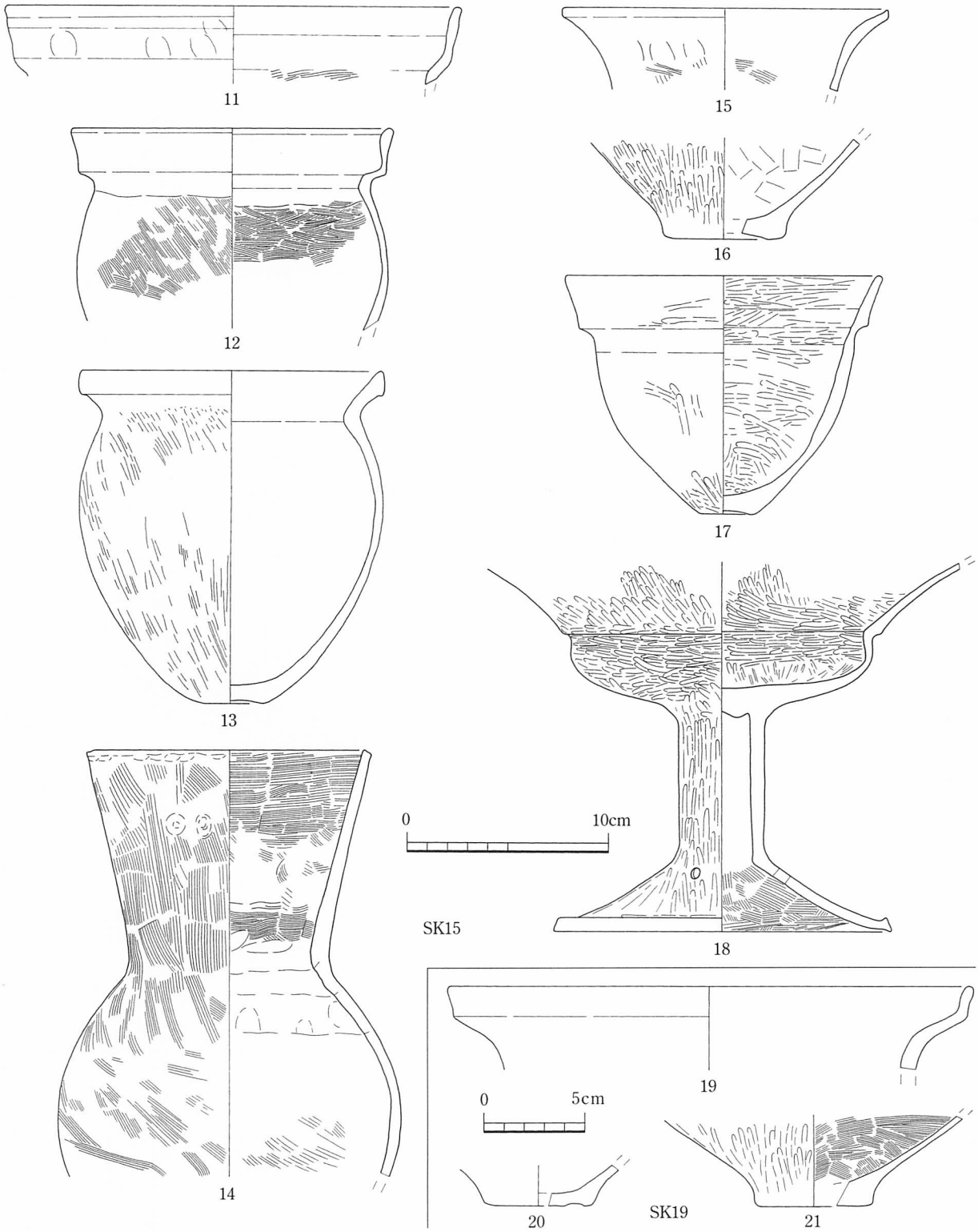
**ＳＸ01（第14、20、21、22図）**

調査区北側中央に位置する。北側が調査区外であり、全体形は判然としないが、非常に固くしまった黒色粘質砂が一面に広がっており、周囲の砂とは明らかに異なっている。また、数センチほどの黒色粘質砂層の中に土器の細片が一様に挟まっている状況である。

遺物は土師器の甕・壺・椀などが出土している。土師器の甕は全般に作りが荒く、内外面に粘土接合痕を確認できるものが多い。底部は平底で、径８cm前後のものと、11cm以上のものに大別でき、小さい径のものはハケ調整が裏面にまで及ぶものがある。プロポーション的には体部にあまり膨らみをもたないズン胴タイプである。口縁部はくの字状でやや外反し、端部に向かって細くなりそのまま丸くおさまって、内外面にナデ調整が施されるが、No.57のように内外面から端部を押さえ上げ、表面が凸凹しているものも存在する。壺類は、No.68・69のように外面がミガキ調整され、平底で丸味を帯びた体部と、外反して先細りながら、端部を丸くおさめる短い口縁部をもつものと、No.79のように底部からの立ち上がりが急で、やや四角っぽい体部に、やや長い真っ直ぐな頸部をもつものと思われるものが存在している。椀は９点を図化したが、その内の７点の内面が黒色を呈している。口径は14cm前後にまとまりを見せ、やや小振りなNo.74や78も存在している。口縁部は内湾する体部からわずかに外傾させ真っ直ぐに立ち上げるものと、端部のみをわずかに外反させるものと、端部を大きく外反させるもの、内湾する体部を内傾するまでのばし、端部のみがわずかに外反するものが確認できる。また、No.77は底部裏面に「十」のヘラ記号が施されている。本遺構より出土した鉄製品を５点




**第15図**　SK04・07・08・10・20 出土遺物（S＝1/3）

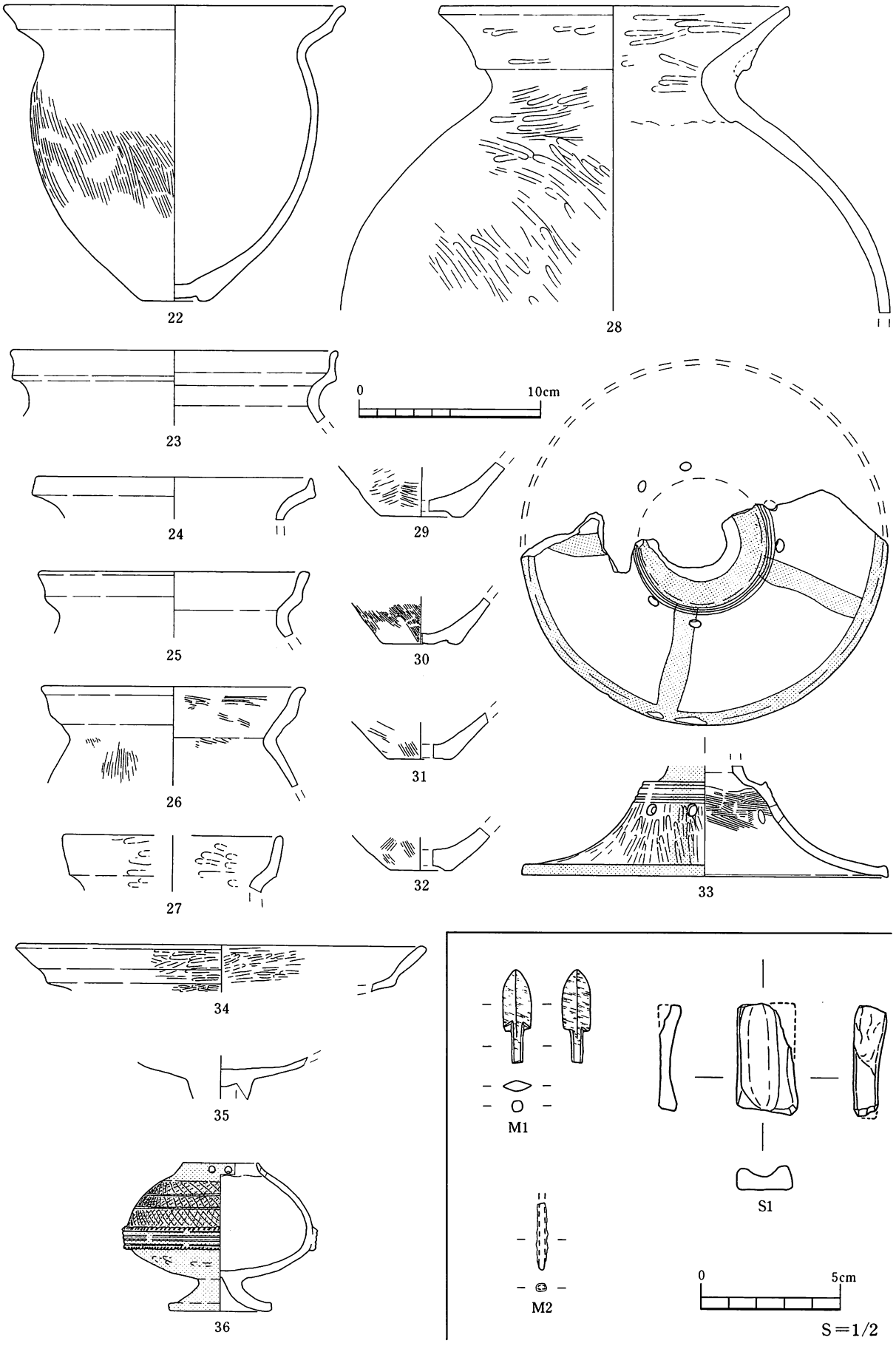



**第16図**　ＳＫ15・19　出土遺物（Ｓ＝1/3）

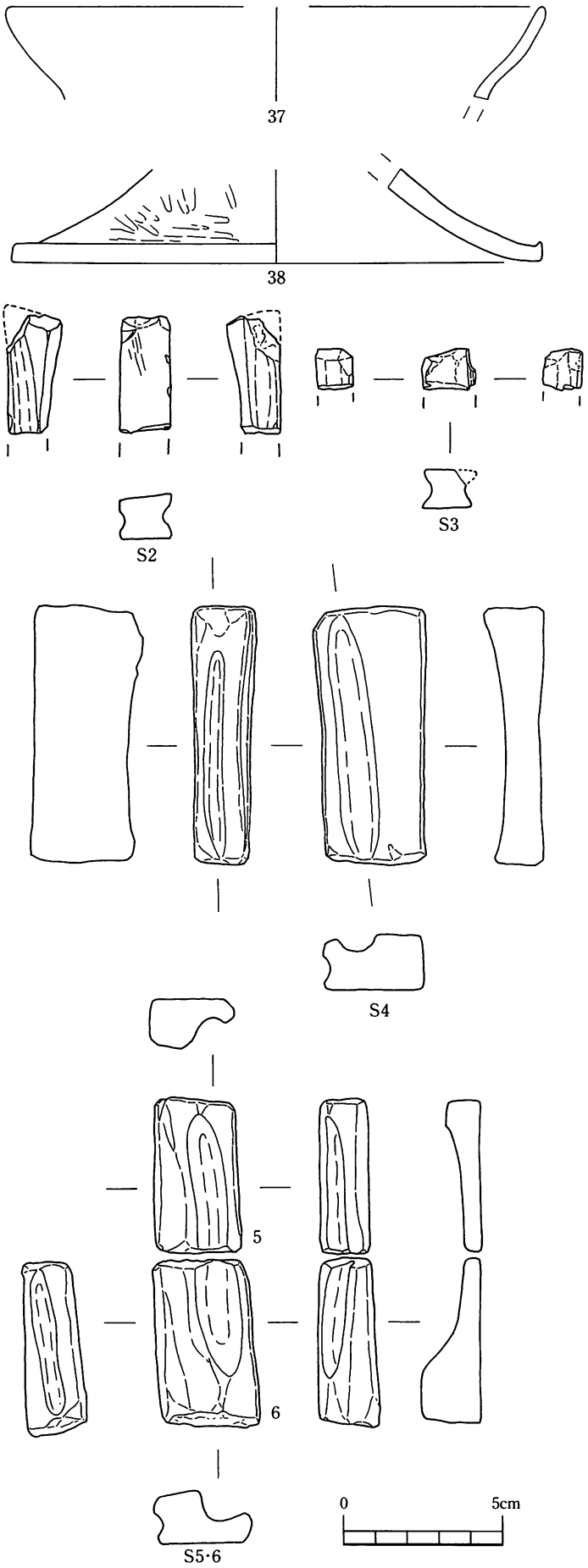
図化したが、ＳＫ06出土の鉄鏃と合わせて後述する。ＳＸ01出土の遺物については、寺家遺跡の第12次調査などに類型を求めることができると思われるが、須恵器は共伴出土せず、時期的にはわずかに遡って考えておきたい。

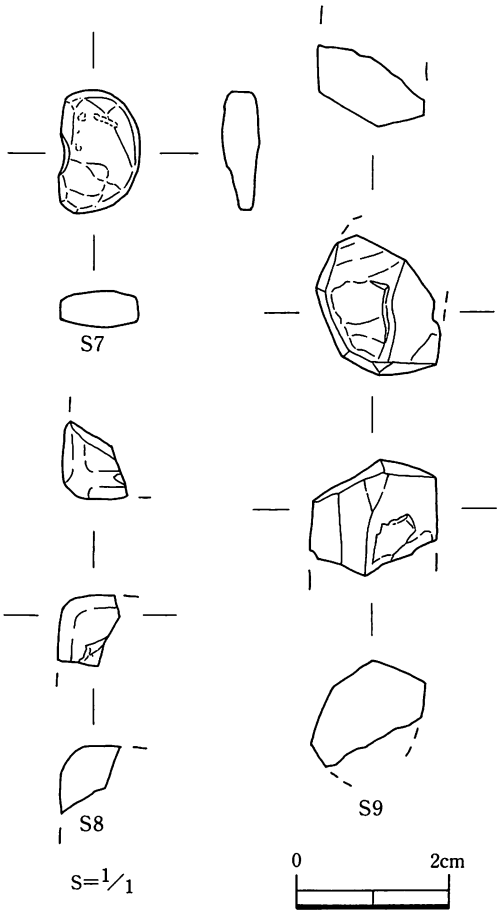
**ＳＸ02（第14、21図）**

調査区南西の角に位置する。斜面上に一段低い面を形成している。




**第17図**　SD01 出土遺物（S＝1/3・1/2）

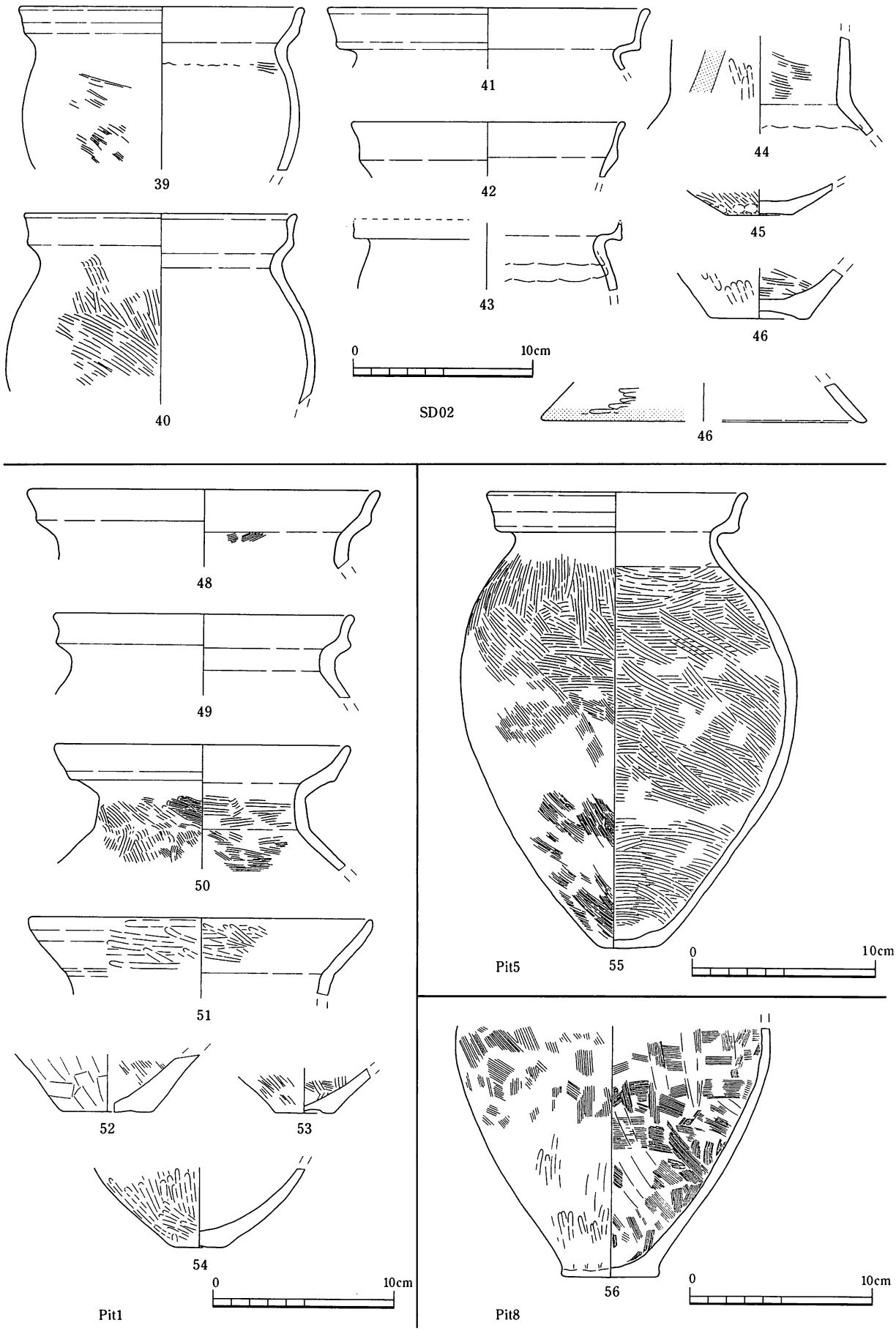


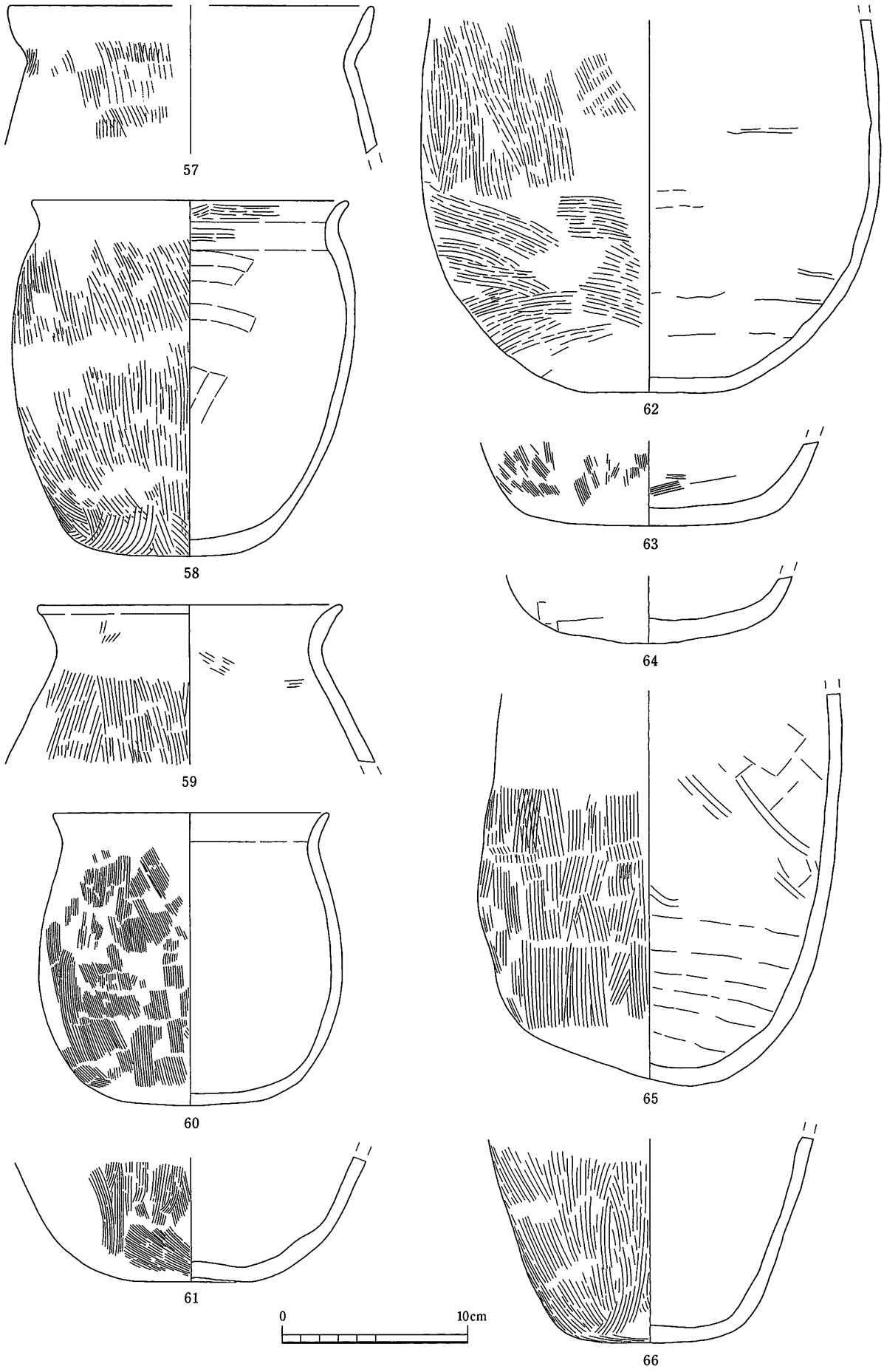

## 粟生シモデ遺跡出土石製品観察表

| 押図番号 | 種　別 | 出土地点 | 計測値 | | | | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺　構 | 長さ | 幅 | 厚 | 重量 | |
| S1 | 玉砥石 | SD01 | 4.0 | 2.2 | 1.1 | 10.0 | 溝１条 |
| S2 | 玉砥石 | SD01内側 | 3.6 | 1.6 | 1.4 | 12.0 | 溝２条 |
| S3 | 玉砥石 | SD01内側 | 1.3 | 1.5 | 1.2 | 3.0 | 溝２条 |
| S4 | 玉砥石 | SD01内側 | 8.0 | 3.5 | 1.9 | 93.0 | 溝２条 |
| S5 | 玉砥石 | SD01内側 | 4.8 | 2.7 | 1.5 | 29.0 | 溝１条 |
| S6 | 玉砥石 | SD01内側 | 5.2 | 3.1 | 1.9 | 47.0 | 溝２条、No.5と同一 |
| S7 | 勾玉未製品 | SD01内側 | 1.6 | 1.0 | 0.5 | 1.0 | （ヒスイ） |
| S8 | 玉未製品？ | SD01内側 | 1.0 | 0.8 | 1.0 | 2.0 | |
| S9 | 玉未製品？ | SD01内側 | 1.5 | 2.0 | 1.5 | 5.0 | （ヒスイ？） |
| S10 | 砥　石 | X-3、4区 | 9.6 | 7.6 | 5.2 | 630.0 | |
| S11 | 砥　石 | X-5区 | 5.0 | 2.9 | 2.5 | 65.0 | 溝2～3条円形のくぼみ２個 |
| S12 | 玉砥石 | X-3、4区 | 7.7 | 1.9 | 1.0 | 18.0 | 溝１条 |
| S13 | 有孔円盤状石器 | X-5区 | 径：9.1 | - | 3.3 | 245.0 | |
| S14 | 石　鏃 | X·A-1、2区 | 2.7 | 1.6 | 0.3 | — | 一部欠損ケツ岩 |
| S15 | 石　鏃 | X-3、4区 | 1.8 | 1.5 | 0.3 | — | 先端欠損 |
| S16 | 石　鏃 | X-5区 | 2.9 | 1.9 | 0.5 | — | 一部欠損ケツ岩？ |
| S17 | 石　鏃 | SK19 | 2.8 | 1.7 | 0.3 | — | |

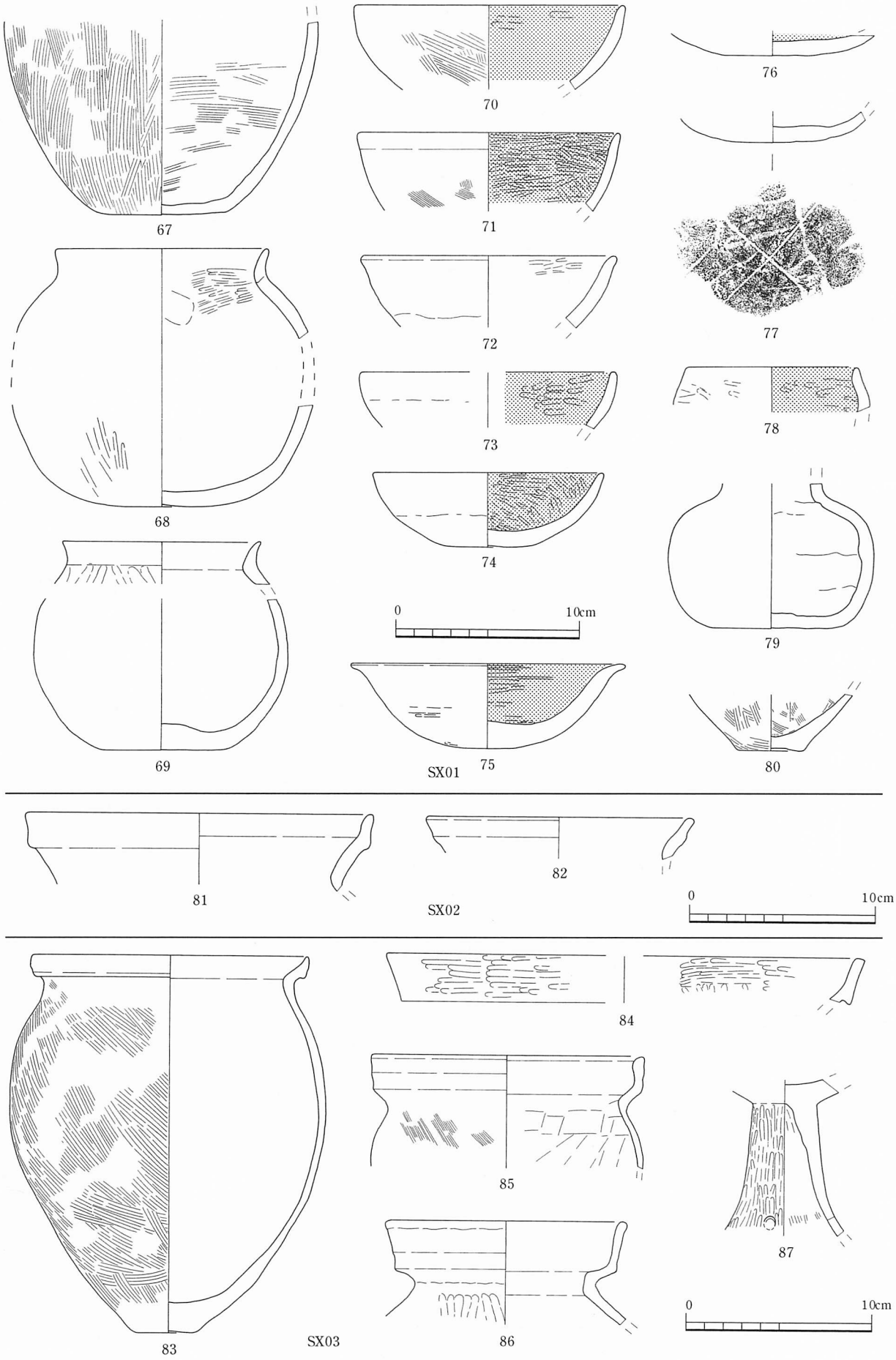
**第18図**　SD01内側平坦面　出土遺物（S＝1/1、1/2）



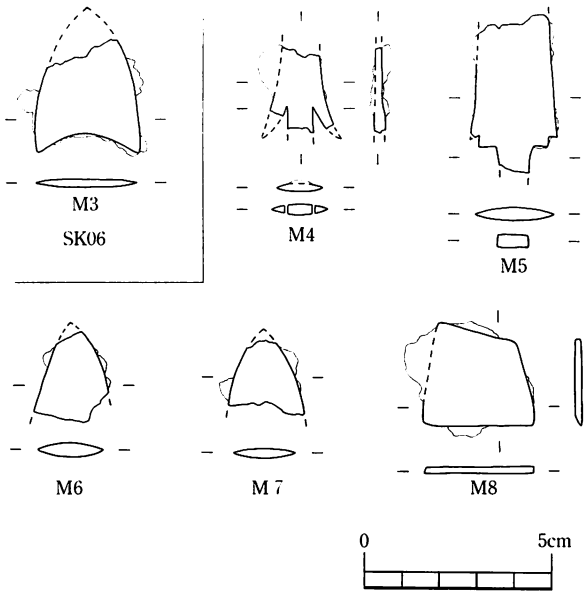

**第19図**　SD02、Pit1・5・8 出土遺物（S＝1/3）




第20図　SX01 出土遺物（S＝1/3）




**第21図**　SX01･02･03 出土遺物（S＝1/3）




**第22図** SK06、SX01 出土鉄製品（S＝1/2）

**粟生シモデ遺跡出土金属製品観察表**

| 押図番号 | 種別 | 出土地点 | 計測値 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | A | B | C | D | E | 重量・g |
| M1 | 銅鏃 | SD01 | 全長 3.1 | 鏃身幅 1.0 | 鏃身厚 0.1 | 茎幅 0.1 | 茎厚 0.1 | 3.02 |
| M2 | 鉄錐？ | SD01 | 残在長 2.1 | | | 幅 0.35 | 厚 0.3 | 0.59 |
| M3 | 銅鏃 | SK06 | 残在長 3.05 | 鏃身幅 2.85 | 鏃身厚 0.2 | | | 1.8 |
| M4 | 銅鏃 | SX01 | 残在長 2.3 | 鏃身幅 1.7 | 鏃身厚 0.2 | 茎幅 0.65 | 茎厚 0.3 | 2.03 |
| M5 | 銅鏃 | SX01 | 残在長 4.2 | 鏃身幅 2.3 | 鏃身厚 0.37 | 茎幅 1.0 | 茎厚 0.38 | 7.5 |
| M6 | 銅鏃 | SX01 | 残在長 2.4 | 残在幅 2.0 | 鏃身厚 0.4 | | | 3.01 |
| M7 | 銅鏃 | SX01 | 残在長 2.0 | 残在幅 2.0 | 鏃身厚 0.25 | | | 2.13 |
| M8 | 板状鉄製品 | SX01 | 残在長 2.75 | | | 幅 2.95 | 厚 0.2 | 6.02 |

遺物については、有段状に作られた口縁部片を２点掲載した。

**ＳＸ03（第14、21図）**

Ｘ3～Ｘ4区に位置する。斜面上に形成された鞍部のようなもので比較的多くの土器溜まっていた。遺物は、全形のわかる甕１個体と口縁部の形状のわかるものを中心に計５点を掲載した。No.83は、くの字状口縁の甕で、口縁部下端が肥厚している。底部は平底で、わずかに外反した立ち上がりを見せている。No.84は口縁部片で、内外面ともミガキ調整が施され、口縁部下端が下方に引き出されている。No.85・86は有段口縁の甕と壺で、共に口縁部外面に強いナデ回しで２列の窪みが残っている。No.87は八の字状に開く高坏の脚部片で、三方に透かし孔を確認できる。

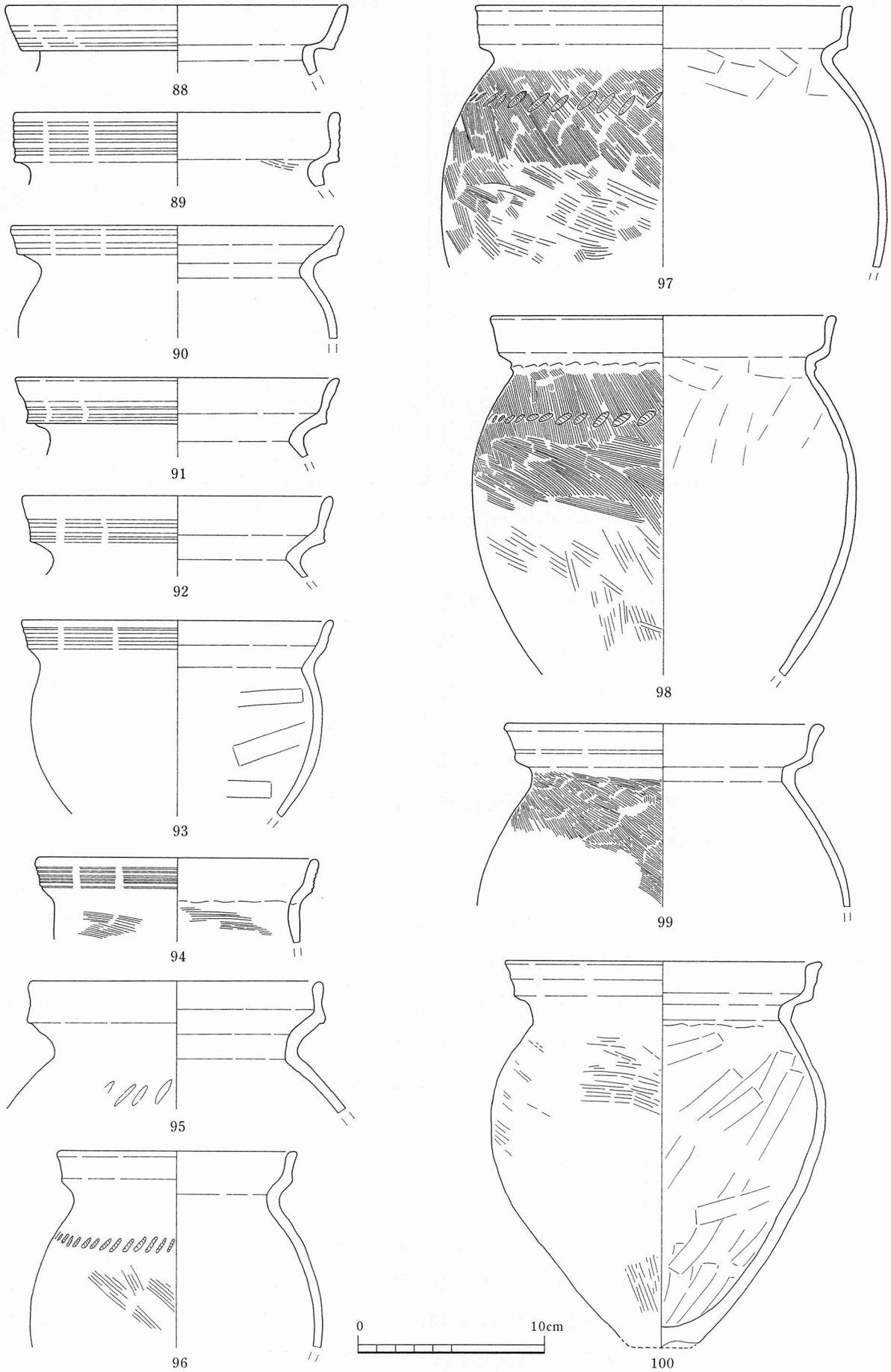
**鉄製品（第22図、M3～M8）**

M3はＳＫ06からの出土品である。無茎三角式の鉄鏃[註5]で、鏃身部の先端は欠損している。基部は緩やかな弧を描く凹基である。M4～M8はＳＸ01からの出土品である。M4は有茎腸挟式の鉄鏃である。鏃身部から茎部にかけて厚みが急激に増している。[註6]

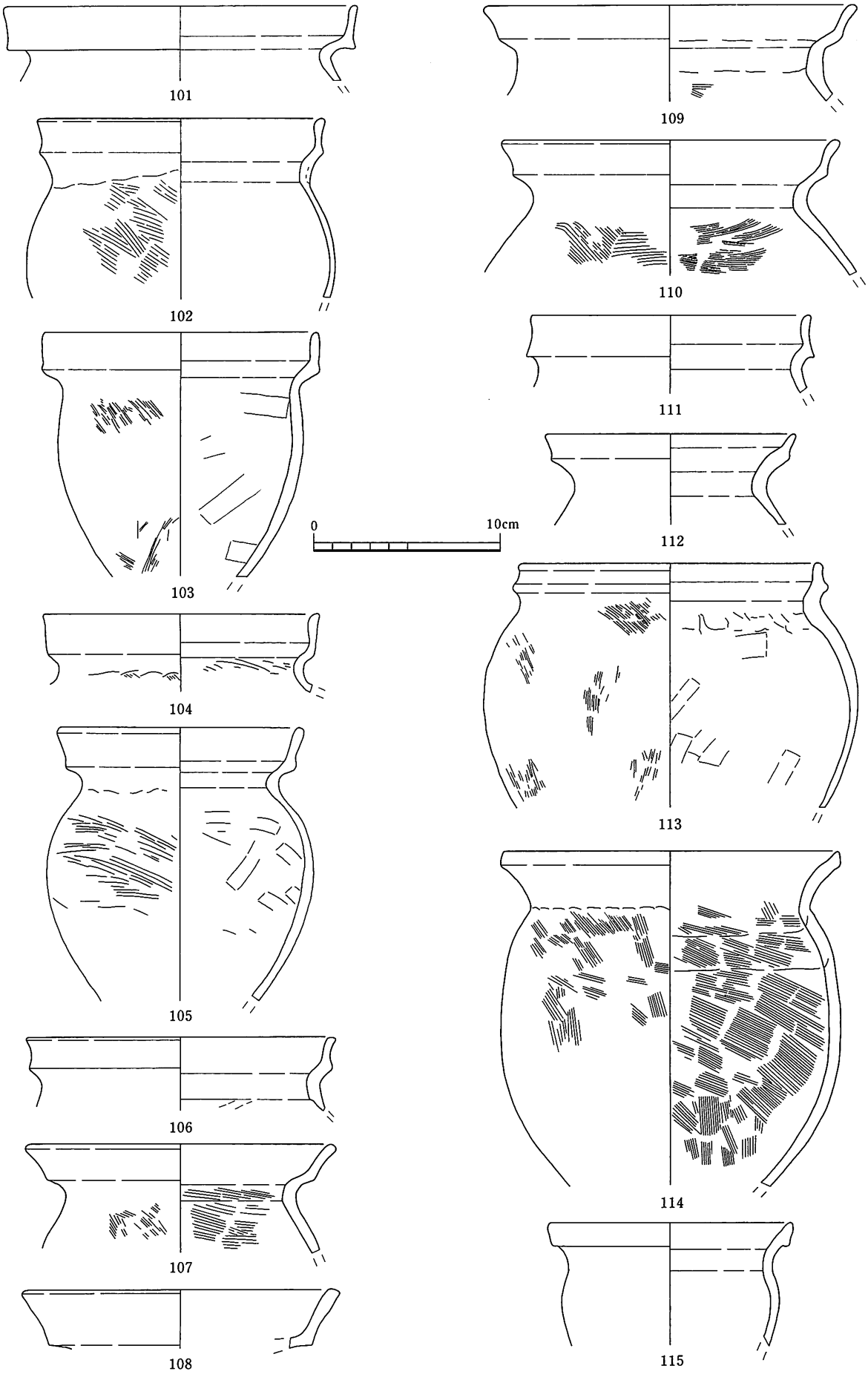
逆刺は鏃身部をレンズ状に形成した後、タガネ切りすることでつくり出されている。M5は有茎柳葉式の鉄鏃で、２重の逆刺をもつ。鏃身部先端、茎部、逆刺は欠損している。M6・M7は鉄鏃の鏃身部先端と考えられる。断面はレンズ状を呈している。M8は不整台形を呈する板状の鉄製品[註7]で、一辺に刃部が認められる。

**その他の包含層出土土器（第23図～第27図）**

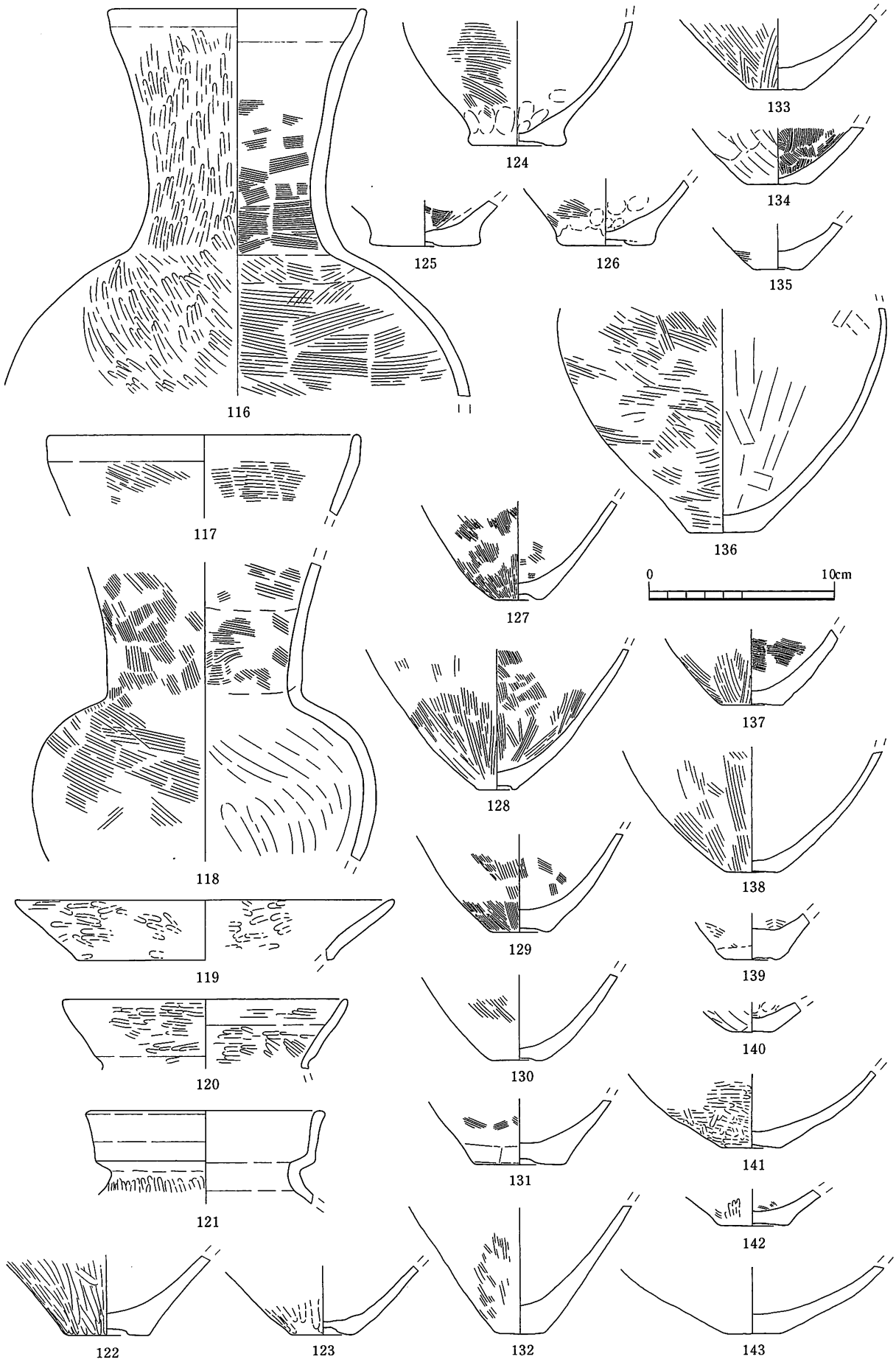
土製品も含めて87点を図化掲載している。大半は弥生時代後期後半～終末期の遺物で、ＳＸ01に見られるような古墳後期以降の遺物も出土している。甕類については、大部分が無文の有段口縁のもので、口縁部外面にハケ状具による強いヨコナデが擬凹線様に残るものは口縁部分の厚みが比較的均一で端部をそのままおさめるものが多い。口縁部分は概して強いヨコナデのため中央が窪み、一部上下２段にヨコナデが残るものも存在する。外面上は上端と下端にふくらみをもつものが多く、口厚部分はやや肥厚する傾向が強い。この内４点からは肩部にハケ状具による刺突文を確認している。この他



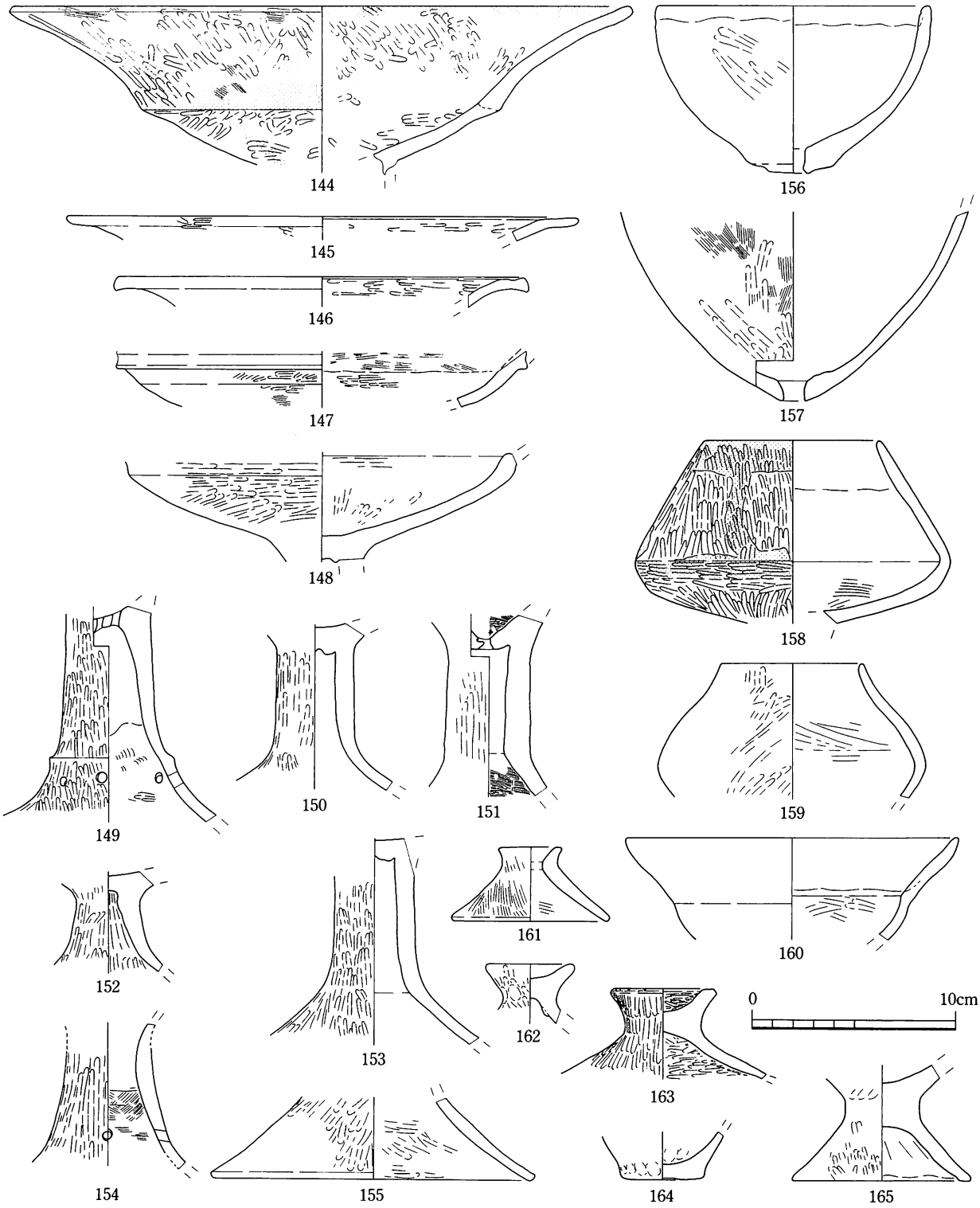

**第23図**　包含層 出土遺物1（S＝1/3）




**第24図**　包含層 出土遺物２（S＝1/3）

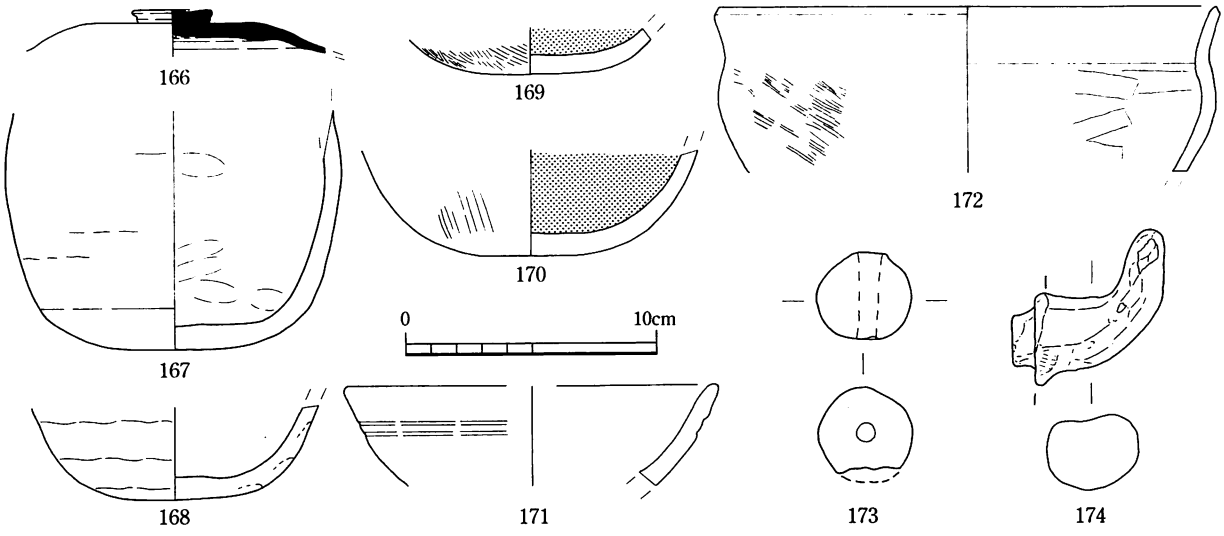



第25図　包含層 出土遺物3（S＝1/3）




**第26図**　包含層　出土遺物４（Ｓ＝1/3）

短い口縁部が大きく外側に開いているNo.112や、短い口縁部が内傾するNo.113、くの字状の口縁をもち、端部がわずかに上方に引き出され、面を持っているNo.114や、同じくくの字状口縁で下端を下方に引き出されているNo.115などが存在している。また全体に外面にはハケ調整が施され、体部内面にはケズリ調整が施されるものが多い。壺については長い頸部が外傾ぎみにのび、口縁部のみを真っ直ぐ上方にのばすものと、有段口縁のものがある。またNo.158は台付無頸壺で、口縁部と体部




**第27図**　包含層出土遺物（S＝1/3）

中央の外面が横位に赤彩されており、その間に半丸様の文様が描かれる。体部上半は内湾ぎみに立ち上がるが、口縁部はわずかに外反し、端部は丸くおさまる。体下半は欠損している。壺・甕類の底部については外底面の中央部に窪みがあり、外周から中央に向けて緩やかに弧を描くタイプと有台状に段差がしっかりつくものが多く、後者が主流を占めている。さらに体部は内湾して立ち上がっていくものが多いが、直線的にのびるものや、底部が突出し立ち上がりが外反するものも一定量確認できる。高坏・器台類については全形のわかる資料はなく、脚柱部なども積極的に掲載した。No.144は高坏受部であり内外面に赤彩痕が認められる。有台部と口縁内面に横位の赤彩が認められ、その間にも赤彩痕が残るが、ＳＤ01出土のNo.33のようにしっかりとした線になっていない。脚部は直線的にのびるものが多く、台部は八の字状に開き、有段となっているものも1点存在する。No.156・157は有孔鉢である。底部は共に尖りぎみで、No.156は円柱様のものが剥離したような形態である。この他、蓋類、小型土器などを図化した。

**石製品**

包含層から出土した砥石４点と４点の石鏃（ＳＫ19より出土のＳ17を含む）の図化掲載を行った。Ｓ11とNo.12は玉砥石と思われ、Ｓ11はＳ2・3と、Ｓ12はＳ1とそれぞれ同じ材質と思われる。Ｓ13は有孔円盤状製品であり、穿孔を行う道具の当て具であると思われる。石鏃はすべて無茎の三角式であり、Ｓ16を除く3点は凹基である。

註１　以下、金属製品に関する記述は注釈も含めて、殆ど全て林大智氏の御教授による。林氏の意図が十分に伝わらなかったり、誤解を招くようなことがあるとすれば、表記を行った筆者に責があります。県内では金沢市下安原、海岸遺跡や内灘町大根布砂丘遺跡、金沢市戸水ホコダ遺跡などで類似する形状の資料が確認できる。

註２　今回の場合、玉造りに使用されたと思われる溝が確認できる面ではなく、平面積が最大である面を表の面として捉えている。

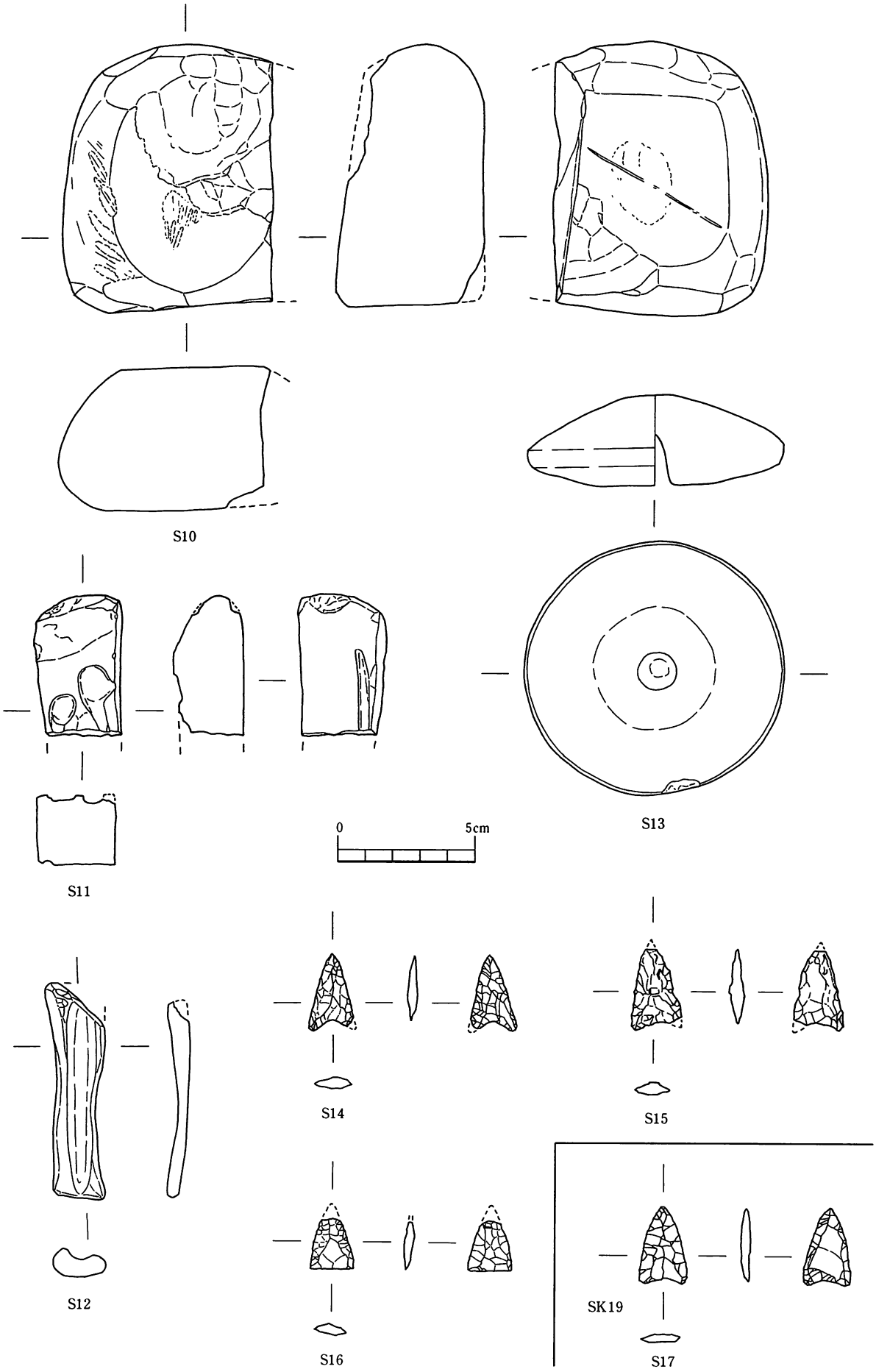
註３　半透明を乳白色の部分があまりに多く、ヒスイではないのではないかとも思われたが、ヒスイであろうとの御教授を県埋文センターの岡本氏より頂いた。

註４　正確には荒割工程後のものとも考えられる。

註５　林氏によると、「タガネ切り技法」を用いて製作された可能性があり、また、無茎三角式の鏃は石川県内においては弥生時代後期後半～終末期の遺跡で多く認められるとのこと。

註６　鏃身部が棒状鉄製品の「打ち延ばし」により作られたか、鏃身部と茎部は異なる素材を「鍛接」して作られたか2つの可能性が考えられる。

註７　鏃・方形板刃先の破損品である可能性と、鏃の製作に用いられる板状の素材である可能性が考えられる。




**第28図**　包含層及びSK19 出土石製品（S＝1/2）

# 第4章　ま　と　め

本調査区内からは20基を数える土坑が検出されている。とりわけその中でも大型土坑の存在が際立っているといえる。羽咋市の北部丘陵上の柳田シャコデ遺跡からは縄文期の落し穴としての性格を有する大型土坑が発見され、また、羽咋郡押水町に所在する冬野遺跡や竹生野遺跡からも大型土坑が発見されているが、いずれも丘陵地上に立地しており、本遺跡のような砂丘地ではない。

砂丘地に掘り込まれた大型土坑は、調査中にはすぐに崩壊すると思われたが、意外にも調査終了時までその形を殆どその変えることはなかった。斜面上に形成された土坑からは比較的多くの土器片が出土しているが、その他の大型土坑には若干の遺物しか含まれていない。また、大型土坑の多くが分層できる層が少ないことから、比較的短期間の内に埋土したものと考えられる。これらの大型土坑がどのような目的に使用されていたのか。ＳＫ10から横向きに置けれて出土した2個の壺は、土坑の貯蔵施設としての役割を想起させる。

本遺跡出土の遺物はＳＤ01やＳＫ10・15などに代表される弥生時代後期後半～終末期にかけてのものと、ＳＸ01に代表される古墳時代後半期のものに大別される。今回検出された遺構・遺物はその大半が弥生時代のものであり、当該期には本遺跡で勾玉が製作されていたことを窺わせる資料が出土している。材質の違った３種類の砥石を使い分け、加工から粗仕上げ・仕上げへと製作が進む過程が推察される。また砥石はそのほとんど全ての面に使用痕が認められ、破損後の使用も想定でき、かなりすり減った状態になるまで使用されており、使用していた人々の性格の一端が窺えるようである。この他、居住区域における県内2例目の銅鏃の出土など、興味深い資料も出土している。今回は約400㎡と限られた面積での発掘調査であったが、砂丘地における弥生時代の生活の一端を明らかにすることができた。周辺地域でも長者川流域に新たに遺跡が確認されるなど、これから徐々に近隣の様相が明らかにされていくものと思われる。最後に、県埋文センターの久田氏と林氏には出土遺物等について、特に有益な御教授を頂いた。筆者の勉強不足によりその全てを活かしきることができなかったことを後悔しつつ、記して感謝の意を表します。

参考文献

『押水町冬野遺跡群』「大型土坑の機能について―能登半島の弥生時代を中心として―」　三浦純夫　1988　石川県立埋蔵文化財センター
『竹生野遺跡』　1988　石川県埋蔵文化財センター
『羽咋市柳田シャコデ遺跡』能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　1984　石川県立埋蔵文化財センター
『鹿首モリガフチ遺跡』能登海浜道関係埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　1984　石川県立埋蔵文化財センター
『石川考古資料調査・集成事業報告書』装身具Ⅱ（玉つくり）　2000　石川考古学研究会
『今浜Ａ遺跡』土砂採取事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書　2000　押水町教育委員会
『漆町遺跡』Ⅰ　1986　石川県埋蔵文化財センター
『谷内・杉谷遺跡群』　1995
『吉崎・次場遺跡　第13次発掘調査』　1994　羽咋市教育委員会
『寺家遺跡　第12次調査報告書』　1997　羽咋市教育委員会

# 粟生シモデ遺跡
# 出土遺物観察表

**凡　例**

**挿図番号**　挿図・写真図版・本文中の遺物番号で通し番号とした。

**出土地点**　上段にグリッド名を下段に遺構名を記入し、不明なものは包含層に入れた。遺構より出土した分は出土遺構名を記入し包含層分はグリッド名もしくは現地調査で用いた呼称を使用している。

**器　種**　器種の分別ができないものは（　）内に部位や種別を記入した。

**法　量**　土器はA：口径、B：頸部径、C：体部最大径、D：底径、E：頸部高、F：体部高、H：器高で土器の形態を示した。A・D・H以外は特記欄に掲載した。

**形成・調整**　主として器面内外の最終調整を部位に分けて記入した。空白は磨耗などで不明なものである。

**色　調**　『新版標準土色帳』をもとに以下の5グループに分けた（　）内は構成比。

a：赤色系統ー赤橙・赤灰色等（13.8%）
b：黄橙色系統ー浅黄橙色等（36.0%）
c：黄褐色系統ー黄褐・灰褐色（40.8%）
d：黄色系統ー灰色・浅黄色（9.0%）
e：灰色系統ー暗灰色（0.3%）

**胎　土**　砂：砂粒、海：海綿骨片、焼：焼土塊について、その大きさと量を裸眼とルーペ（10×）で観察した。ここでの砂粒とは石英、長石、雲母、岩石粒等の総称である。大きさは1.0㎜～2.0㎜をMとし、それ以上をL、それ以下をSとし、量は全体を主観的に通有量と思われるものを3：基準に5：非常に多い、4：多い、2：少ない、1：非常に少ないと表記し、不要なものは空白とした。

**遺　存**　口縁部の残存率を24分割で示し、（　）内の数値は底部の残存率を示している。

**特記事項**　文様・記号などその他の観察事項を記入した。

# 粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅰ

| 挿図番号 | 器種 | 出土地点 遺構 | 計測値 口径(A) | 底径(D) | 器高(H) | 成形・調整 部位 外面／内面 | 色調 外／内 | 胎土 | 遺存 口／(底) | 文様、記号、その他特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | (土師器)甕 | SK04 | — | — | — | 頸部 ハケ／ハケ | c／b | 砂粒 M3<br>海綿 S2<br>焼土 2 | — | B:18.1 |
| 2 | (土師器)甕 | SK04 | — | 8.2 | — | 体部 ハケ／ナデ | c／b | 砂粒 M3<br>海綿 S2<br>焼土 2 | (24) | No1と同一か |
| 3 | 甕 | SK07 | 15.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | b／b | 砂粒 L3<br>海綿 S2<br>焼土 3 | 3 | B:12.6 E:3.6<br>外部：煤付着 |
| 4 | 甕 | SK08 | 15.3 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ナデ | b／c | 砂粒 M3<br>海綿 M2<br>焼土 1 | 5 | B:13.1 E:2.7<br>外面：煤付着<br>肩部刺突文 |
| 5 | 壷 | SK10 | 12.4 | 5.8 | 24.9 | 口縁 ナデ／ナデ<br>頸部 ハケ／ナデ<br>体部 ハケ→ミガキ／ナデ | b／b | 砂粒 M3<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 10／(24) | B:9.4 C:20.4 E:5.0 F:19.9<br>体部内面：クレーター状の剥離痕多い |
| 6 | 壷 | SK10 | 14.8 | 5.7 | 28.0 | 口縁 ナデ／ナデ<br>頸部 ハケ／ハケ<br>体部 ハケ→ミガキ／ナデ | b／a | 砂粒 M2<br>海綿 M2<br>焼土 — | 12／(24) | B:9.5 C:22.4 E:5.8 F:22.2 |
| 7 | 甕 | SK20 | 15.8 | — | — | 体部 ハケ／ケズリ | c／a | 砂粒 L4<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 15 | B:13.0 C:13.8 E:3.1<br>口縁部:4条の擬凹線 |
| 8 | 甕 | SK20 | 18.7 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | b／a | 砂粒 M4<br>海綿 S2<br>焼土 1 | 9 | B:16.1 E:3.4 |
| 9 | 甕・底部 | SK20 | — | 4.5 | — | 体部 ハケ・ケズリ／ナデ | c／c | 砂粒 M3<br>海綿 S2<br>焼土 1 | (12) | 外部：煤付着<br>内面：炭化物か？ |
| 10 | 器台か | SK20 | 26.0 | — | — | 坏受 ミガキ／ミガキ | c／b | 砂粒 M2<br>海綿 S2<br>焼土 1 | 1 | |
| 11 | 甕 | SK15 | 22.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ・ハケ | b／a | 砂粒 L4<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 5 | |
| 12 | 甕 | SK15 | 15.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | a／a | 砂粒 S3<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 17 | B:13.6 C:15.4 E:3.0<br>外面：煤付着 |
| 13 | 甕 | SK15 | 14.8 | 3.2 | 16.3 | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | c／c | 砂粒 M4<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 17／(24) | B:12.7 C:14.9 E:2.2 F:14.1<br>外面煤付着 |
| 14 | 壷 | SK15 | 14.0 | — | — | 口頸 ハケ／ハケ<br>体部 ハケ／ナデ | b／b | 砂粒 S3<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 24 | B:9.8 C:16.9 E10.2<br>口頸部外面:2個1対の竹管状文 |
| 15 | 壷 | SK15 | 15.8 | — | — | 口縁 ハケ→ナデ／ハケ | a／a | 砂粒 M3<br>海綿 S2<br>焼土 1 | 3 | 外面：煤付着 |
| 16 | 壷底 | SK15 | — | 6.0 | — | 体部 ミガキ／(ミガキ) | a／d | 砂粒 M2<br>海綿 M3<br>焼土 1 | (8) | |
| 17 | 鉢 | SK15 | 15.4 | 2.7 | 11.8 | ミガキ／ミガキ | b／a | 砂粒 S2<br>海綿 S1<br>焼土 — | 16／(24) | 外面：煤付着 |
| 18 | 高坏 | SK15 | — | 16.4 | — | 坏 ミガキ／ミガキ<br>脚台 ミガキ／ハケ | b／b | 砂粒 S2<br>海綿 S1<br>焼土 1 | (24) | B:4.2 F:10.4<br>脚台部：三方透かし孔 |
| 19 | 甕 | SK19 | 25.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 M3<br>海綿 M3<br>焼土 3 | 2 | 外面：煤付着 |
| 20 | 底部 | SK19 | — | 5.5 | — | 体部 ハケか？／ナデ | b／d | 砂粒 L2<br>海綿 M2<br>焼土 1 | (6) | 外面：煤付着 |
| 21 | (壷)底部 | SK19 | 5.8 | — | — | 体部 ミガキ／ハケ | a／c | 砂粒 M2<br>海綿 S2<br>焼土 1 | (7) | |
| 22 | 甕 | SD01 | 18.2 | 3.4 | 16.2 | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ？ | b／a | 砂粒 L3<br>海綿 M2<br>焼土 1 | 8／(24) | B:14.2 C:15.6 E:2.7 F:13.5<br>外面：煤付着 |
| 23 | 甕 | SD01 | 17.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | d／d | 砂粒 M3<br>海綿 M2<br>焼土 2 | 7 | B:15.7 E:3.0 |
| 24 | 甕？ | SD01 | 14.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 S2<br>海綿 S2<br>焼土 1 | 2 | |
| 25 | 甕 | SD01 | 14.4 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 L3<br>海綿 S3<br>焼土 1 | 4 | B:12.4 E:2.5<br>外面：煤付着 |
| 26 | 甕 | SD01 | 14.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | c／c | 砂粒 L4<br>海綿 S2<br>焼土 1 | 21 | B:11.2 E:2.9<br>外面：煤付着 |
| 27 | 壷？ | SD01 | — | — | — | 口縁 ミガキ／ミガキ | a／a | 砂粒 S2<br>海綿 M2<br>焼土 1 | 2 | 内外面：赤彩か？ |
| 28 | 壷 | SD01 | 19.0 | — | — | 口縁 ミガキ／ミガキ<br>体部 ミガキ／ケズリ | b／b | 砂粒 M2<br>海綿 M2<br>焼土 1 | 19 | B:13.2 C:30.0 E:4.5 |
| 29 | 底 | SD01 | — | 4.6 | — | 体部 ハケ／ナデ？ | d／b | 砂粒 L3<br>海綿 S3<br>焼土 1 | (5) | |
| 30 | 底 | SD01 | — | 4.2 | — | 体部 ハケ／ケズリ？ | c／b | 砂粒 L2<br>海綿 M4<br>焼土 3 | (11) | |

# 粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅱ

| 挿図番号 | 器種 | 出土地点 | 計測値 | | | 成形・調整 | 色調 | 胎土 | 遺存 | 文様、記号、その他特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | 口径(A) | 底径(D) | 器高(H) | 部位 外面／内面 | 外／内 | | 口／(底) | |
| 31 | 底部 | SD01 | — | 3.6 | — | 体部 ハケ／ハケ | c／b | 砂粒 L 4<br>海綿 M 1<br>焼土 0 | (12) | |
| 32 | 底部 | SD01 | — | 3.4 | — | 体部 ハケ／ケズリ？ | c／c | 砂粒 L 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (7) | 外面：煤付着 |
| 33 | 脚台部 | SD01 | — | 20.0 | — | 脚台 ミガキ／ハケ | c／b | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (11) | 脚台部：三方に2個1対の透かし孔外面：赤彩痕 |
| 34 | 坏部 | SD01 | 21.8 | — | — | 坏 ミガキ／ミガキ | b／b | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 0 | 3 | |
| 35 | 高坏 | SD01 | — | — | — | 坏 —／ミガキ？ | b／a | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 3 | — | B:3.6 |
| 36 | 台付壷 | SD01 | 4.0 | 5.4 | 8.2 | ミガキ／ナデ | a／b | 砂粒 S 2<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 23／(17) | 口頸部：2孔一対の羽結束孔2ヶ所 外面：赤彩 体部上半：2条の直線に挟まれた格子状文が3列 体部中央：擬凹線が巡 上下端に刻み目が入った貼付凸帯 |
| 37 | 口縁部 | SD01<br>内側 | — | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | d／c | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 2 | |
| 38 | 脚部 | SD01<br>内側 | — | 16.4 | — | 脚台 ミガキ／— | a／a | 砂粒 M 3<br>海綿 M 2<br>焼土 1 | (3) | |
| 39 | 甕 | SD02 | 15.4 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ→ケズリ | c／b | 砂粒 L 4<br>海綿 S 3<br>焼土 1 | 16 | B:13.8 C:15.2 E:2.6<br>外面：煤付着 |
| 40 | 甕 | SD02 | 14.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ？ | d／d | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 2 | B:13.2 C:17.0 E:3.0<br>外面：煤付着 |
| 41 | 甕 | SD02 | 17.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／a | 砂粒 M 4<br>海綿 M 3<br>焼土 3 | 6 | B:14.6 E:2.6 |
| 42 | 甕 | SD02 | 14.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／b | 砂粒 M 4<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | 3 | 外面：煤付着 |
| 43 | 甕 | SD02 | — | — | — | ナデ／ナデ | b／a | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | — | 外面：煤付着 |
| 44 | 壷？ | SD02 | — | — | — | 頸部 ミガキ／ハケ | c／c | 砂粒 S 2<br>海綿 M 1<br>焼土 1 | — | B:10.0 外面：赤彩痕 |
| 45 | 底 | SD02 | — | 3.6 | — | 体部 ハケ／ケズリ | c／d | 砂粒 L 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (24) | 外面：煤付着<br>内面：炭化物？ |
| 46 | 底 | SD02 | — | 5.4 | — | 体部 ミガキ／ハケ | c／d | 砂粒 M 2<br>海綿 M 3<br>焼土 3 | (18) | |
| 47 | 底？ | SD02 | — | — | — | 体部 ミガキ／ナデか | b／b | 砂粒 S 2<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | (2) | 端部外面：赤彩痕 |
| 48 | 甕 | Pit1 | 19.0 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／b | 砂粒 M 2<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 3 | B:14.2 E:3.3 外面：煤付着 |
| 49 | 甕 | Pit1 | 16.0 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ナデ／ケズリ | b／b | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 — | 8 | B:14.5 E:3.2 |
| 50 | 壷 | Pit1 | 15.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | a／a | 砂粒 M 3<br>海綿 S 1<br>焼土 2 | 6 | B:11.8 E:4.7 |
| 51 | 鉢？ | Pit1 | 18.6 | — | — | 口縁 ミガキ／ミガキ | c／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | 4 | |
| 52 | 底部 | Pit1 | — | 5.0 | — | 体部 ケズリ／ナデ | c／b | 砂粒 L 2<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | (5) | 外面：煤付着 |
| 53 | 底部 | Pit1 | — | 3.2 | — | 体部 ハケ／ハケ | d／d | 砂粒 L 2<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | (12) | |
| 54 | (壷)底部 | Pit1 | | 2.8 | — | 体部 ミガキ／ナデか | c／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (24) | |
| 55 | 甕 | Pit5 | 14.0 | 3.4 | 25.1 | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | c／b | 砂粒 L 2<br>海綿 S 4<br>焼土 3 | 24／(24) | B:11.2 C:18.5 E:2.5 F:22.6<br>外面：煤付着 |
| 56 | 底部 | Pit8 | — | 5.4 | — | 体部 ハケ→ミガキ／ハケ→ナデ | b／c | 砂粒 L 3<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (24) | C:17.4 外面：煤付着 |
| 57 | 土師器甕 | SX01 | — | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ナデ | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | 5 | |
| 58 | 土師器甕 | SX01 | 16.7 | 10.0 | 19.0 | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | b／c | 砂粒 M 4<br>海綿 S 3<br>焼土 3 | 6／(24) | B:16.0 C:18.3 E:1.5 F:17.5 |
| 59 | 土師器甕 | SX01 | 16.0 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ナデ | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | 5 | B:14.1 E:2.5 |
| 60 | 土師器甕 | SX01 | 14.6 | 8.0 | 15.6 | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ナデ | d／c | 砂粒 L 2<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 7／(12) | B:13.6 C:16.2 E:1.7 F:13.9 |

# 粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅲ

| 挿図番号 | 器種 | 出土地点 遺構 | 計測値 口径(A) | 底径(D) | 器高(H) | 成形・調整 部位 外面／内面 | 色調 外／内 | 胎土 | 遺存 口／(底) | 文様、記号、その他特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 61 | 土師器甕 | SX01 | — | 11.5 | — | 体部 ハケ／ナデ | c／b | 砂粒 M 3<br>海綿 M 3<br>焼土 4 | (24) | |
| 62 | 土師器甕 | SX01 | — | 11.2 | — | 体部 ハケ／ナデ | c／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (8) | |
| 63 | 土師器甕 | SX01 | — | 13.8 | — | 体部 ハケ／ナデ | c／d | 砂粒 S 2<br>海綿 S 2<br>焼土 4 | (18) | |
| 64 | 土師器甕 | SX01 | — | 10.6 | — | 体部 ケズリ／ナデ | c／c | 砂粒 L 3<br>海綿 S 1<br>焼土 2 | (24) | |
| 65 | 土師器甕 | SX01 | — | 10.0 | — | 体部 ハケ／ナデ | c／b | 砂粒 M 3<br>海綿 M 2<br>焼土 1 | (24) | 内面 接合痕 |
| 66 | 土師器甕 | SX01 | — | 9.0 | — | 体部 ハケ／ナデ | c／d | 砂粒 M 3<br>海綿 S 2<br>焼土 3 | (24) | |
| 67 | 土師器甕 | SX01 | — | 7.4 | — | 体部 ハケ／ハケ | b／b | 砂粒 L 3<br>海綿 S 3<br>焼土 2 | (18) | |
| 68 | (短頸)壺か？ | SX01 | 11.4 | 7.0 | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ミガキ？／ナデ | b／b | 砂粒 M 1<br>海綿 S 3<br>焼土 4 | 6(16) | B:11.0 |
| 69 | (短頸)壺か？ | SX01 | 10.5 | 6.6 | (11.3) | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ミガキ／ナデ<br>底部 ケズリ／ナデ | b／b | 砂粒 M 2<br>海綿 M 3<br>焼土 3 | 5(24) | B:10.1 C:13.6 E:1.2 |
| 70 | 土師椀 | SX01 | 14.4 | — | — | 口縁 ナデ／ミガキ？<br>体部 ハケ／ミガキ？ | c／— | 砂粒 M 2<br>海綿 S 3<br>焼土 0 | 5 | 内面：黒色 |
| 71 | 土師椀 | SX01 | 14.0 | — | — | ハケ→ナデ／ミガキ | c／— | 砂粒 M 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 19 | 内面：黒色 |
| 72 | 土師椀 | SX01 | 13.6 | — | — | ナデ？／ミガキ | b／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | 6 | 外面：接合痕 |
| 73 | 土師椀 | SX01 | — | — | — | ナデ／ミガキ | c／— | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | 7 | 内面：黒色 |
| 74 | 土師椀 | SX01 | 12.4 | 5.0 | 4.0 | ナデ／ミガキ | d／— | 砂粒 M 3<br>海綿 M 2<br>焼土 1 | 6 | 内面：黒色 外面：接合痕 |
| 75 | 土師椀 | SX01 | 14.8 | 5.6 | 4.6 | ナデ→ミガキ／ミガキ | a／— | 砂粒 L 3<br>海綿 M 3<br>焼土 1 | 3／(20) | 内面：黒色 |
| 76 | 土師椀 | SX01 | — | 7.6 | — | —／ミガキ？ | b／— | 砂粒 M 2<br>海綿 S 3<br>焼土 1 | (24) | 内面：黒色 |
| 77 | 土師椀 | SX01 | — | 6.6 | — | ナデ？／ナデ？ | c／— | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 0 | (8) | 内面：黒色？<br>底部 裏面：ヘラ記「十」 |
| 78 | 椀か？ | SX01 | 9.1 | — | — | ミガキ／ミガキ | c／— | 砂粒 M 2<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 4 | 内面：黒色 |
| 79 | 小型壺 | SX01 | — | 7.4 | — | —／指押 | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 3<br>焼土 1 | (24) | B:5.4 C:11.0 F:7.4<br>内面：接合痕 |
| 80 | 底 | SX01 | — | 3.6 | — | 体部 ハケ／ハケ→ナデ | c／b | 砂粒 L 2<br>海綿 M 2<br>焼土 4 | (24) | 外面：煤付着 |
| 81 | 甕？ | SX02 | (18.4) | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／b | 砂粒 M 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | 2 | |
| 82 | 甕 | SX02 | (14.2) | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 M 4<br>焼土 2 | 1 | 外面：煤付着 |
| 83 | 甕 | SX03 | 14.6 | 3.6 | 20.4 | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ナデ | c／d | 砂粒 L 3<br>海綿 M 3<br>焼土 4 | 8／(24) | 外面：煤付着 |
| 84 | 壺？ | SX03 | (26.0) | — | — | 口縁 ミガキ／ミガキ | c／a | 砂粒 M 2<br>海綿 M 2<br>焼土 0 | 3 | |
| 85 | 甕 | SX03 | 14.7 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | a／a | 砂粒 L 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | 4 | B:12.2 E:3.0<br>外面：煤付着 |
| 86 | (壺) | SX03 | 12.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ミガキ／ケズリ？ | d／b | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | 8 | B:9.8 E:3.4 |
| 87 | 高坏脚柱 | SX03 | — | — | — | 体部 ミガキ／ナデ | b／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | — | B:3.4<br>脚部：三方透かし孔 |
| 88 | 甕 | X2区 | 17.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 M 3<br>海綿 S 3<br>焼土 3 | 3 | 外面：煤付着<br>口縁外面：擬凹線か |
| 89 | 甕 | X1区 | 16.8 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／c | 砂粒 M 4<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | 4 | 口縁部外面：擬凹線<br>B:15.3<br>E:2.6 |
| 90 | 甕 | 包含層 | 17.3 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／c | 砂粒 M 3<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | 3 | B:14.2 E:2.5<br>外面：煤付着<br>口縁部：擬凹線か？ |

# 粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅳ

| 挿図番号 | 器種 | 出土地点 遺構 | 計測値 口径(A) | 底径(D) | 器高(H) | 成形・調整 部位 外面／内面 | 色調 外／内 | 胎土 | 遺存 口／(底) | 文様、記号、その他特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 91 | 甕 | X-3.4区 | 16.9 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／b | 砂粒 M3<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 3 | B:13.3 E:3.2<br>外面：煤付着<br>口縁部:3条程擬凹線 |
| 92 | 甕 | X-3.4区 | 16.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | b／a | 砂粒 L4<br>海綿 M1<br>焼土 1 | 15 | B:13.0 E:3.5<br>外面：煤付着<br>口縁部:2～3条の擬凹線 |
| 93 | 甕 | X.A-1区 | 16.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ナデ？／ケズリ | c／c | 砂粒 M5<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 4 | B:14.4 C:15.3 E:2.6<br>外面：煤付着<br>口縁部：擬凹線？ |
| 94 | 甕？ | X.A-2.3区 | (14.6) | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケか？ | c／c | 砂粒 M3<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 7 | B:12.9 E:2.5<br>外面：煤付着<br>口縁部：擬凹線6条 |
| 95 | 甕 | A-2区 | 15.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ナデ？／ナデ | c／b | 砂粒 L2<br>海綿 S4<br>焼土 2 | 17 | B:12.8 E:3.8<br>外面：煤付着<br>肩部：刺突文 |
| 96 | 甕 | 分調 | 12.4 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | c／c | 砂粒 L2<br>海綿 M2<br>焼土 3 | 3 | B:10.8 C:15.4 E:2.7<br>外面：煤付着<br>肩部：刺突文 |
| 97 | 甕 | X-6区<br>SD01外 | 20.0 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | b／b | 砂粒 L4<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 15 | B:18.0 C:23.8 E:3.0<br>外面：煤付着<br>肩部：刺突文 |
| 98 | 甕 | X.A-3区 | 18.0 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | b／c | 砂粒 L4<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 1 | B:15.9 C:20.2 E:3.2<br>外面：煤付着<br>肩部：刺突文 |
| 99 | 甕 | X.A-3.4区 | 16.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ナデ | b／b | 砂粒 L4<br>海綿 M1<br>焼土 2 | 5 | B:13.9 E3.3<br>外面：煤付着 |
| 100 | 甕 | X.A-3.4区 | 16.4 | (3.6) | (20.6) | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | b／b | 砂粒 L3<br>海綿 M1<br>焼土 2 | 24／(—) | B:13.6 C:17.6 E:3.1<br>F:17.5 外面：煤付着 |
| 101 | 甕 | B-5区 | 18.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 M4<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 3 | B:16.0 E:2.3 |
| 102 | 甕 | X.A-3.4区 | 15.2 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | c／c | 砂粒 L3<br>海綿 M2<br>焼土 3 | 5 | B:13.6 C:16.0 E:3.4 |
| 103 | 甕 | X.A-2.3区 | 14.5 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | c／c | 砂粒 L4<br>海綿 S2<br>焼土 3 | 4 | B:12.6 C:13.0 E:3.1<br>外面：煤付着 |
| 104 | 甕 | X.A-3区 | 14.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ナデ／ハケ、ケズリ | b／b | 砂粒 L3<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 4 | B:13.0 E:3.6<br>外面：煤付着 |
| 105 | 甕 | X.A-2区 | 12.7 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | b／b | 砂粒 L3<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 24 | B:10.5 C:14.2 E:3.2<br>外面：煤付着 |
| 106 | 甕 | X-3区 | 16.3 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ナデ／ケズリ？ | c／c | 砂粒 L3<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 4 | B:14.8 E:2.6<br>外面：煤付着 |
| 107 | 甕 | X.A-1区 | 16.1 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | b／b | 砂粒 L2<br>海綿 M2<br>焼土 3 | 3 | B:12.2 E:3.0 |
| 108 | 甕 | X.A-1区 | 16.3 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | d／c | 砂粒 M3<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 2 | 口縁部：赤彩か？ |
| 109 | 甕 | X-3.4区 | 19.4 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ナデ／ハケか | b／b | 砂粒 M3<br>海綿 S3<br>焼土 2 | 6 | B:16.1 E:3.0<br>外面：煤付着 |
| 110 | 甕 | X-3.4区 | 17.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | b／b | 砂粒 L2<br>海綿 M2<br>焼土 3 | 4 | B:14.4 E:3.3<br>外面：煤付着 |
| 111 | 甕 | X-1区 | 14.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | c／a | 砂粒 L4<br>海綿 S3<br>焼土 1 | 3 | B:13.8 E:2.9 |
| 112 | 甕 | X.A-4区 | 13.0 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ | a／a | 砂粒 L4<br>海綿 S2<br>焼土 1 | 4 | B:10.0 E:2.9<br>外面：煤付着 |
| 113 | 甕 | B-2区 | 15.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ケズリ | d／d | 砂粒 M3<br>海綿 S1<br>焼土 2 | 11 | B:15.8 C:19.8 E:2.1<br>外面：煤付着 |
| 114 | 甕 | X-1区 | 17.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ／ハケ | b／c | 砂粒 L4<br>海綿 S1<br>焼土 2 | 13 | B:14.7 C:17.9 E:3.0<br>外面：煤付着 |
| 115 | 甕 | X.A-2.3区 | 12.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ハケ→ナデ／ナデ | c／c | 砂粒 L2<br>海綿 S1<br>焼土 1 | 5 | B:10.7 C:11.5 E:2.5 |
| 116 | 壷 | A-2区 | 13.5 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>頸部 ミガキ／ハケ<br>体部 ミガキ／ハケ | b／d | 砂粒 M3<br>海綿 S2<br>焼土 2 | 2 | B:11.4 E:13.0 |
| 117 | 壷？ | 2区 | 16.6 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>頸部 ハケ／ハケ | c／c | 砂粒 M2<br>海綿 M1<br>焼土 2 | 3 | |
| 118 | 壷 | A.B-6区 | — | — | — | 頸部 ハケ／ハケ<br>体部 ハケ／強い指ナデ | b／b | 砂粒 L2<br>海綿 M3<br>焼土 3 | — | B:10.4 C:18.6<br>外面：煤付着 |
| 119 | 壷？ | X-4区 | 20.4 | — | — | 口縁 ミガキ／ミガキ | b／c | 砂粒 L2<br>海綿 S3<br>焼土 2 | 3 | |
| 120 | 壷？ | X.A-3区 | 15.2 | — | — | 口縁 ミガキ／ミガキ | c／b | 砂粒 M4<br>海綿 S1<br>焼土 2 | 11 | |

# 粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅴ

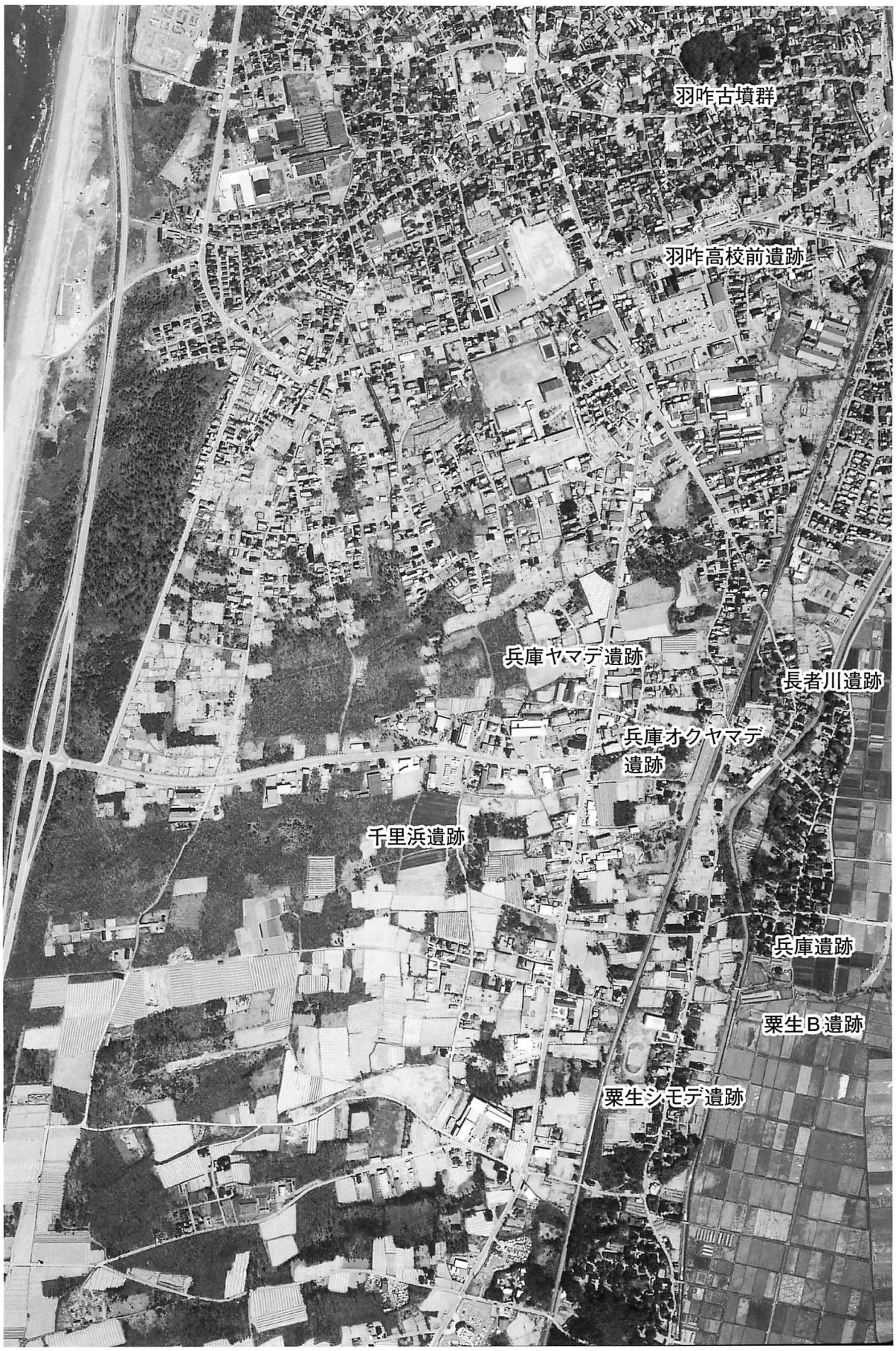
| 挿図番号 | 器種 | 出土地点 遺構 | 計測値 口径(A) | 底径(D) | 器高(H) | 成形・調整 部位 外面／内面 | 色調 外／内 | 胎土 | 遺存 口／(底) | 文様、記号、その他特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 121 | 壷 | X.A-3.4区 | 12.5 | — | — | 口縁 ナデ／ナデ<br>体部 ミガキ／ケズリ？ | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | 5 | B:10.2 E:3.4 |
| 122 | (壷)(底部) | X-3区 | — | 4.6 | — | 体部 ミガキ／ハケ→ナデ | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 1<br>焼土 2 | (16) | |
| 123 | (壷？)底部 | X-2区 | — | 3.4 | — | 体部<br>上：ハケ→ミガキ？／ケズリ<br>下：ケズリ、ナデ／→ナデ | c／c | 砂粒 L 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (19) | 外面：煤付着 |
| 124 | (壷？)底部 | A-2区 | — | 5.0 | — | 体部 ハケ／ナデ | b／a | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | (11) | 外面：煤付着 |
| 125 | (壷？)底部 | X.A-1区 | — | 6.1 | — | 体部 —／ハケ | c／c | 砂粒 S 2<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | (24) | |
| 126 | (壷？)底部 | 包含層 | — | 5.4 | — | ハケ／ナデ | b／a | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 1 | (12) | |
| 127 | 底部 | X.A-1区 | — | 2.6 | — | ハケ／ハケ→ケズリ | c／c | 砂粒 M 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (24) | 外面：煤付着 |
| 128 | 底部 | A-2区 | — | 2.2 | — | ハケ／ハケ | c／c | 砂粒 L 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (14) | 外面：煤付着 |
| 129 | 底部 | 西側斜面<br>包含層 | — | 3.2 | — | ハケ／ハケ | d／b | 砂粒 L 4<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (24) | |
| 130 | 底部 | X.A-3区 | — | 3.0 | — | ハケ→ナデ／ナデ | c／d | 砂粒 M 2<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (24) | |
| 131 | 底部 | X-1区 | — | 5.0 | — | ハケ、ケズリ／ナデ | b／b | 砂粒 L 3<br>海綿 S 2<br>焼土 3 | (24) | 外面：煤付着 |
| 132 | 底部 | X.A-2.3区 | — | 2.8 | — | ハケ→ナデ／ナデ | d／e | 砂粒 M 4<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (18) | 外面：煤付着 |
| 133 | 底部 | 北側トレンチ | — | 3.0 | — | ハケ／ナデ | c／c | 砂粒 M 4<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (24) | 外面：煤付着 |
| 134 | 底部 | X.A-1区 | — | 3.3 | — | ハケ→ケズリ／ハケ | c／c | 砂粒 M 4<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | (17) | 外面：煤付着 |
| 135 | 底部 | X.A-3区 | — | 2.6 | — | ハケ？／— | c／d | 砂粒 L 3<br>海綿 S 3<br>焼土 3 | (24) | |
| 136 | 底部 | X.A-3.4区 | — | 4.0 | — | 体部 上：ハケ<br>下：ケズリ？／ケズリ | c／c | 砂粒 L 3<br>海綿 M 2<br>焼土 4 | (24) | C:17.8 |
| 137 | 底部 | A-2区 | — | 3.4 | — | ハケ／ハケ | d／c | 砂粒 L 3<br>海綿 S 1<br>焼土 0 | (24) | 外面：煤付着 |
| 138 | 底部 | A-1区 | — | 2.8 | — | ハケ／ケズリ | b／b | 砂粒 M 4<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (15) | |
| 139 | 底部 | 6区 | — | 3.9 | — | ハケ／ナデか | a／— | 砂粒 M 3<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | (24) | 外面：煤付着 |
| 140 | 底部 | 4区<br>西側斜面 | — | 2.3 | — | ケズリ→ハケ？／ナデ | b／b | 砂粒 L 4<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | (24) | |
| 141 | (壷？)底部 | A-5区 | — | 3.3 | — | ミガキ／ナデ | b／b | 砂粒 M 4<br>海綿 S 2<br>焼土 3 | (24) | |
| 142 | (壷？)底部 | A-2.3区 | — | 3.8 | — | ミガキ／ハケ？ | c／b | 砂粒 L 3<br>海綿 S 3<br>焼土 2 | (24) | 外面：煤か？ |
| 143 | (壷？)底部 | X-3区 | — | 3.1 | — | ミガキか？／ナデ | b／c | 砂粒 S 4<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | (24) | |
| 144 | 高坏 | A-0区 | 30.6 | — | — | 坏 ハケ→ミガキ／ハケ→ミガキ | b／b | 砂粒 M 3<br>海綿 M 3<br>焼土 2 | 14 | 外面：赤彩文様 |
| 145 | 高坏？ | A-2区 | 25.3 | — | — | 坏 ミガキ／ミガキ | d／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 1<br>焼土 1 | 2 | |
| 146 | 高坏？ | C-6区 | 20.2 | — | — | 坏 —／ミガキ | d／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 4<br>焼土 3 | 3 | 外面：煤か |
| 147 | 高坏？ | X.A-3区 | — | — | — | ミガキ／ミガキ | b／b | 砂粒 S 4<br>海綿 S 4<br>焼土 2 | — | 坏口縁部と受部の剥離面にハケメ有 |
| 148 | 高坏 | 分調 | — | — | — | ミガキ／ミガキ | c／c | 砂粒 M 3<br>海綿 M 2<br>焼土 2 | — | B:4.0 |
| 149 | 高坏 | X-3.4区 | — | — | — | ミガキ／ナデか | a／b | 砂粒 M 3<br>海綿 S 2<br>焼土 1 | — | B:4.2 脚柱と受部の接合部に穿孔2ヶ所 脚台部：七方穿孔 脚台部内面：煤付着 |
| 150 | 高坏 | X-1区 | — | — | — | ミガキ／ナデ？ | c／c | 砂粒 L 2<br>海綿 S 2<br>焼土 2 | — | B:3.8 |

# 粟生シモデ遺跡出土遺物観察表Ⅵ

| 挿図番号 | 器種 | 出土地点 | 計測値 | | | 成形・調整 | 色調 | 胎土 | 遺存 | 文様、記号、その他特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 遺構 | 口径(A) | 底径(D) | 器高(H) | 部位　外面／内面 | 外／内 | | 口／(底) | |
| 151 | 高坏 | 6区 | — | — | — | 脚柱　ミガキ？／—<br>脚台　—／ハケ<br>受　—／ハケ | a／a | 砂粒　M3<br>海綿　S3<br>焼土　2 | — | B:4.1 脚柱部上面と受部の接合部 穿孔1ヶ所 |
| 152 | 高坏 | X.A-2.3区 | — | — | — | 脚柱　ミガキ／ナデ | c／c | 砂粒　L2<br>海綿　M2<br>焼土　2 | — | B:3.2<br>坏部内面：黒色、煤か？ |
| 153 | 高坏 | A-1区 | — | — | — | 脚柱　ミガキ／ナデ | a／c | 砂粒　M2<br>海綿　S3<br>焼土　2 | — | B:4.0 |
| 154 | 器台 | X.A-1区 | — | — | — | 脚柱　ミガキ／ハケ | b／c | 砂粒　M2<br>海綿　S4<br>焼土　1 | — | B:4.2 脚部 四方透孔 |
| 155 | 脚台部 | A-2区 | — | 15.8 | — | 脚台　ミガキ／ミガキ？ | b／b | 砂粒　M2<br>海綿　M3<br>焼土　3 | (5) | 外面：赤彩痕 |
| 156 | 有孔鉢？ | X.A-3.4区 | 13.3 | 4.1 | (8.3) | 粗いミガキ？／ナデ | b／c | 砂粒　L2<br>海綿　S1<br>焼土　1 | 10／(24) | 底部：穿孔1ヶ所 孔径：1.0cm<br>底部底面：脚台の剥離痕か？ |
| 157 | 有孔鉢？ | A-2区 | — | 4.0 | — | 体部　ハケ→ミガキ／ナデ | c／a | 砂粒　L3<br>海綿　S1<br>焼土　1 | —／(24) | 底部：穿孔1ヶ所<br>孔径：1.0cm |
| 158 | 台付無頸壺 | X.A-2.3区 | 8.6 | — | — | 体部　ミガキ／ナデ | a／b | 砂粒　M3<br>海綿　S3<br>焼土　2 | 12 | B:4.4 C:15.5<br>外面：赤彩(文様)痕 |
| 159 | 無頸壺 | X.A-1区 | 6.8 | — | — | 体部　ガキ／ナデ | b／c | 砂粒　M3<br>海綿　S1<br>焼土　2 | 4 | C:13.1 |
| 160 | 鉢 | X.A-3区 | 16.2 | — | — | 体部　ミガキ／ミガキ | c／c | 砂粒　M3<br>海綿　S1<br>焼土　1 | 2 | |
| 161 | 蓋 | A-2.3区 | 3.0 | 7.6 | 3.7 | 体部　ハケ／ハケ | c／b | 砂粒　L3<br>海綿　S3<br>焼土　2 | 24／(23) | 中心に穿孔1ヶ所 |
| 162 | 蓋 | X.a-1区 | 4.3 | — | — | つまみ　ミガキ／ナデ | b／b | 砂粒　M2<br>海綿　S3<br>焼土　2 | 16 | |
| 163 | 蓋？ | 0区 | 5.0 | — | — | ミガキ／ミガキ | a／a | 砂粒　M3<br>海綿　S2<br>焼土　1 | 24 | |
| 164 | 小型土器 | X.A-3区 | — | 4.1 | — | 体部　ミガキ？／指押、ナデ | c／d | 砂粒　S2<br>海綿　S1<br>焼土　1 | (24) | |
| 165 | 脚台部 | X-2区 | — | 8.7 | — | 体部　ミガキ／ナデ | c／c | 砂粒　L2<br>海綿　M2<br>焼土　3 | (15) | |
| 166 | 須恵器蓋 | 包含層 | 3.1 | — | — | ナデ／ナデ | —／— | 砂粒　M2<br>海綿　—<br>焼土　— | 24 | |
| 167 | 土師器蓋？ | A-3区 | — | 8.0 | — | 体部　ナデ／ナデ | c／c | 砂粒　M1<br>海綿　S2<br>焼土　2 | (18) | |
| 168 | 土師器壺？ | 北側トレンチ | — | 6.0 | — | 体部　ナデ／ナデ | a／a | 砂粒　M2<br>海綿　M2<br>焼土　4 | (12) | 外面：接合痕 |
| 169 | 底部 | 北側トレンチ | — | 5.6 | — | 体部　ハケ／— | b／— | 砂粒　L2<br>海綿　S3<br>焼土　1 | (18) | 内面：黒色 |
| 170 | 底部 | 包含層 | — | 5.6 | — | 体部　ハケ／— | c／— | 砂粒　L2<br>海綿　S2<br>焼土　0 | (12) | 底部裏面：ヘラ記「十」<br>内面：黒色 |
| 171 | 椀？ | 北側トレンチ | — | — | — | 体部　ナデ／— | a／a | 砂粒　M2<br>海綿　M2<br>焼土　2 | 7 | |
| 172 | 鉢？ | X.A-2.3区 | 19.5 | — | — | 体部　ハケ／ケズリ | c／c | 砂粒　L2<br>海綿　S2<br>焼土　2 | 2 | |
| 173 | 土錘 | 分調 | — | — | — | | c／— | 砂粒　M2<br>海綿　S2<br>焼土　2 | — | 長：3.4 径3.7 孔径：0.7 |
| 174 | 把手 | 包含層 | — | — | — | | a／— | 砂粒　L3<br>海綿　S2<br>焼土　4 | — | 接合部：断面方形の突出有 |

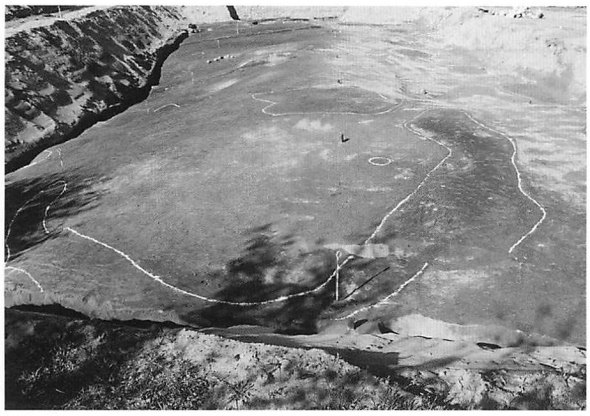
# 粟生シモデ遺跡写真　図版


| | | |
|---|---|---|
| 図版１ | １ | 周辺の垂直写真 |
| 図版２ | １ | 遺構検出状況（北より） |
| | ２ | ＳＤ01遺構検出状況 |
| | ３ | ＳＸ01遺構検出状況 |
| | ４ | ＳＸ01遺物出土状況（１） |
| | ５ | ＳＸ01遺物出土状況（２） |
| 図版３ | １ | 銅鏃出土状況 |
| | ２ | Pit5遺物出土状況 |
| | ３ | 勾玉未製品等出土状況 |
| | ４ | 勾玉未製品出土状況 |
| | ５ | ＳＫ15遺物出土状況 |
| | ６ | ＳＤ01遺物出土状況 |
| | ７ | ＳＫ10遺物出土状況（１） |
| | ８ | ＳＫ10遺物出土状況（２） |
| 図版４ | １ | ＳＫ06土層断面 |
| | ２ | ＳＫ08･09土層断面 |
| | ３ | ＳＫ10土層断面 |
| | ４ | ＳＫ11･12土層断面 |
| | ５ | ＳＫ13土層断面 |
| | ６ | ＳＫ15土層断面 |
| | ７ | ＳＫ17土層断面 |
| | ８ | ＳＫ20土層断面 |
| 図版５ | １ | ＳＤ01完掘状況(南より) |
| | ２ | ＳＤ01土層断面（Ａ－Ａ′） |
| | ３ | ＳＤ01土層断面（Ｂ－Ｂ′） |
| | ４ | ＳＤ01土層断面（Ｃ－Ｃ′） |
| | ５ | ＳＤ01土層断面（Ｄ－Ｄ′） |
| 図版６ | １ | 完掘状況（北より） |
| | ２ | 完掘状況（南より） |
| 図版７ | ＳＫ04･07･08･10･15･20出土土器 | |
| 図版８ | ＳＫ19、ＳＤ01･02出土土器 | |
| 図版９ | Pit1･5･8、ＳＸ02･03･01出土土器 | |
| 図版10 | ＳＸ01及び包含層出土土器 | |
| 図版11 | 包含層出土土器２ | |
| 図版12 | 石製品及び金属製品 | |


羽咋古墳群
羽咋高校前遺跡
兵庫ヤマデ遺跡
長者川遺跡
兵庫オクヤマデ
遺跡
千里浜遺跡
兵庫遺跡
粟生B遺跡
粟生シモデ遺跡

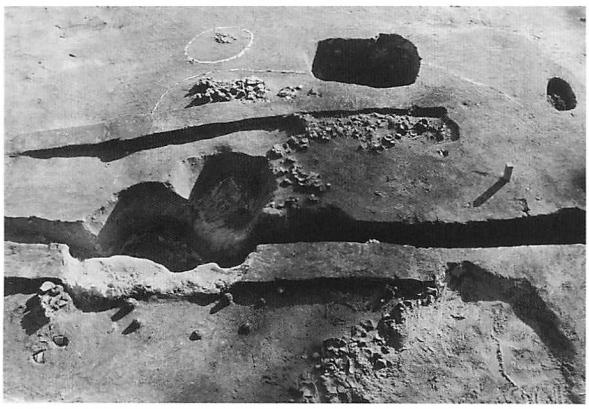
1　周辺の垂直写真

1　遺構検出土状況（北より）



2　SD01 遺構検出土状況

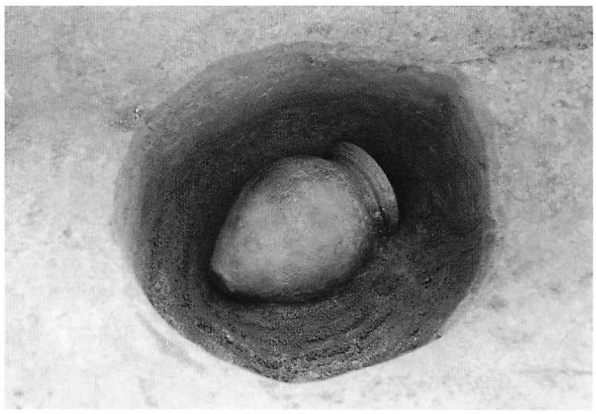
3　SX01 遺構検出土状況



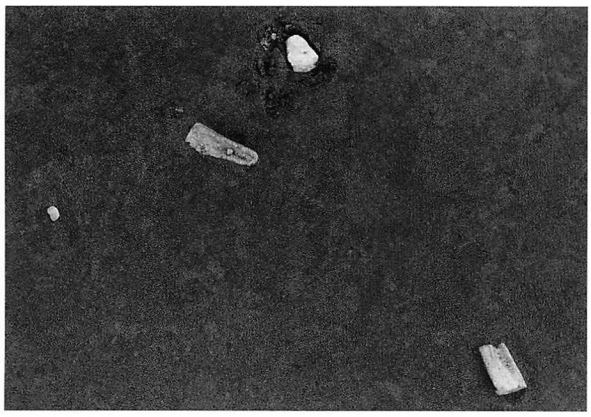
4　SX01 遺物検出土状況（1）

5　SX01 遺物検出土状況（2）

1　銅鏃出土状況

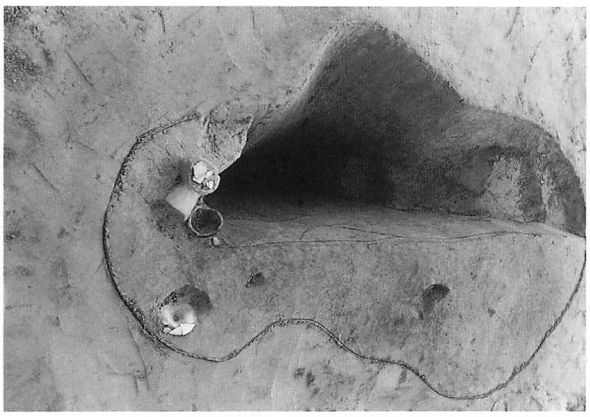


2　Pit5 遺物出土状況



3　勾玉未製品等出土状況

4　勾玉未製品出土状況

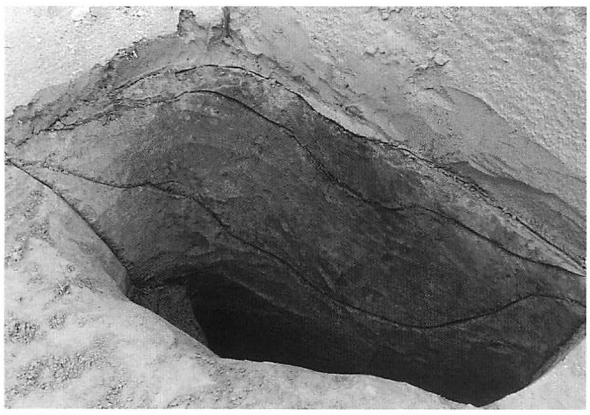


5　SK15 遺物出土状況

6　SD01 遺物出土状況

7　SK10 遺物出土状況（1）

8　SK10 遺物出土状況（2）



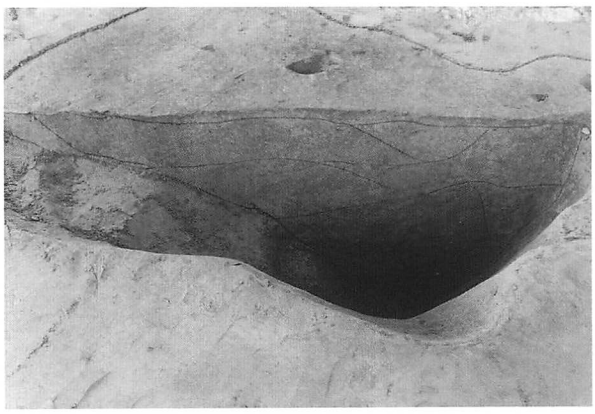
1　SK06 土層断面

2　SK08・09 土層断面

3　SK10 土層断面

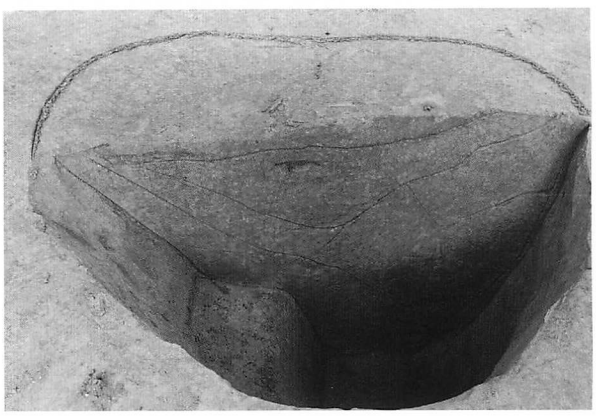
4　SK11・12 土層断面

5　SK13土層断面



6　SK15 土層断面

7　SK17 土層断面

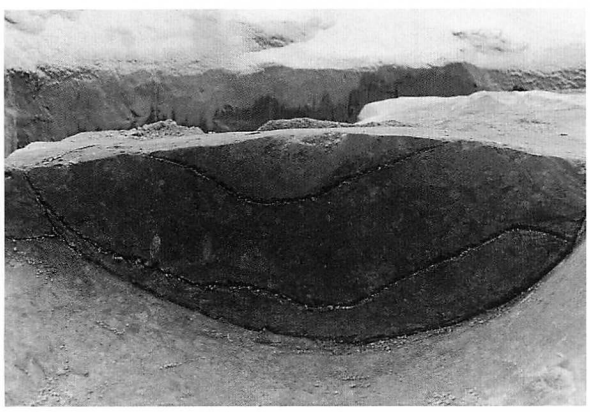


8　SK20 土層断面

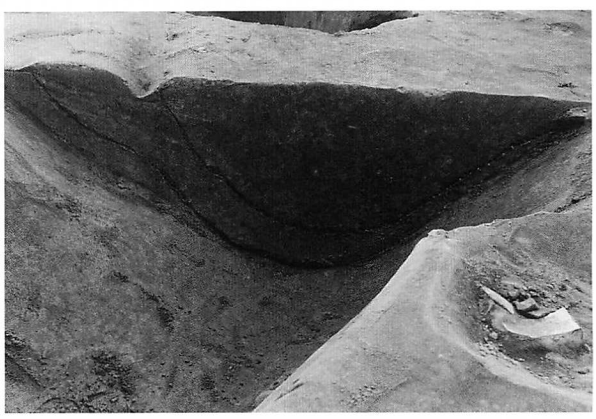
1　SD01完掘状況（南より）

2　SD01土層断面（A－A′）

3　SD01土層断面（B－B′）



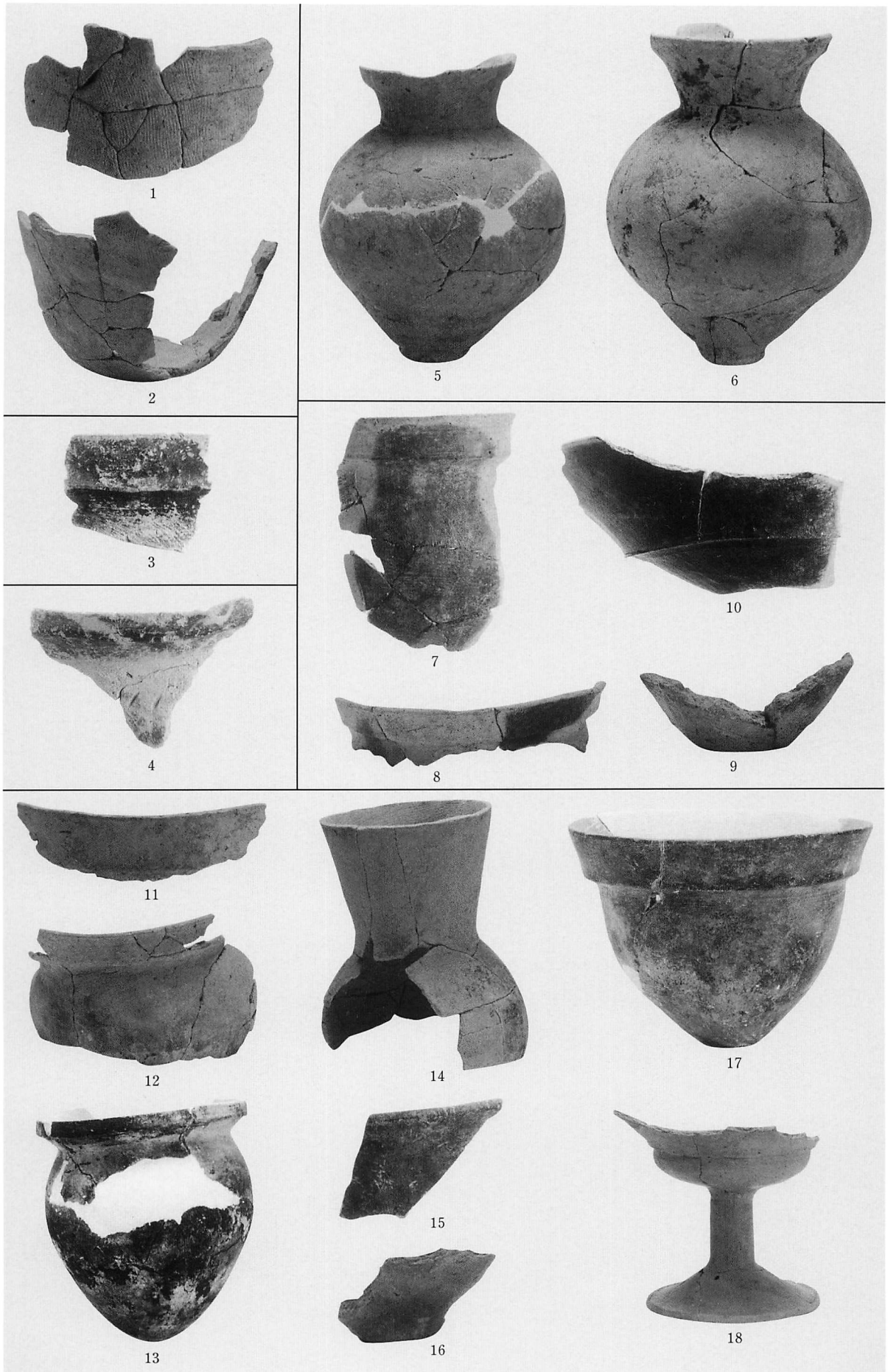
4　SD01土層断面（C－C′）



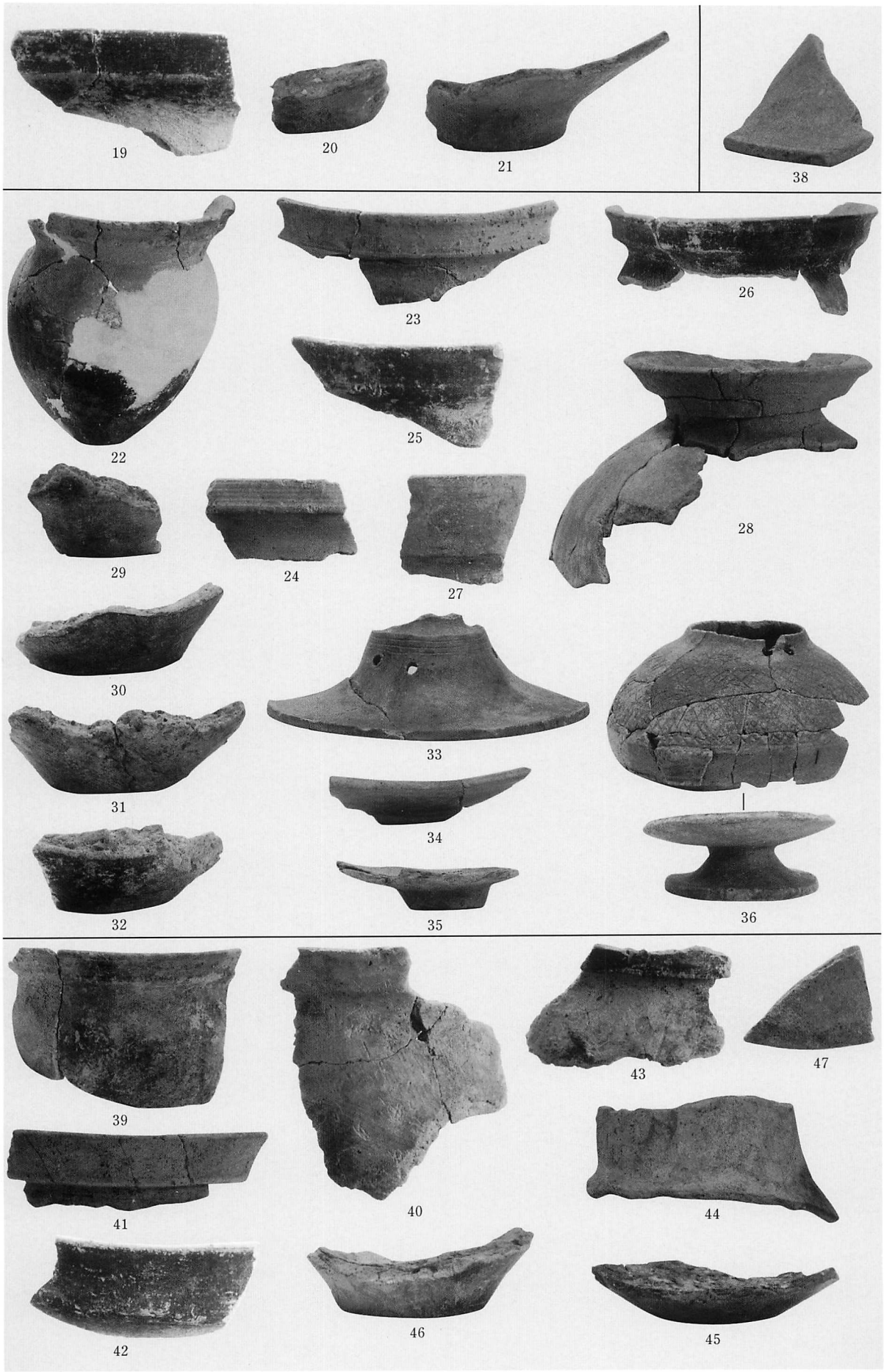
5　SD01土層断面（D－D′）

1　完掘状況（北より）

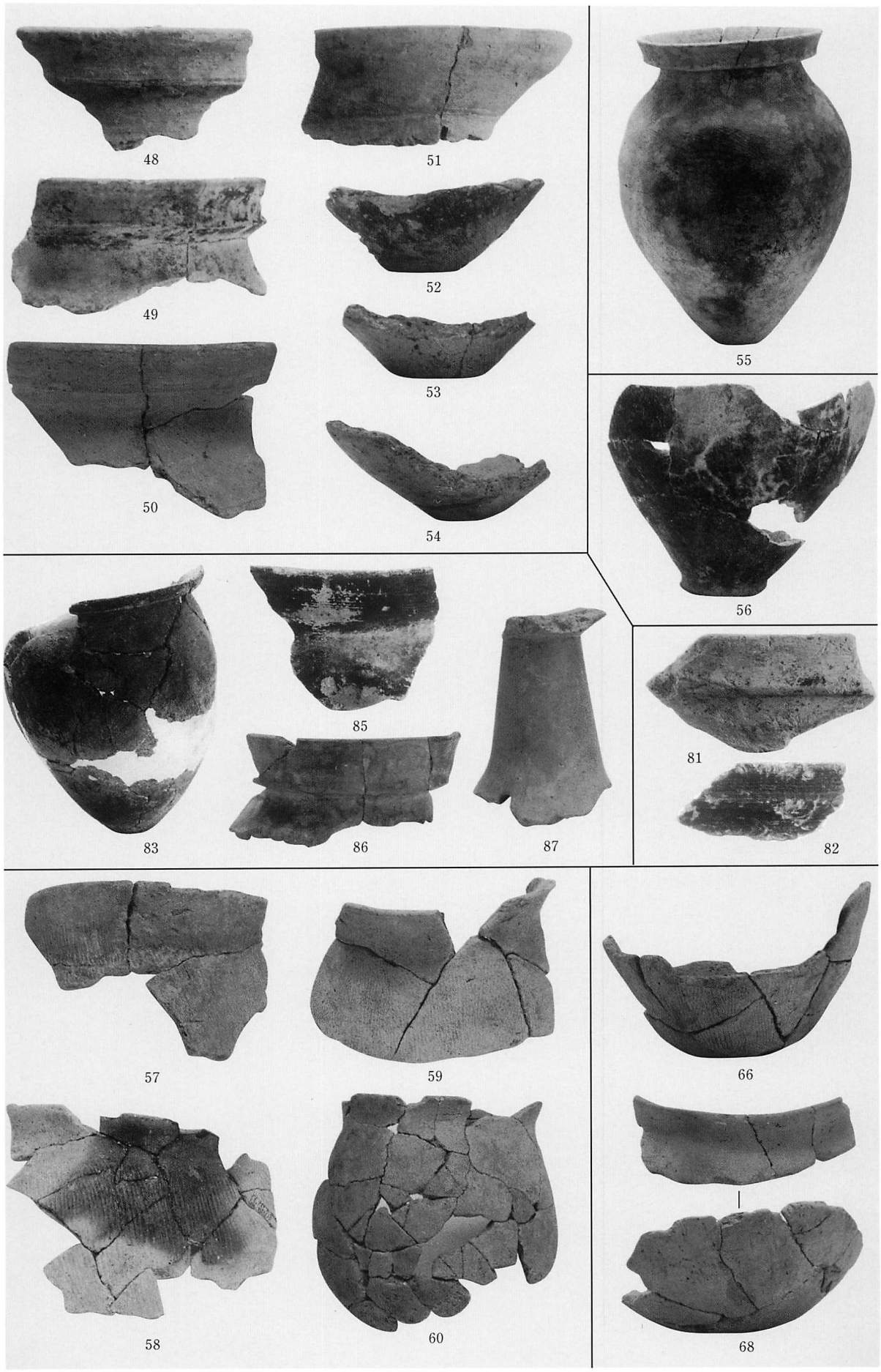
2　完掘状況（南より）



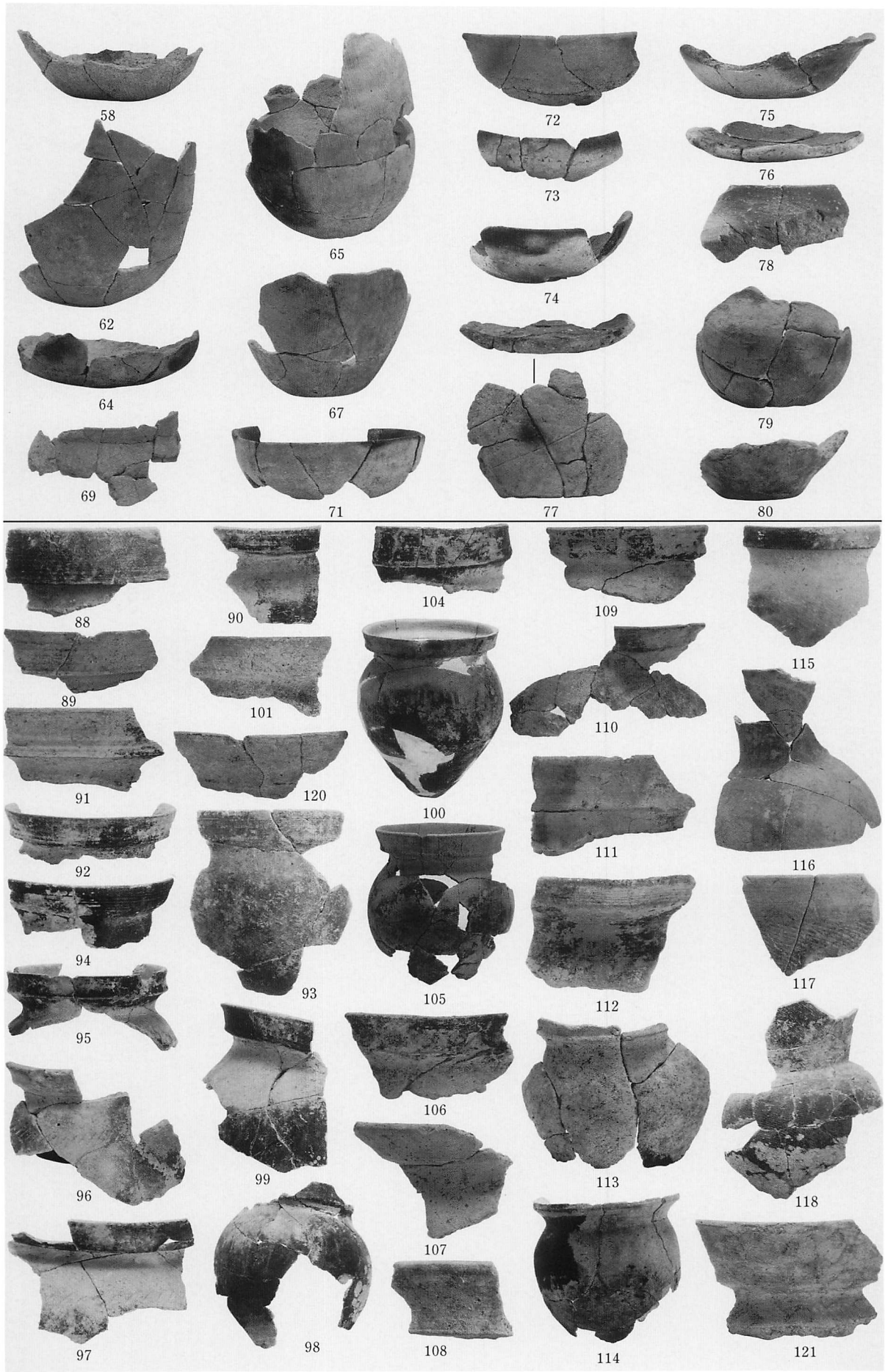

SK04・07・08・10・15・20 出土土器



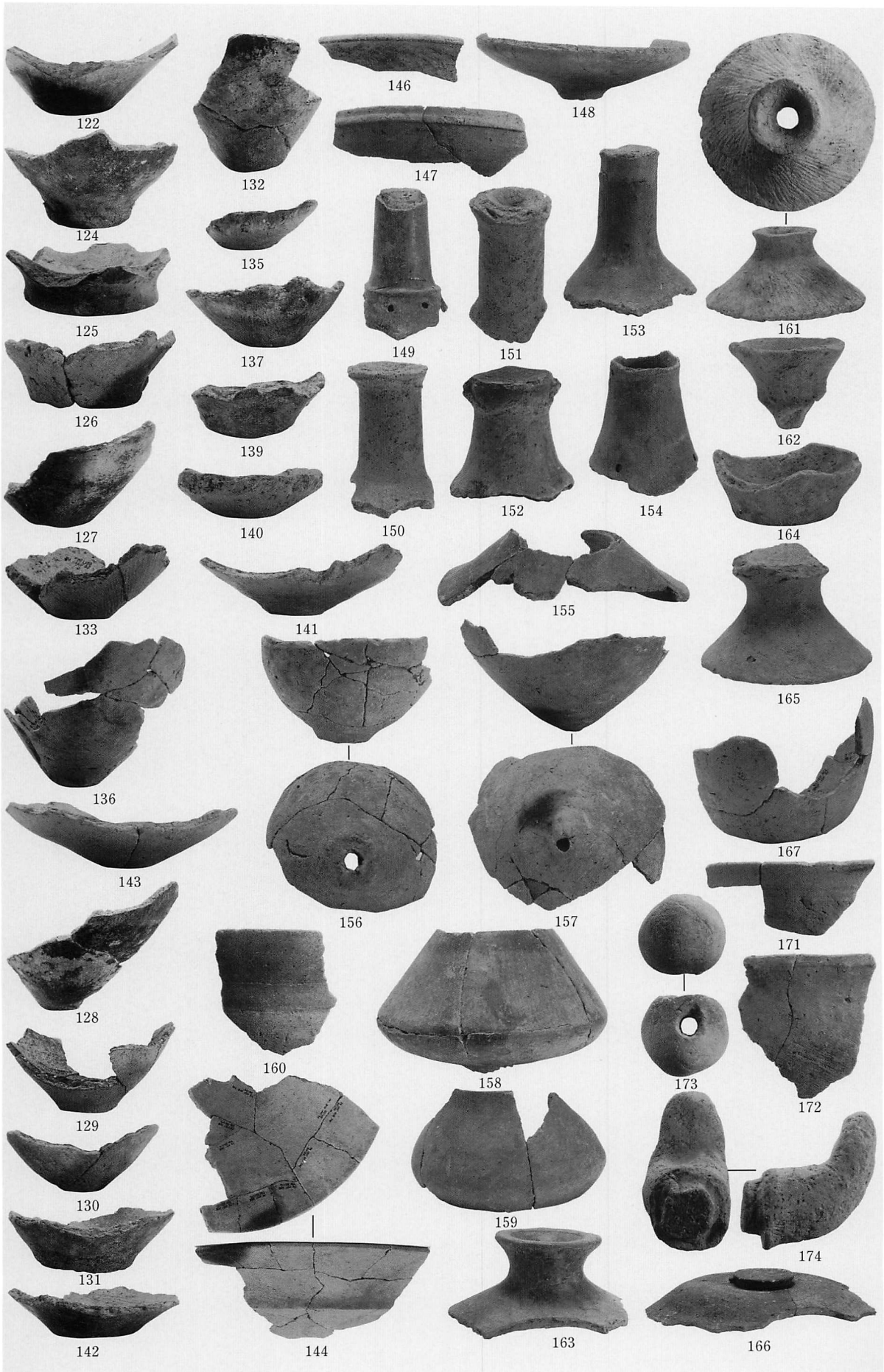

SK19・SD01・02 出土土器



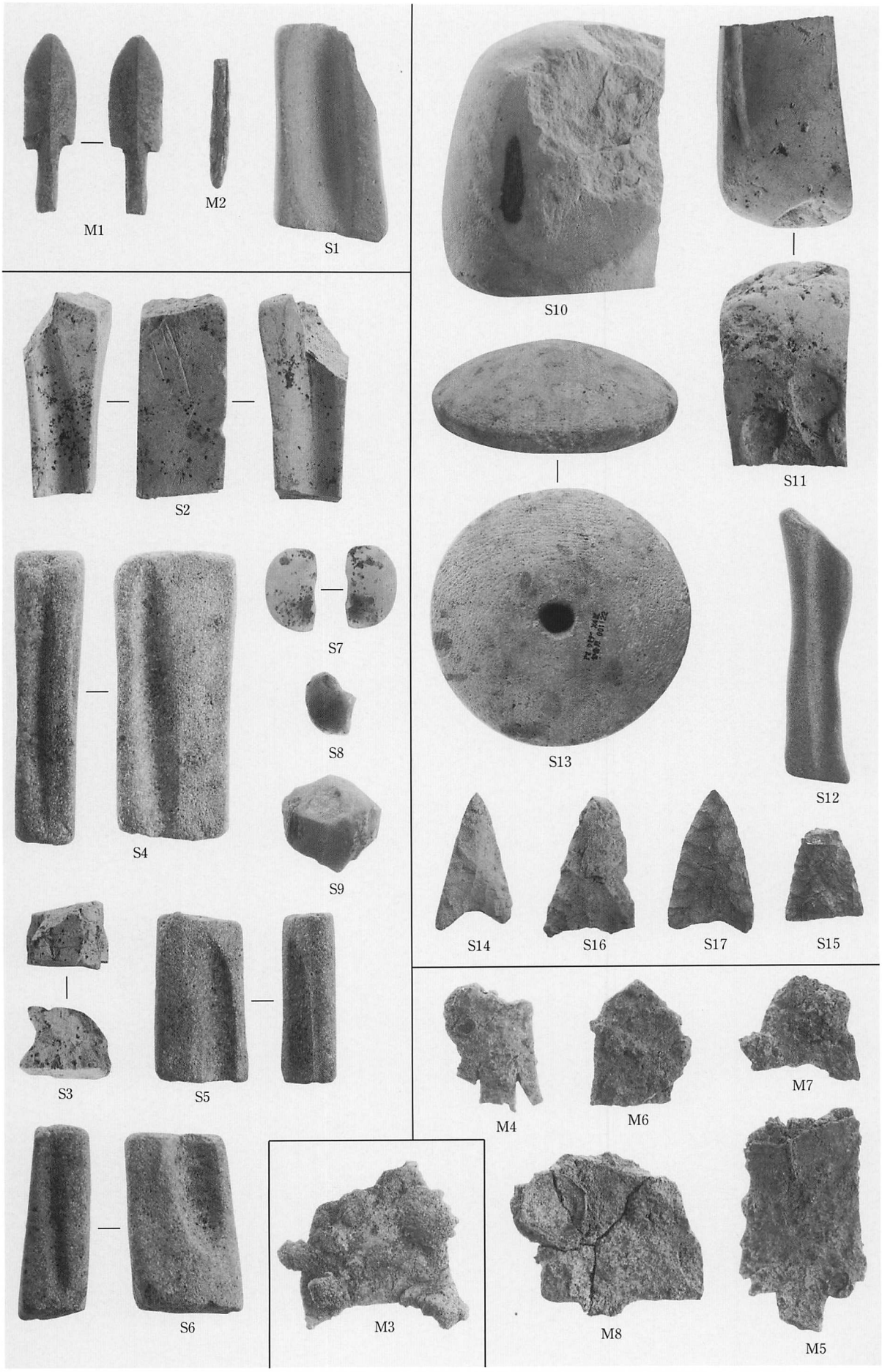

Pit1・5・8、SX02・03・01 出土土器




SX01及び包含層 出土土器


122
124
125
126
127
133
136
143
128
129
130
131
142
132
135
137
139
140
141
144
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
171
172
173
174

包含層 出土土器2


M1
M2
S1
S10
S11
S2
S13
S12
S7
S8
S4
S9
S14
S16
S17
S15
S3
S5
M4
M6
M7
S6
M3
M8
M5

石製品及び金属製品

# 報　告　書　抄　録

| | |
|---|---|
| ふりがな | あおしもでいせき |
| 書　　名 | 粟生シモデ遺跡 |
| 副 書 名 | 羽咋市立粟ノ保小学校改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 編著者名 | 宮下　栄仁　　牧山　直樹　　小林　直樹 |
| 編集機関 | 羽咋市教育委員会 |
| 所 在 地 | 〒925－0027　石川県羽咋市鶴多町亀田17　℡　0767－22－7131㈹ |
| 発行年月日 | 西暦　2002年３月29日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所 在 地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調 査 期 間 | 調査面積（㎡） | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 粟生（あお）シモデ遺跡 | 石川県（いしかわけん）羽咋市（はくいし）粟生（あお）町 | 17207 | 07139 | 36°52′42″ | 136°46′53″ | 発掘調査<br>2000.10.3～<br>2000.11.30 | 400 | 小学校改築 |

| 所収遺跡名 | 種 別 | 主 な 時 代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特 記 事 項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 粟生シモデ遺跡 | 集 落 | 弥生時代終末期～古墳時代初頭 | 大型土坑、周溝 | 弥生土器、須恵器、銅鏃、勾玉未製品、玉砥石 | |

# 粟生シモデ遺跡

羽咋市立粟ノ保小学校改築事業に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成14年(2002) 3 月29日発行

編集・発行　石川県羽咋市教育委員会
石川県羽咋市鶴多町亀田17
〒925-0027
電話（0767）22－7131㈹

印　　刷　㈱ハクイ印刷